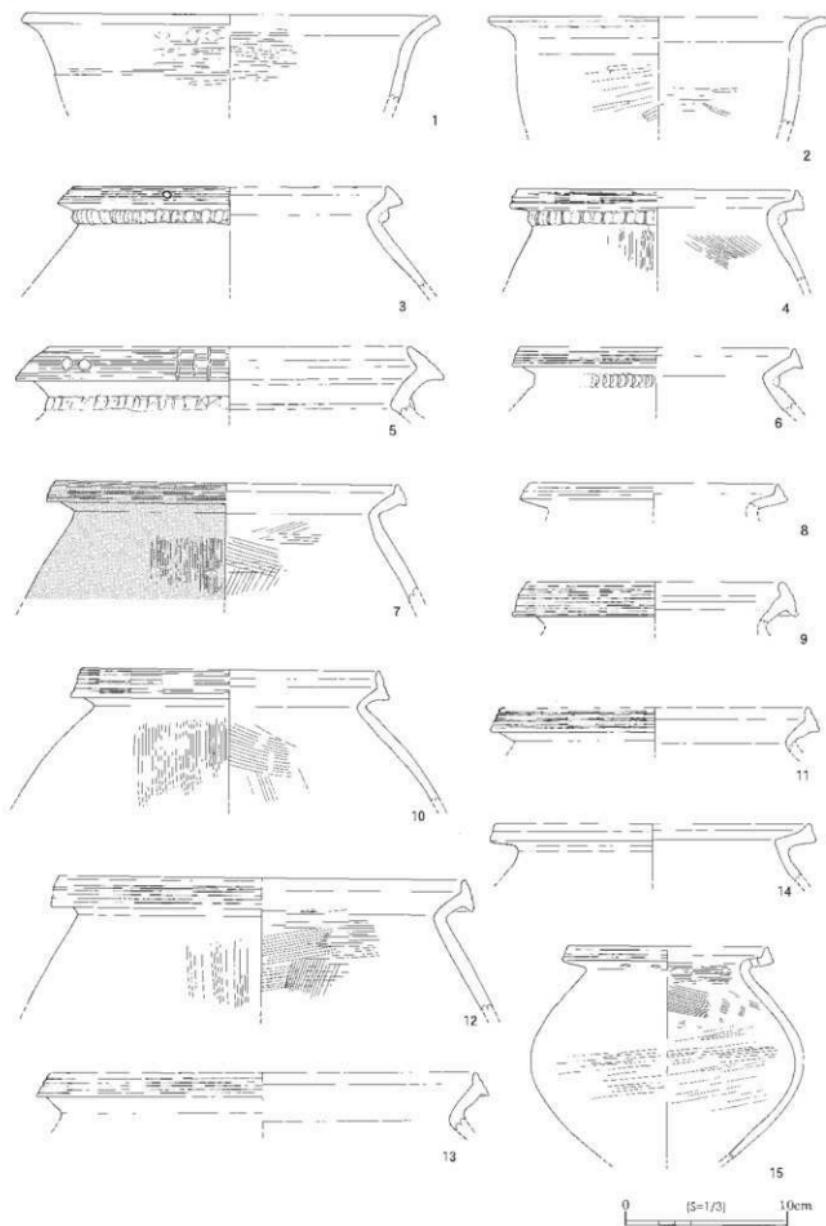


第7表 4号墓関連遺物 観察表①

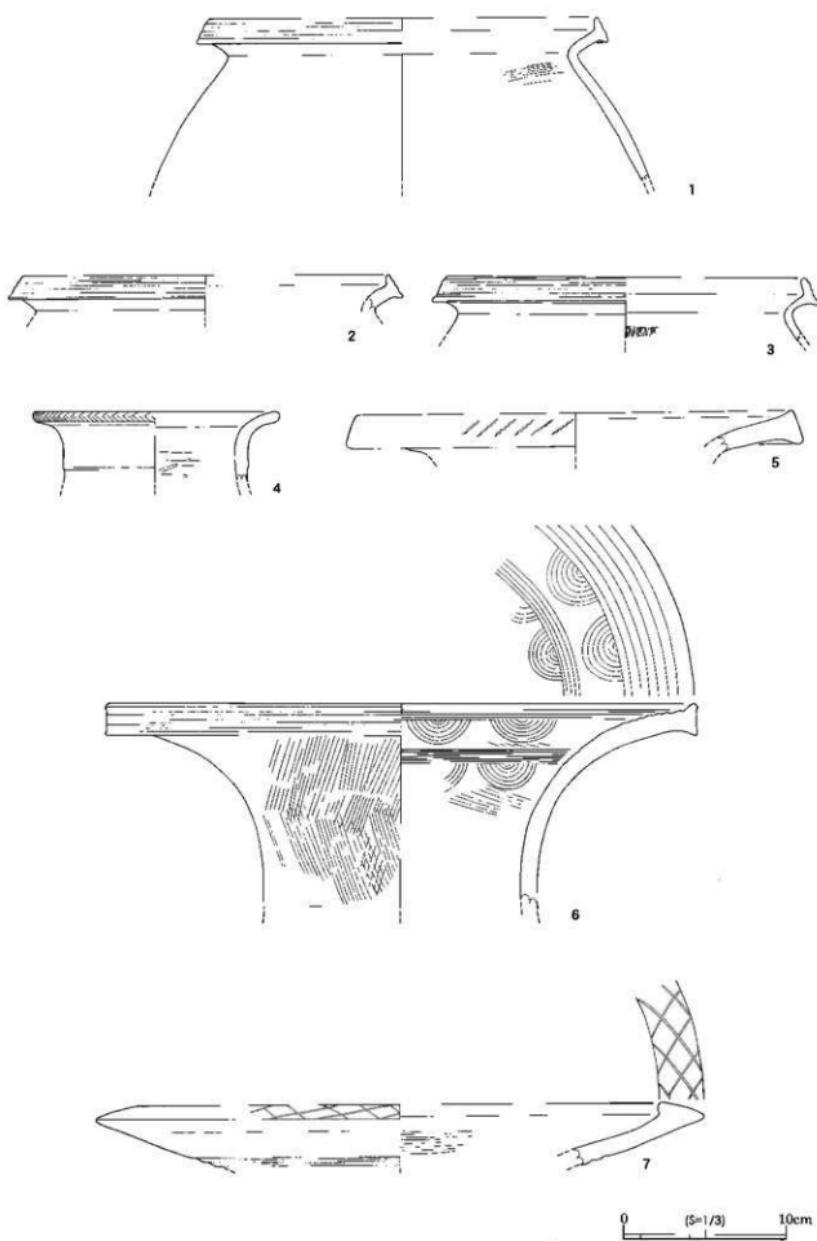
番号	種別	器種	口径	高さ	基高	残存率	調査	色調	説文・備考
第41回									
1	弊生土器	甕	25.2			口縁全周の10%	内面：ヘラミガキ/外面：ヘラミガキ・赤頭底灰	内外面：灰褐色	前期 瓶部にわずかな段
2	弊生土器	甕	21.0			口縁全周の10%	内外面：ヘラミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	
3	弊生土器	甕	19.2			口縁全周の20%	内面：削減の為不明	内面：灰褐色2 外面：灰褐色2	口縁部に3条の凹線及び円形浮文あり。頭部に割付突起文。
4	弊生土器	甕	17.0			口縁全周の20%	内面：口部ナデか、剥部ハケメ 外面：剥部ハケメ	内面：灰白色 外側：純褐色	口縁部に2条の凹線、頭部に割付突起文。
5	弊生土器	甕	22.0			口縁全周の20%	内外面：ナデか	内面：桃褐色3 外面：桃褐色1	口縁部外面に株状浮文と円形浮文。
6	弊生土器	甕	17.0			口縁全周の10%	内面：口縁部ヨコナデ、剥部削減の為不明/外面：ヨコナデ	内外面：純褐色1	口縁部に3条の凹線、頭部に手造音状工具による割突文。
7	弊生土器	甕	21.0			口縁全周の20%	内面：口縁部不明、頭部ナデ、剥部ハケメ/外面：口縁部不明、剥部ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰白色	口縁部に3条の凹線、外側本色削れあり。
8	弊生土器	甕	15.4			口縁全周の10%	内外面：ヨコナデ	内面：灰褐色1 外面：灰白色	口縁部に2条の凹線。
9	弊生土器	甕	15.6			口縁全周の25%	内外面：ヨコナデ	内外面：灰褐色1	口縁部に5条の凹線。
10	弊生土器	甕	18.2			口縁全周の25%	内面：口縁部削減の為不明、剥部ハケメ/外面：口縁部ヨコナデか、剥部ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰白色	口縁部に3条の凹線。
11	弊生土器	甕	18.8			口縁全周の25%	内外面：ヨコナデか	内外面：灰褐色1	口縁部に3条の凹線。
12	弊生土器	甕	25.0			口縁全周の10%	内面：口縁部不明、剥部ハケメ/外面：ハケメ	内外面：灰白色1	口縁部に4条の凹線。
13	弊生土器	甕	26.0			口縁全周の10%	内外面：ヨコナデ	内外面：灰褐色1	口縁部に3条の凹線。
14	弊生土器	甕	19.4			口縁全周の10%	内面：削減の為不明/外面：ヨコナデ	内外面：灰褐色3	
15	弊生土器	甕	12.0	16.8		全体の20%	内面：頭部・ヘラミガキ、剥部ヘラミガキ・ハケメ/外面：口縁部上半削減の為不明、剥部下半ヘラミガキ	内外面：灰褐色1	頭部に2方向の小孔あり。口縁部に2条の凹線。剥部内面に株状の茶褐色痕付有

第8表 4号墓関連遺物 観察表②

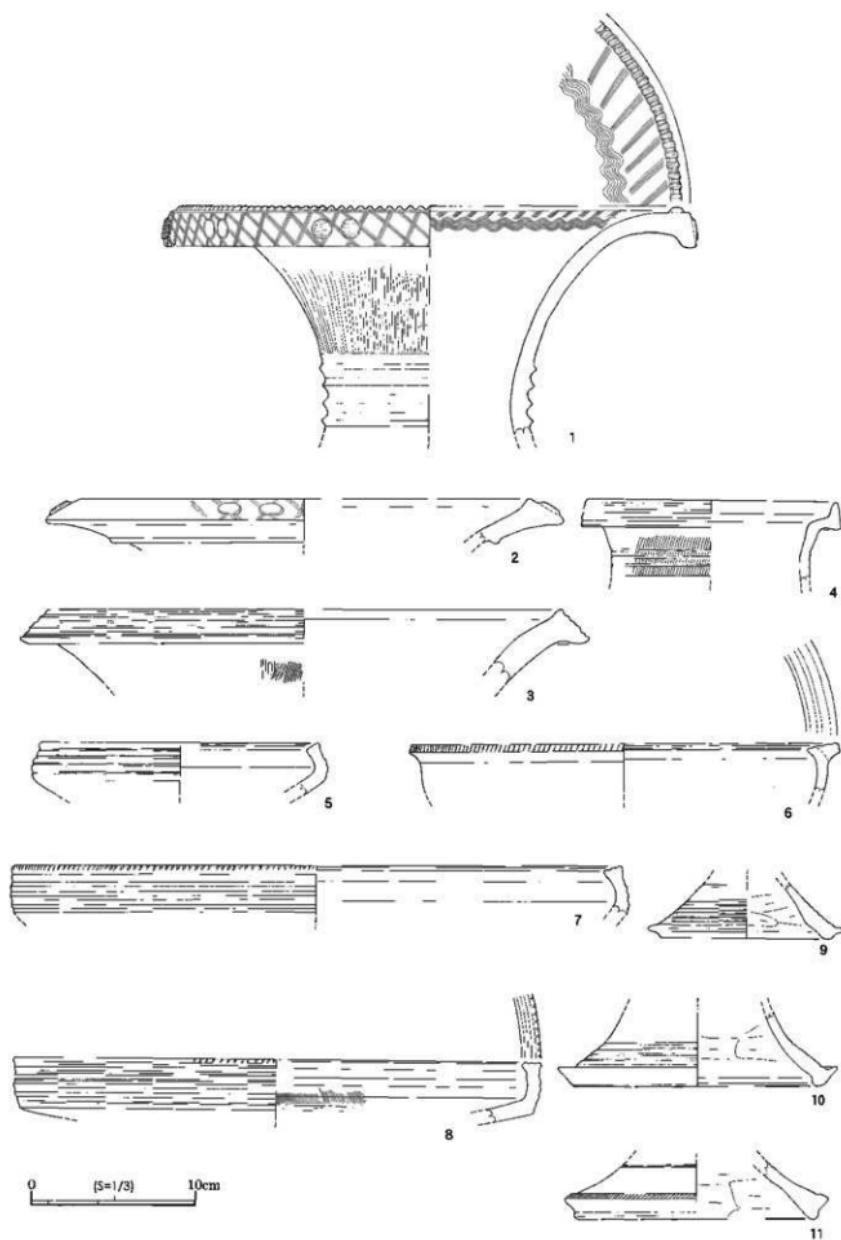
器種別	種類	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第42回								
1 弁生土器	壺	23.6			口縁全周の30%	内面：頸部ハケメ/外面：磨滅の為不明	内外面：灰褐色1	口縁部に3条の凹線
2 弁生土器	壺	22.2			口縁全周の10%	内外面：ヨコナデ	内外面：灰褐色1	口縁部に3条の凹線
3 弁生土器	壺	21.8			口縁全周の10%	内面：ヨコナデ/外面：口縁部一部 ヨコナデ、腹部ハケメ	内外面：灰褐色1	口縁部に4条の凹線
4 弁生土器	壺	15.0			口縁全周の10%	内面：ヘラミガキ/外面：磨滅の為不明	内外面：灰褐色1	口縁部に羽状文 頸部に段
5 弁生土器	広口壺	26.4			口縁全周の10%	内面：ヨコナデ/外面：ヨコナデ、口縁部は磨滅の為不明	内面：灰褐色3 外面：灰褐色1	口縁部に刺突文(瓦礫状工具か)
6 弁生土器	広口壺	36.0			口縁部20% 内面：ハケメ、ナデ/外面：ハケメ	内面：灰白色 外面：灰褐色1	口縁部に4条の凹線、口縁部上面に7条の凹線、東弘文、 イネの凹線	—
7 弁生土器	広口壺	31.6			口縁全周の10% 内面：ヨコナデ、ヘラミガキ/外面：ヨコナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁部上面に斜格子文、底部 に凹線	—
第43回								
1 弁生土器	広口壺	31.6			口縁～頸部 内面：不明/外面：ナデ及び指彌压 痕、ヘラミガキ、ヨコナデ	内面：灰褐色1 外面：黒褐色1	口縁部に斜格子文、円形浮文、 口縁部上面に削り穴、沈線、 波状文 口縁内側に黒斑	—
2 弁生土器	広口壺	27.2			口縁全周の10% 内外面：磨滅の為不明	内外面：灰褐色1	口縁部に斜格子文、円形浮文、刻目	—
3 弁生土器	広口壺	31.2			口縁全周の10% 内面：ヨコナデ/外面：ヨコナデ、 ハケメ	内面：灰白色 外面：灰褐色1	口縁部下方に肥厚、3条の凹線	—
4 弁生土器	壺	15.0			口縁全周の20% 内面：不明/外面：口縁部ナデ、 頭部ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁部に3条の凹線 頸部に 沈線	—
5 弁生土器	高杯	17.0			口縁全周の10% 内外面：不明	内外面：灰褐色1	口縁端部に2条の沈線 口縁 外面に4条の凹線	—
6 弁生土器	高杯	26.0			口縁全周の10% 内面：不明/外面：ヨコナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁端部を左右に拡張、上面 に4条の沈線、外側にヘラ状 工具による刺突文	—
7 弁生土器	高杯	37.2			口縁全周の10% 内外面：ヨコナデ	内外面：灰褐色2	口縁部に刻目、3条の凹線、 口縁部上面に2条の凹線 口 縁部上面に黒斑	—
8 弁生土器	高杯	32.0			口縁全周の10% 内面：ヨコナデ、ハケメ、ヘラミ ガキ/外面：磨滅の為不明	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	口縁部上面に2条の凹線 外 向刻目状に刺突文、6条の凹 線	—
9 弁生土器	高杯	10.2			頭部全周の25% 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ/外面： ヨコナデ	内面：灰褐色1	凹線 文字の可能性あり	—
10 弁生土器	高杯	11.4			頭部全周の10% 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ/外面： ヨコナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	凹線文	—
11 弁生土器	高杯	11.4			頭部全周の10% 内面：ヘラケズリ/外面：ヨコナデ か	内面：灰褐色2 外面：灰白色	脚端部にヘラ状工具による刺 突文	—



第41図 4号墓関連遺物実測図①

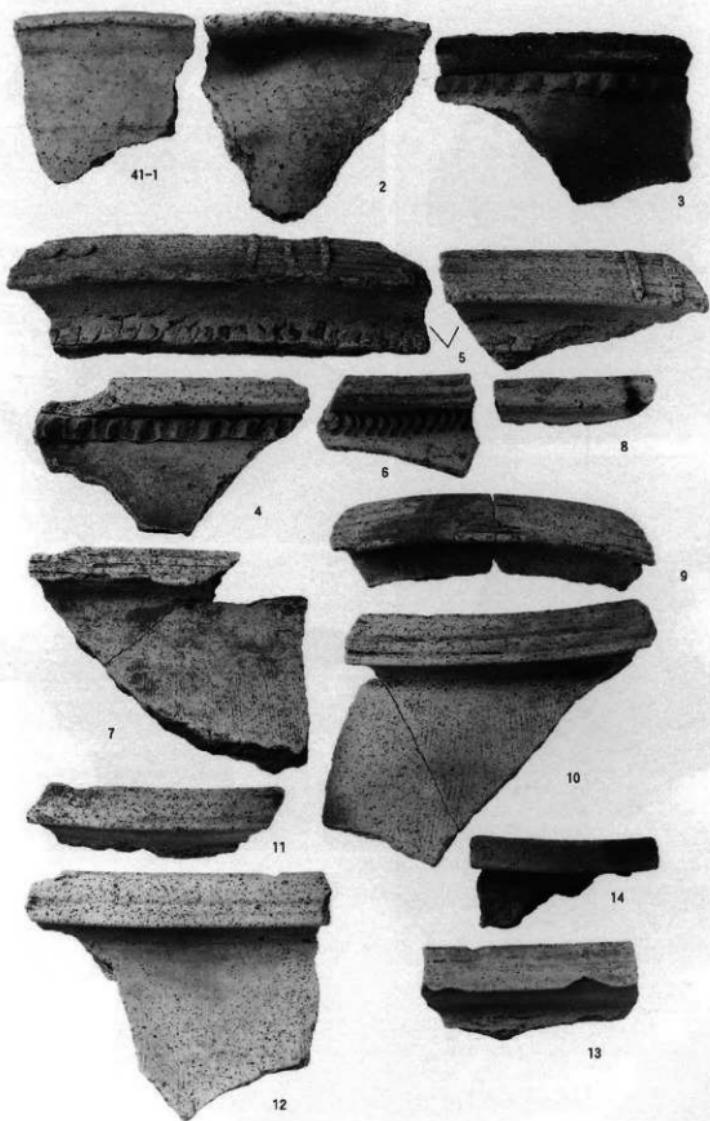


第42図 4号墓関連遺物実測図②



第43図 4号墓関連遺物実測図③

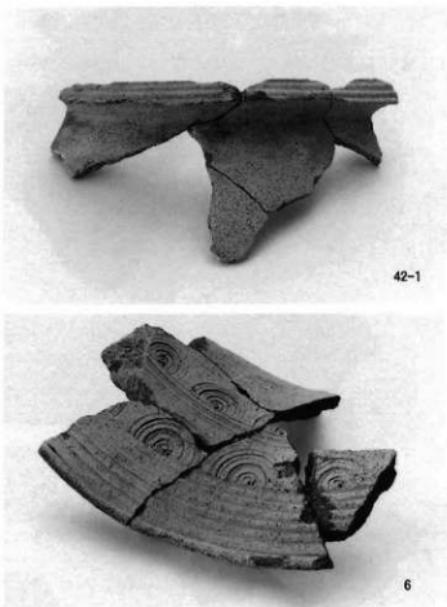
写真図版二二八 四号墓関連遺物



写真図版二九
四号墓関連遺物



41-15



42-1

6

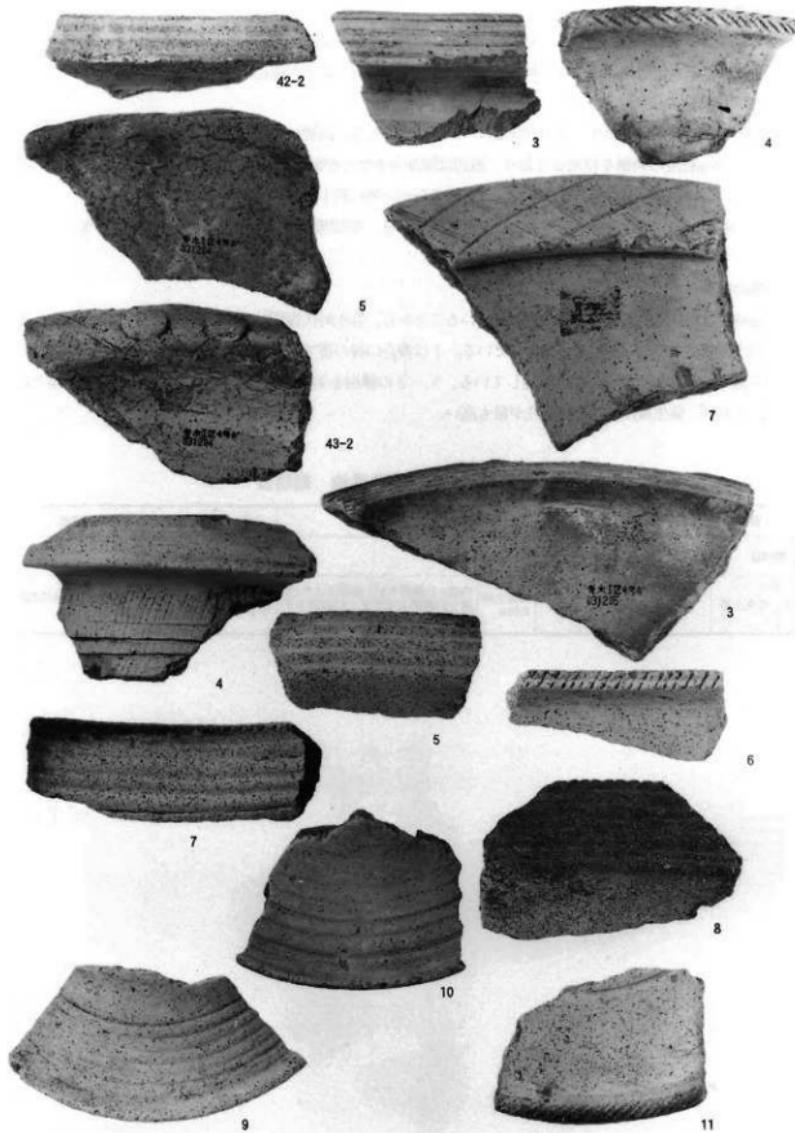


43-1



写真図版三〇

四号墓関連遺物



5. 5号墓

位置と残存状況

5号墓は1区中央やや南寄り、2号墓の南約4m、標高約3.6mに位置する方形貼石墓である。遺存状況は極めて不良で、埴丘は流失しており石が散乱しているような状況であるが南辺を除く3辺を確認した。

規模と貼石状況

平面形は方形を呈しており、主軸方向はN-18°-Wをとる。規模は南北約6m以上、東西約7mを測る。貼石は20~50cm程度の角砾を使用しており、西辺は隅部分を欠くが貼石が40個程度遺存している。北辺は石の流れが著しいが15個程度遺存している。東辺は7個の石が一列に約1m並んで遺存している。

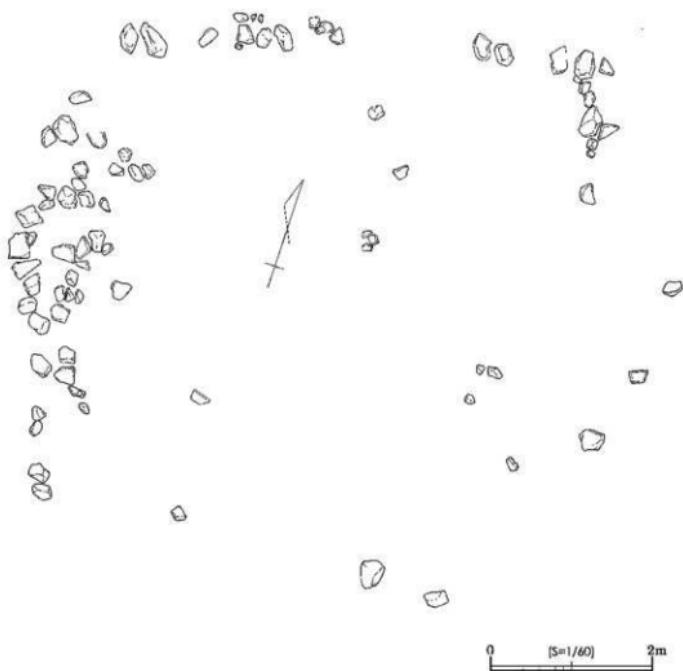
埴丘の築造は第12層包含層を基盤面として造られており、その周囲に周溝は認められなかった。また、埋葬施設も確認できなかった。

5号墓の時期

築造時期は第12層を基盤面として造られていることから、弥生時代後期前葉～後葉と推定される。なお、第44図1の土器のみが埴丘貼石内から出土している。1は複合口縁の甕で、外傾してのびる口縁部の外面に多条の擬凹線を施し、頸部外面にも擬凹線を施している。V-3の様相を示していると考えられる。これが5号墓と近い時期とすれば、弥生後期後葉の可能性が最も高い。

第9表 5号墓関連遺物 観察表

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	説文・備考
第44回									
1 弥生土器	甕	(30.0)			口縁全周 の10%	内面：口縁部ナゲ、肩部ミガキ/外 面：口縁部上半ナゲ、口縁部下半 ～肩部ミガキ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色3	的場式 内面に15条の擬凹線 内外面に黒斑	



第44図 5号墓平面図及び出土遺物実測図

写真図版三一

弥生時代の遺構／貼石墓／五号墓



5号墓

6. 6号墓

位置と残存状況

調査区南西側、5号墓の西10m、標高約3.1mに位置する方形貼石墓であるが、トレンチによって確認したため全体の調査は行っていない。検出したのは北西隅部分だけであるため、規模は不明であるが、平面形は明確には判断できないが方形を呈するものと思われる。ただ、石の遺存状況によると思われるが現状では隅部分の傾斜角は直角ではない。

貼石の状況

埴丘斜面は20°の傾斜をもち、斜面に貼石を施している。貼石に使われている石は拳大～30cm程度のものであるが、埴堀部分には拳大の石を使用しており、北辺では特にその傾向がうかがえる。隅部分では約30cmのやや大きめの石を2段貼り付けている。

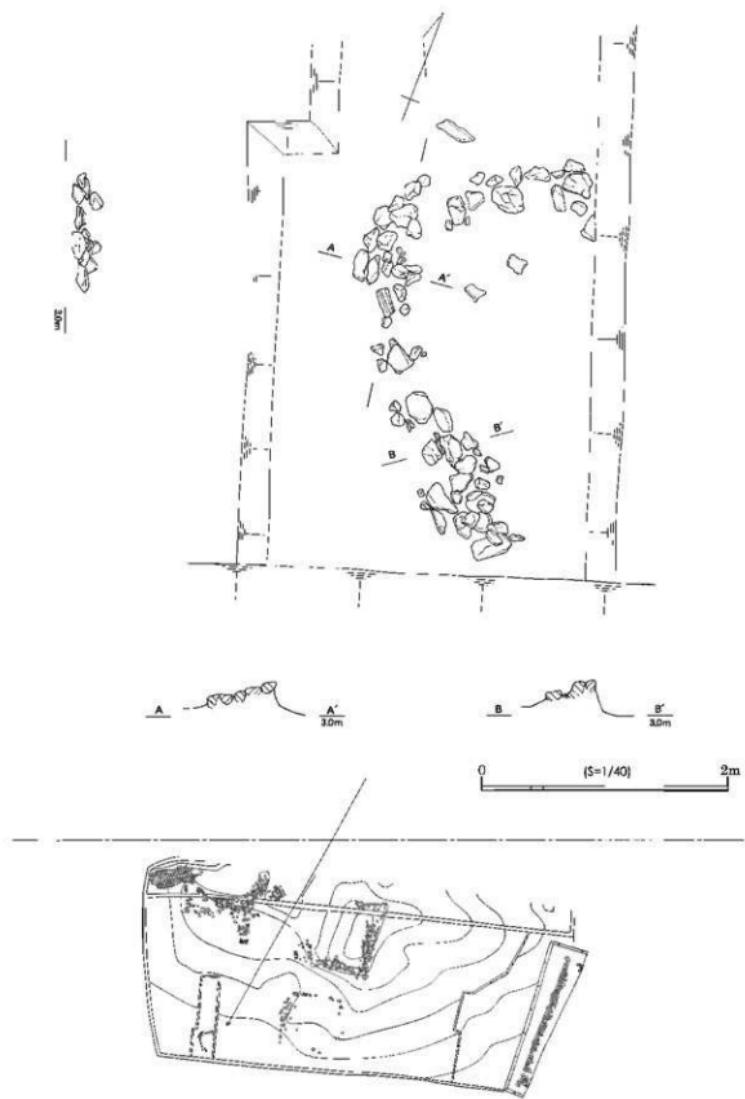
埴丘の築造は4号墓と同じ無造物層の砂砾層を基盤面として造られており、他の埴丘墓同様に周囲には周溝は認められなかった。

6号墓関連遺物（第46図）

6号墓の覆土内出土遺物である。図示したものは6号墓を直接被覆している土層中のもの以外に、上層から二次的に混入したものが含まれている。1は口縁部が突出してのびる壺口縁部である。Ⅲ-1の様相を示す。2は鉢で口縁部は内傾してのび端部は平らに近く、端部外面に刻み目を施している。3、4は高杯の坏部である。3は口縁部が内湾し口縁端部が肥厚する。端部上面に凹線文、端部側面に波状文を施す。4は肥厚して平らに近い口縁端部を有し、側面に刻み目を施している。これらはⅢ-1～2の様相を示している。5～9は複合口縁の壺である。5は口縁部が短めで外面に4条の凹線文を施し、肩部にヘラ状工具による刺突文を施している。6は口縁外面に擬凹線を施し、肩部にヘラ状工具による刺突文を施している。7、8は口縁外面に4～5条の凹線文を施している。9はL口縁外面に凹線・擬凹線を施さないものである。10は口縁部を欠く壺で、脚部がよく張り平底を呈する。11は高杯の脚部で、ハの字状に開く脚部である。12は器台の受け部である。受け部は短くのび外面に擬凹線を施している。

6号墓の時期

覆土中とした遺物には、前記のとおり上層から混入したものが含まれており時期の決め手にならない。上層の関係からみると1号墓など後期後葉のものより明らかに一段階古く、構築面は4号墓（中期後葉以前）と同一である。よって、時間幅があるが、6号墓の築造時期は弥生中期後葉～後期中葉と推定される。



第45図 6号墓実測図

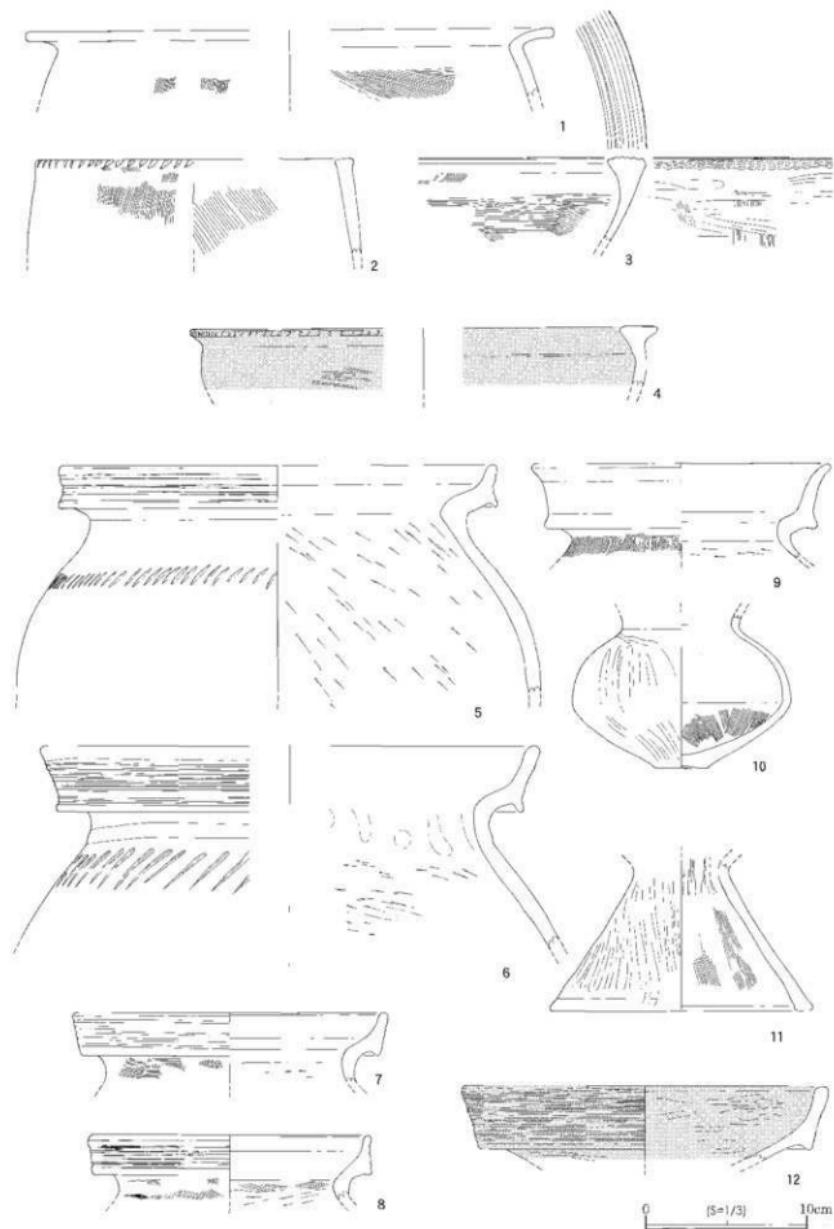
写真図版三二 弥生時代の遺構／貼石墓／六号墓



上：東から
下：北から

第10表 6号墓関連遺物 観察表

番号	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第46組								
1. 幼生土器	甕	(32.6)			口縁～腹部 全周の10%	内面：口縁部～頸部ナデ、頸部ハ ケメ／外面：口縁部～頸部ナデ、頸 部ハケメ後ナデ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色3	外表面付着
2. 幼生土器	鉢	(19.6)			口縁全周の 10%	内外面：ナデ、ハケメ	内外面：灰褐色2	中期 口縁に刻目文
3. 弥生土器	高杯				小口	内面：ナデ、ハケメ／外面：ナデ、 ハケメ後ミガキ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色1	口縁上面に5条の凹線、口縁 に4-5条の波状文
4. 幼生土器	高杯	(28.6)			口縁全周の 10%	内面：ナデ／外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色1	赤彩 口縁刻目文
5. 幼生土器	甕	26.6			口縁全周の 90%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ／外 面：ナデ	内外面：灰褐色1	後期 4条の凹線 肩部に斜 行刻文文
6. 幼生土器	甕	(30.6)			口縁全周の 30%	内面：口縁部ナデ、頸部折頸状、 肩部ケズリ／外面：ナデ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色2	後期 口縁に9条の擬凹線 肩部に斜行刻文
7. 弥生土器	甕	(19.0)			口縁全周の 30%	内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ／外 面：口縁部ナデ、頸部ハケメ	内面：棕褐色2 外面：煤付者のため不明	後期 口縁に5条の擬凹線。 外面に煤付者。
8. 幼生土器	甕	17.0			口縁全周の 60%	内面：口縁部ナデ、頸部ハケメ、 肩部ケズリ／外面：ナデ、ハケメ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色3	後期 口縁に4条の凹線 外 面に煤付者
9. 弥生土器	甕	(18.0)			口縁全周の 30%	内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ／外 面：口縁部ナデ、頸部ナデ後ハケ メ	内外面：灰褐色3	後期
10. 幼生土器	壺	3.2			全体の25%	内面：頸部上半ナデ、頸部下半ハ ケメ後ナデ／外面：頸部ナデ、頸部 ナデ後ミガキ	内面：灰白色 外面：棕褐色1	後期
11. 幼生土器	高杯 脚部		(16.0)		脚部全周の 25%	内面：シボリ、ハケメ後ナデ／外 面：ナデ、ミガキ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色1	
12. 幼生土器	器台	(22.2)			口縁全周の 20%	内面：ミガキ、ケズリ後ミガキ／外 面：ミガキ	内外面：灰褐色1	赤彩 口縁に12条の擬凹線 外面に黒斑

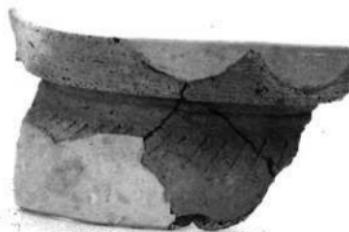


第46図 6号墓関連遺物実測図

写真図版三三一 六号墓関連遺物



46-5



6



10



9



7



8



1



2



4



3



11



12

7. 7号墓・8号墓・9号墓

位置関係と概要

7～9号墓は貼石墓とみられる遺構で、IV区の東端、3号墓の南側に位置している。それぞれが重なり合うように近接しているが、3つの異なる遺構と判断されたため7～9号墓とした。なお、調査中の遺構名は7号墓がIJ06、8号墓がIJ05、9号墓がIJ01であり、報告書作成段階で遺構名を改めた。これら3つの遺構は傾斜面上に貼石を施す特徴からみて貼石墓に類した埋葬遺構と想定されるが、その平面形や規模には不明な点が多い。後述するような根拠から、7号墓が一辺6.5mの方形貼石墓で、半円形の8号墓と方形（？）の9号墓は7号墓の付随施設として付設された貼石凹面と考えられる。

7号墓の残存状況と規模・構造

7号墓は、残存状況で見る限り直線的に右が配列されることから、極めて残存状況の悪い方形貼石墓ではないかと考えられる。この右列の南側には調査時にIJ11とした傾斜をもつ貼石遺構があり、これが7号墓の南辺にあたる可能性がある。そうした場合、規模は南北6.5mと復元される。想定される埴丘のうち南側は特に損壊が著しく、当初は貼石墓の存在が認識できなかった。発掘調査時には10m四方のグリッド単位で掘削をしており、特に遺存状態の悪い南側から掘削を始めたために、破壊された貼石墓であることに気付くのが遅れてしまったのも一因である。原位置を保っているIJ11を検出する以前に、移動して二次的な堆積となっていた石材が多く確認しているが、遺構ではないと判断して除去した。これらの存在を勘案すると、7号墓は改變を受けて石材が壊乱した状態で遺存していたとみられる。

残存していた高さは約40cmで、15～25cm大の亜角砾を不規則に積み上げる。8・9号墓より、石材は小さい。裾部に立石などの施設はみられない。埴丘の中央部は崖にいたるまで擾乱を受けているため、埋葬施設の痕跡を確認することはできなかった。埴丘上面は削平を受けていると考えられる。この削平は、四隅突出型埴丘墓3号墓が削られたのと同段階の可能性がある。

8号墓の残存状況と規模・構造

8号墓は半円形を呈する貼石遺構で、7号墓の北辺に重なる形で検出された。8号墓の一部を断ち切ったところ、7号墓の直線的な貼石は8号墓の埴丘内に残されていることが確認されたため、本来の7号墓の埴丘貼石を埋め戻したかたちで付設されたものと判断される。東端のごく一部は調査区の東溝にかかり失われているが、規模は南北1.4m、東西（弧の直径）3.0mとなる。残存高は40cm、貼石は3段程度残っていた。石は最下段と2段目が小さく10～20cm大、3段目がひとまわり大きく25～30cm大で、いずれも角が若干円滑された亜角砾。平坦面を外面にそろえたものが一部に含まれるが、全体的には凹凸が大きい。裾部に列石などの加飾は無い。

8号墓の機能としては、7号墓に付設された円形埴丘を志向する埋葬遺構と想定しうる。上面（埴丘頂部）は南北0.9m×東西1.9mあり十分埋葬ができる面積があるが、上面精査および一部に断ち割りをおこなっても埋葬施設の存在を検出することができなかった。

9号墓の残存状況と規模・構造

9号墓は北西から南東に延びる貼石遺構で、3号墓と7号墓にはさまれる位置で検出された。貼石の傾斜から北東側が崖で、南西側へ埴丘の本体がひろがるものとみられる。北西側は3号墓の下にもぐってさらに延びるように観察されたが、3号墓の列石を保存するためにそれ以上は追いかけていない。南東端は8号墓の手前20cmで直角に折れて角をなし、7号墓と接するあたりで石がまばらになる。8号墓とは平面的に重複しない。明確な切り合い関係が無いために新旧を断定することができないが、7号墓の北辺が西へ続くのに対して9号墓の貼石は7号墓と接する箇所で途切れることから、7号墓が最も古く9号墓がそれに付随する新しいものと考えた。9号墓が角をなして8号墓の位置を避けているとみれば、8号墓→9号墓という順も想定できよう。しかしながら、9号墓の主軸は7号墓に対して45°折れており、規模も付随施設とみるとには大きすぎる感がある。可能性として、

9号墓が独立した方形貼石墓で7号墓と相互に切り合っているという解釈や、むしろ7号墓のほうが新しいという解釈が成り立つ余地がある。

9号墓の規模は、検出できた範囲で貼石の長さ3.6m、幅90cm、高さ45cm。20~30cmの角ばった亜角礫を積む。石の円溝度は7・8号墓のものより進んでいないもので、破面の稜が鋭く残るものも含まれる。南東端の角となるように観察される部分では、あたかも踏石状石列のように、ひとまわり大きく平坦な面をもつ石が3個、角のライン上に並んで配列される(写真図版35)。これらの石は斜面の貼石より円溝が進み、稜が丸みをもつていて、視覚的にも異質な印象を受ける。必ずしも踏石状の列として意識された石列かどうか断定できないが、2つの斜面が交わる角として意識された配列であることはうかがえる。なお並んだ3つの石の北側に接して、もうひとつ同規模同質の石が置かれており、現状ではかなり失われているものの角付近にこのような大きめ面をもつ石をまとめて配置していた可能性が残る。

遺物の出土状況と時期

第49図に関連する遺物の実測図を示した。1と2は7号墓の墳丘内から出土したもの、3~8は8・9号墓の被覆土中から出土したものである。

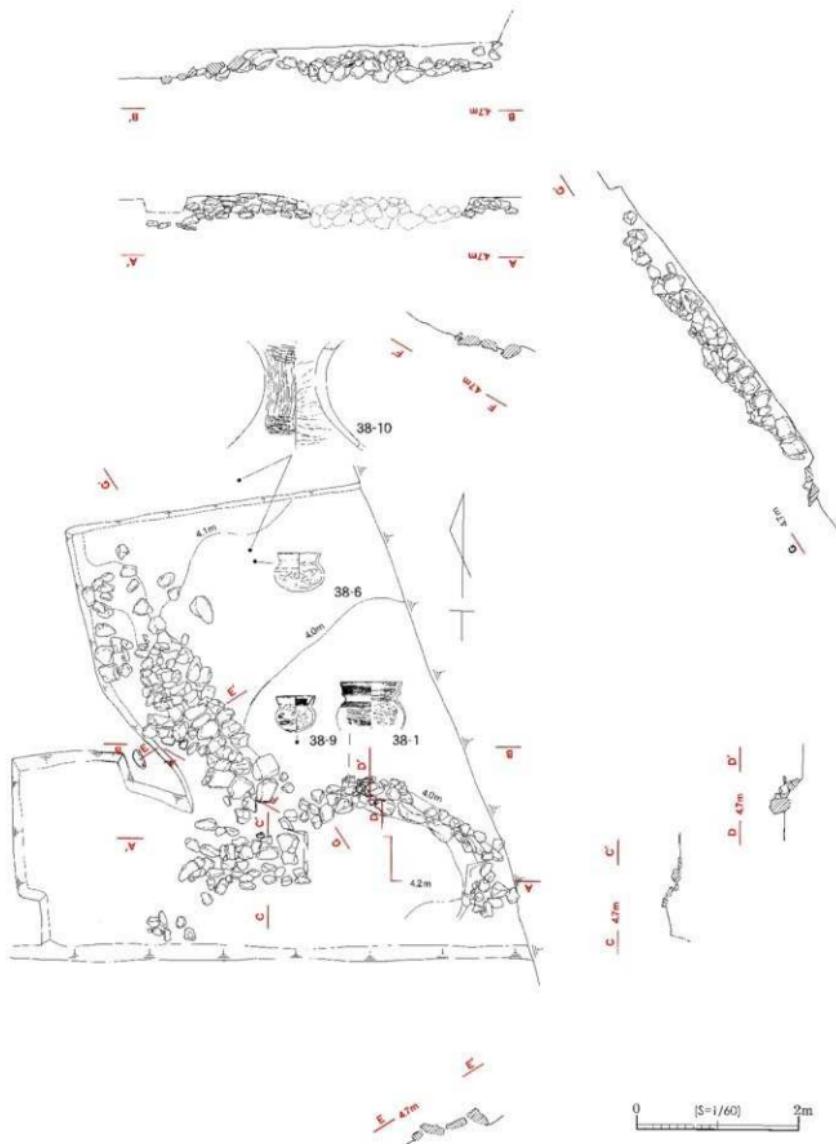
7号墓の墳丘内から出土した1は弥生中期後葉、2は後期前葉と位置づけられる。上記2点の年代は7号墓の築造年代上限を示すものであり、よって7号墓は後期前葉以降の築造と考えられる。また、被覆土中出土の土器は時期幅があるが、後期後葉(的場式)より新しいものが含まれない。

なお、次項で10号墓の被覆土中出土としたもの(第51図)は同時に7号墓の南側を被覆していたもので、弥生中期後葉から後期後葉のものが含まれる。いずれも7号墓に直接伴う出土状況ではないが、的場式(51-3)より新しいものが含まれず、7号墓の被覆土(第49図)に示したものと年代が矛盾しない。

7号墓・8号墓・9号墓の時期

上記の7号墓墳丘内より出土した上器から、7号墓は弥生後期前葉以降の築造で、8・9号墓はさらにそれより後になる。また、7~9号墓の築造後ある程度の時間が経過し、墳丘が埋まった後に四隅突出型墳丘墓である3号墓が作られている。すなわち、3号墓の構築面は7~9号墓被覆土の上面である。3号墓の年代は弥生後期後葉の可能性が最も高いことから、7~9号墓の年代はさらに古いことになる。

以上を総合すると、7号墓・8号墓・9号墓の年代は後期前葉~中葉の可能性が最も高い。3つの遺構は、この時期幅の中で7→8(→)9号墓と相いで作られたものと考えられる。



第47図 7・8・9号墓実測図①



第48図 7・8・9号墓実測図②

写真図版三四

弥生時代の遺構／貼石墓／七・八・九号墓



上：東から
下：南東から

写真図版三五
弥生時代の遺構／貼石墓／九号墓



上：東から
下左：部分
下右：南東隅部分

写真図版三六 弥生時代の遺構／貼石墓／七・八・九号墓



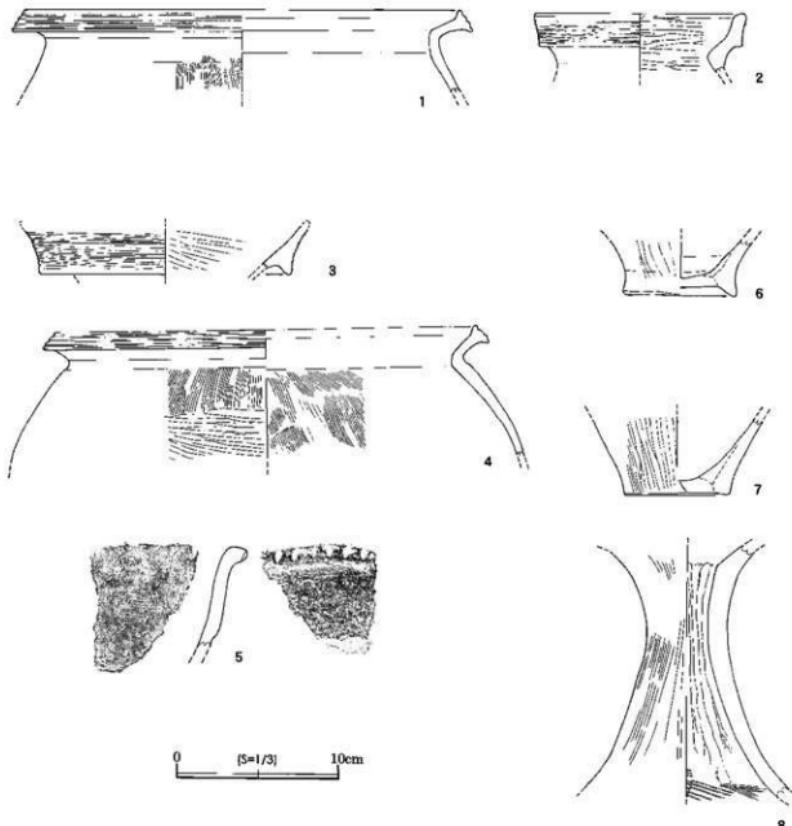
8号墓（部分）



手前左9号墓、手前右7号墓、奥8号墓

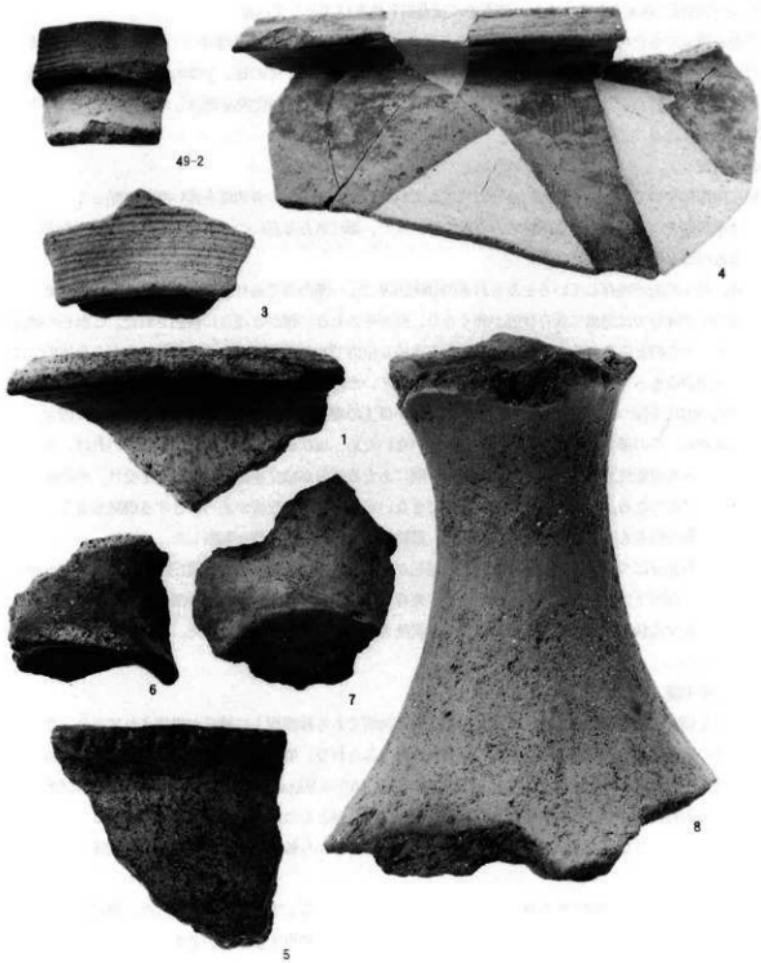
第11表 7・8・9号墓関連遺物 観察表

品種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第40回								
1	弥生土器	甕	(26.8)		口縁全周の10%	内面：ナデ/外曲：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面：桜褐色2 外曲：桃褐色1	口縁に3条の凹線。外曲に瘤付者。
2	弥生土器	甕	(13.0)		口縁全周の10%	内面：ミガキ/外曲：ナデ	内外曲：灰褐色2	口縁に7条の凹線。外曲に瘤付者。
3	弥生土器	釜形 器台			小片	内面：ミガキ/外曲：ナデ	内外曲：灰褐色2	少なくとも11条の凹線。
4	弥生土器	甕	(25.8)		口縁～腹部全周の20%	内外曲：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面：桜褐色1 外曲：桜褐色4	口縁に3条の凹線。
5	弥生土器	甕			小片	内面：板ハケメ、稍須直痕、ナデ/ 外曲：ナデ	内面：灰褐色2 外曲：灰褐色3	前期。口縁に刻文。肩部に段あり。
6	弥生土器	甕	(7.0)		底部全周の30%	内面：ナデ/外曲：ミガキ	内面：黒色 外曲：灰褐色3	
7	弥生土器	甕	(6.4)		底部全周の30%	内面：ナデ/外曲：ミガキ、底ナデ	内面：灰褐色3 外曲：焼褐色2	底部に焼成前穿孔あり。
8	弥生土器	高杯			脚部全周の80%	内面：シボリ、ハケメ、ナデ/外曲： ミガキ、ナデ	内外曲：灰褐色2	坪部剥離痕あり。



第49図 7・8・9号墓関連遺物実測図

写真図版三七 七・八・九号墓関連遺物



8. 10号墓

位置と残存状況・規模

10号墓はIV区の東寄りで検出された円形の貼石墓で、7号墓の南西側にほぼ接する位置関係にある。調査の中で造構の保存が決定したため、全体を検出する作業を中断し全容を明らかにしていないが¹、円形とした場合直径8.5mの規模に復元される。なお、調査中には造構名称を1J10としていた。

存在を確認できたのは古代の包含層である6層をフラットに掘り下げる作業中で、標高1.2m前後でまばらな礫のまとまりを検出した。これが10号墓の北西と南東部分にある。その後、全体の1分の1にあたる南東部分をさらに掘り下げたところ、標高3.9m付近で埴丘裾と認められる傾斜変換を確認した。よって、残存する埴丘高さは25cmとなる。

貼石の状況

埴丘南辺については貼石が比較的良好に残存していた。20~40cm人の亜角礫を縫い傾斜で貼っている。石材の配列は不規則で、長軸方向の規則性もみられない。また、裾にあたる石についても、明確な基底石の表示と認識できるものはなかった。

本米の埴丘斜面が残存しているとみられるのは南辺のごく一部のみであり、東西長さ2m弱ほどである。南東隅に該当する部分では急激に残存状態が悪くなり、山がそろわない礫がまばらに検出された。これらの礫は本来貼石であったものとみられるが、変更を受けた二次的な位置であると判断される。しかしながら全体的には南東へ下がる傾斜をもっており、これが本来の埴丘がもっていた傾斜に対応するよう観察されたため、大筋的には埴丘形状の旧状を保つものと考えられる。よって見かけ上の埴丘面は曲面をもち、円形の平面形に復元された。しかしながら、この部分は原位置の貼石が残っていないため、現状が変更によって変形していれば、本米は方形の埴丘であった可能性も残る。方形とした場合、隅にあたる部分が埴丘を削り込む変更を受け、その結果礫が二次堆積したことになる。こうした可能性も否定できないが、局所的な変更があったとする痕跡もなく、残存する埴丘斜面が整合性をもって曲面をなすことから、最終的には円形の貼石墓と判断した。

北東と南西部分については検出面にまったく貼石が検出されなかった。上面（埴丘削平面）で掘削を停止したため、さらに掘り下げていれば埴丘斜面の貼石が残存していた可能性は残る。北西部については、上面でかなりの礫が散乱する状況だったため、貼石は大きく擾乱されていることが想定された。この部分も掘り下げることをしていない。

構築面と削平面、埋葬施設の状況

埴丘の土層断面図を第50図右上に示している。無遺物層である砂礫層上に埴丘が構築されており、少なくとも埴丘基底の裾部はこの砂礫層を削りだして成形されたとみられる。埴丘上には遺物包含層が堆積しており、これが基本層序IV区7層とした弥生時代の包含層に対応する。埴丘は基底からわずか25cmの高さで水平に削平を受け、埴丘上部は失われている。この削平面上には基本層序IV区6層とした古代の包含層が直接堆積しており、貼石の直上に接するようにして須恵器鉢片が出土している。このことから最終的な削平が奈良時代以降に及んだことが明らかである。

10号墓は埴丘の大半が削り去られており、かろうじて裾部が残存している状態であった。想定される位置で埋葬に伴う造構の存在を確認しようとしたが、完全に失われており検出することができなかった。

遺物の出土状況と詳細

10号墓に関連する遺物のうち、第51図には埴丘被覆土中から出土したものを、第52図には埴丘内から出土したものを掲載した。

第52図に掲載した3点の甕は、いずれも10号墓の埴丘内にあたる地点から出土した（第50図）。第52図の3は口縁から肩部にかけての破片だが、1と2はほぼ完形である。出土した層位（レベル）は10号墓の基底ラインとほ

ば等しい（第50図下の立面図参照）。これらが10号墓の埋葬施設等に伴う可能性も考慮したが、出土レベルが埴丘基底レベルと同一で深いこと、後述するように煮炊き痕跡が顕著であること、貼石墓の墓制として棺内に煮炊き具である甕を納めることが想定しにくいことなどから、10号墓とは直接関係しないものと判断された。前述のように10号墓の埴丘下部は砂礫層を削り出すことによって成形されており、この砂礫層中に含まれていたと考えられる。完形である1と2は、遺存状況からみて何らかの掘り込みを伴う遺構内にあった可能性があるが、痕方などは検出できなかった。いずれにしても10号墓造墓以前に埋納あるいは埋没したことから、10号墓の年代上限を示すものと評価される。

52-1と2はいずれも口縁部に凹線を施す複合口縁甕で、弥生中期後葉（IV様式）のものである。両者とも煮炊きに使用された使用痕跡を顕著に残す。1は外面ほぼ全周にわたって煤が付着する。下から5分の4（高さ22cm）の部分に煤が認められ、このうち半周は下から12cmのところで水平に境界があり、それ以下の部分は強加熱によりいわゆる煤化が進み、煤が飛んでいる。内面は、底から高さ8cmにかけて黒色の細かい付着物が薄く認められ、焦げと考えられる。

2は外面の下から3分の2（高さ22cm）に全周にわたって煤が付着する。煤付着の上端は、列点文の施された胴部最大径の部位に達している。また最下部の下から7cmについては、加熱により煤化が進み、煤が飛んでいる。底部附近は酸化被熱による赤色化が顕著である。内面は焼成時の黒斑を残すが、これとは別に黒色のコケ状付着物が薄く認められる。

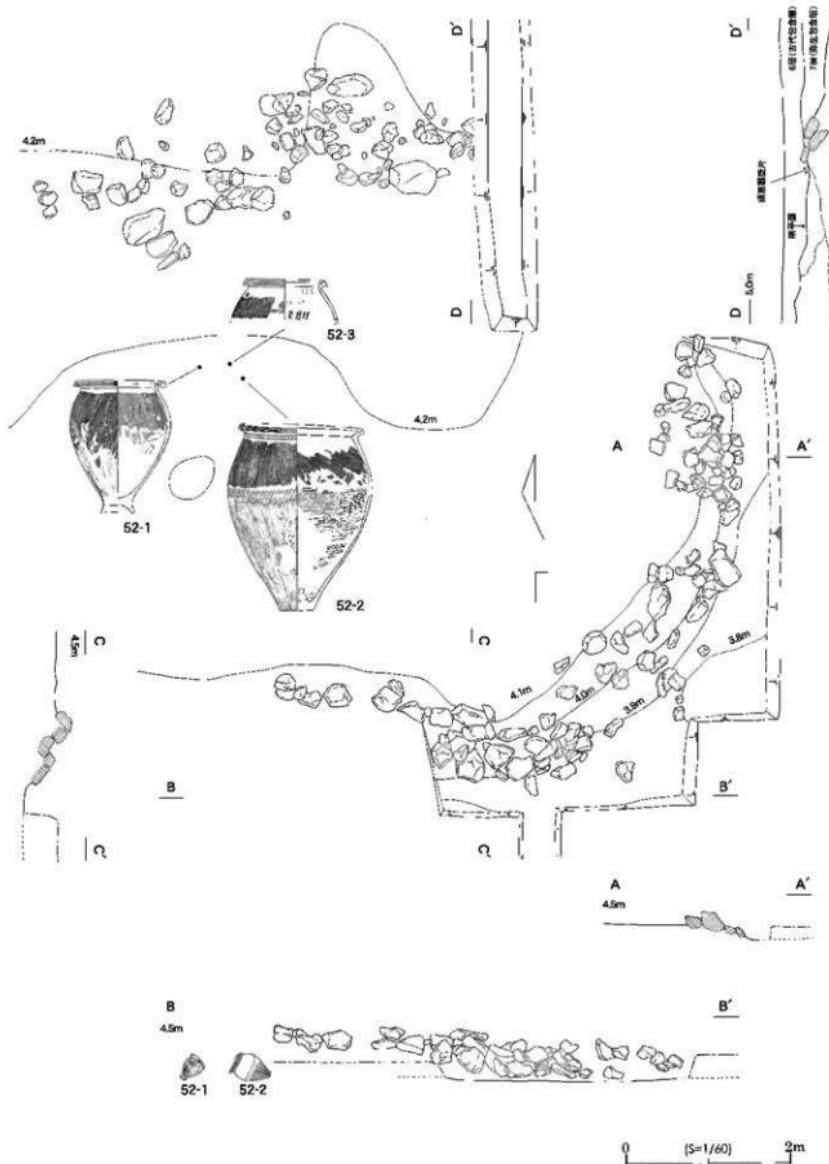
10号墓の時期

第51図掲載の土器が出土した層位は、10号墓の埴丘構築面より上位に堆積した土層であり、10号墓が作られた後に堆積した被覆土と評価される。埋葬時に直接伴うと判断されるような出土状況のものではなく、いずれも被覆土中に浮いた状態で残存状態も破片であった。土器の時期は中期後葉の壺（51-6）や高环（7）があるほか、後期初頭頃の甕（2、5）、後期後葉の的場式の器台（3）と若干の時期幅が認められる。10号墓の東側から出土した5は比較的の残存率が高い（縦割り状態で全体の50%）ものの、標高4.3mと埴丘構築面から10cmほど浮いた状態で出土しており直接伴うものではない。

被覆土中には的場式より新しいものが含まれないことから、放密には弥生中期後葉より新しく、後期後葉の的場式以前、と時期を求めることができる。ただし埴丘が構築されている遺構面を比較すると、こうした時期幅のなかでも古い方にあたる可能性が高いと推定される。つまり、10号墓の構築面は北東に近接した7号墓より若干下位にあり、7号墓より前に築造された可能性を否定できない。7号墓は3号墓（的場式期）より確実に古く後期前葉と考えられることから、10号墓がこれに先行すれば中期後葉から後期初頭にかけての時期ということになる。

写真図版三八 弥生時代の遺構／貼石墓／十号墓

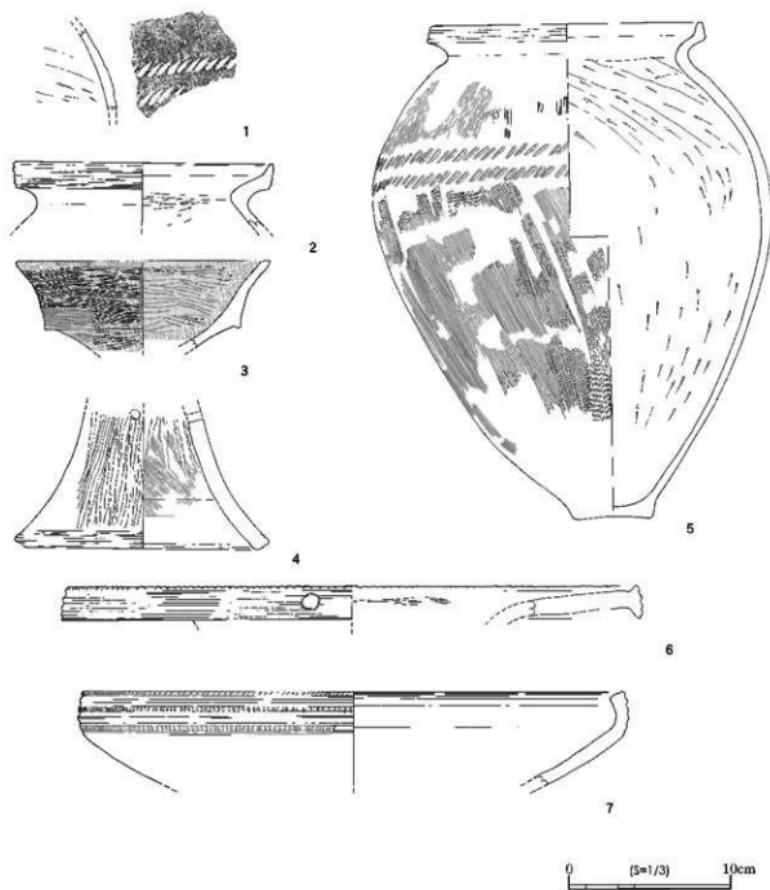




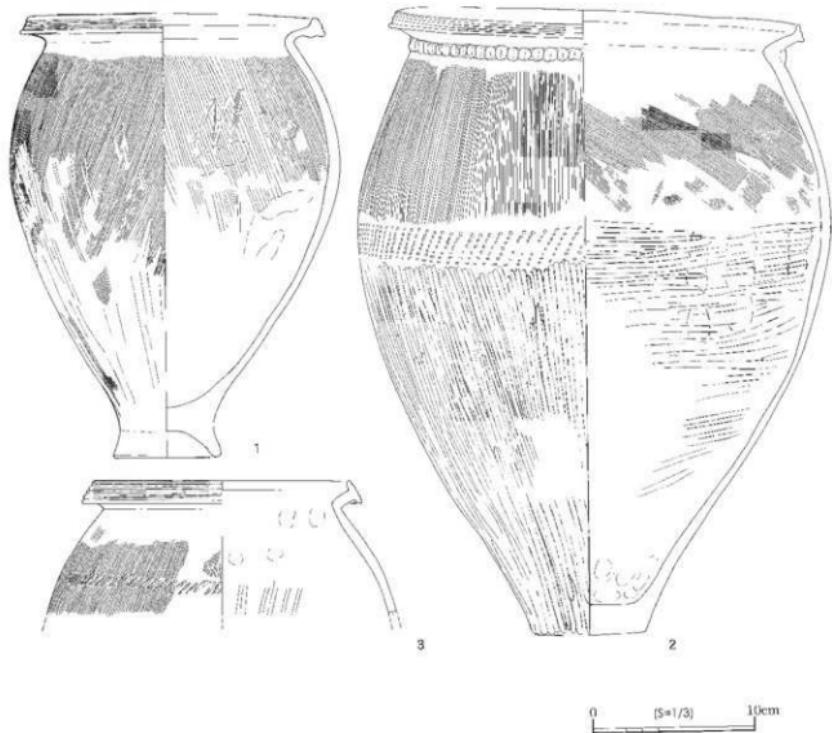
第50図 10号墓実測図

第12表 10号墓関連遺物 観察表

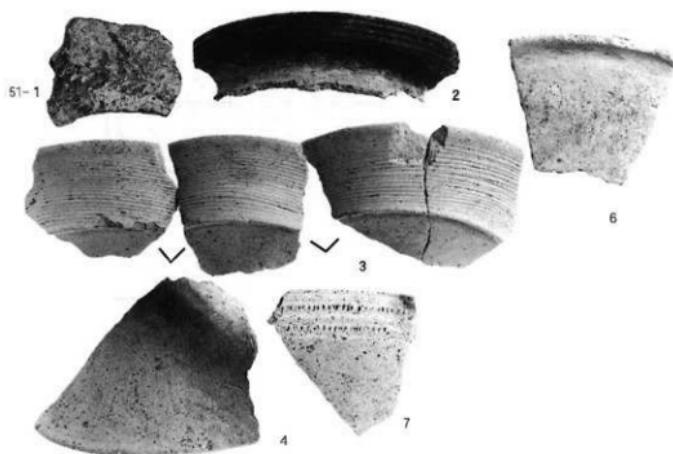
番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第51回									
1	弥生土器	甕			小片	内面：ケズリ/外面：ハケメ	内外面：灰褐色1	2段の貝殻刺文。	
2	弥生土器	甕 (16.0)			口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1	口縁に4条の凹線。口縁部内外 面に焼付着。	
3	弥生土器	跳影 器台	15.6		器受部全周 の70%	内面：ミガキ/外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色2	的場式。赤彩。5本/cmの腰凹 溝。	
4	弥生土器	高环	15.6		脚部全周の25%	内面：シボリ、ハケメ、ナデ/外面： ミガキ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	2条の浅い沈線。円形透かしあ り。外面部の一部に黒斑。	
5	弥生土器	甕 (16.8) (4.8)			全体の40%	内面：口縁部ナデ、胴部～底部ケ ズリ/外面：口縁部ナデ、脚部ハケ メ、底部ナデ	内外面：灰褐色1	口縁に2条の凹線。胴部上半に 2段の刺突文。外面部に焼付着。 かなり歪み有り。	
6	弥生土器	甕 (35.0)			口縁全周の10%	内外面：ナデ、ハケメ	内外面：棕褐色1	口縁に4条の凹線後刻目文・円 形浮文。	
7	弥生土器	高环 (33.4)			全体全周の10% (燒成著しい)	内面：ナデ/外面：ナデ、ミガキか く	内外面：灰褐色1	口縁上面に2条の凹線があるか (不明瞭)。口縁に5条の凹線・ 刻目文。外面部の一部に黒斑。	
第52回									
1	弥生土器	甕	18.7	6.6	27.2	全体の95%	内面：口縁～颈部ナデ、脚部上半 ハケメ、塑型压痕/外面：口縁部ナ デ、脚部上半ハケメ、胴部下半ハ ケメ後ミガキ	内面：棕褐色1 外面：口縁部棕褐色 色1、底部棕褐色2	M-1～2様式。口縁に3条の 凹線。内外面に焼付着。
2	弥生土器	甕	24.9	6.8	37.4	全体の90%	内面：口縁～颈部ナデ、脚部上半 ハケメ、脚部下半指揮え後ミガ キ、底部鉛頭压痕/外面：口縁部ナ デ、脚部上半ハケメ、胴部下半ミ ガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁に2条の凹線。颈部に圧痕 文帯。底部に列点文、外面部 に焼付着。
3	弥生土器	甕 (15.8)				口縁～全体	内面：口縁部ナデ、胴部鉛頭压痕 全周の25% ハケメ/外面：ハケメ、ナデ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色2	口縁に4条の凹線。肩部に刺突 文。



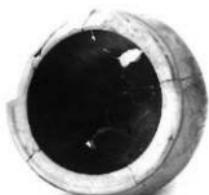
第51図 10号墓関連遺物実測図①（被覆土中出土）



第52図 10号墓関連遺物実測図②(基盤層中出土)



写真図版四〇 十号墓関連遺物



52-1



2



3



51-5



9. 11号墓・12号墓

位置と残存状況

11号墓と12号墓はIV区の南東隅に位置する。11号墓が方形貼石墓、12号墓はそれに付随する方形貼石区画である。なお、調査時の名称は11号墓がIJ08、12号墓がIJ09であった。

現状での保存を決定した古代の遺構と重なっているために、11号墓の埴丘は東辺の一部を検出したにとどめ、大部分は確認することができなかった。12号墓は全体を検出している。両者とも上面が削られているものの残存状況は良好であり、残存高さは50cmであった。

11号墓の貼石状況

南北7.2mにわたって埴丘東辺の貼石を確認している（第53図）。埴丘の方位は座標北に対してやや西に振れ、N-8°-Wである。30~60cm大のやや円滑が進んだ亜角礫を用いており、他の貼石墓と比較して石材が全体に大きい。基本的に横位に、長軸方向が水平になるように石を配置している。石材の外面は曲面をもつものがほとんどで、平坦な面をそろえるような意識は認められない。残存しているのは基底から2段分で高さ60cm、斜面の傾斜はかなり急であった。南寄りの部分は、12号墓によって埋め殺されており表面に表れない。後述するように12号墓は11号墓が完成してから一定の時間経過を経た後に作られており、11号墓の埴丘は一旦単独で完結していたとみられる。したがって12号墓によって埋め殺されている部分にも、11号墓の貼石は連続しているものと想定されるが、断ち割りなどおこなっていないため確定はしていない。

11号墓の貼石は残存状態が良く明瞭な石の配置が認められたが、北端で石が不明瞭になる部分が認められた。第53図でアミかけした石がそれにある。立面図から明らかなように、これらの石は基底石のラインから浮き上がりおり、平面的にも埴丘平面形と整合しない。また石材も貼石のものより小さく角張っていて異質であった。上記の点から、アミかけした石については本来の埴丘とは無関係の位置関係にあると判断した。貼石がこれ以上北に延びないとみれば、この地点が11号墓の北東隅にあたる可能性がある。

11号墓の復元規模

確認できた貼石がごく一部であったため、本来の埴丘の形態が問題となる。前記のように11号墓は古代の遺構と重なっておりサブトレンチ等で掘り下げることができなかったため、これを補う情報を得る目的で地中レーダー探査を実施した。

探査は島根県古代文化センターが元興寺文化財研究所に委託して実施した、青木遺跡遺構模型作成に伴う三次元計測の一環として平成16年1月20日におこなった。探査と解析作業は桜小路電機有限会社が実施している。

50cmまたは100cm間に測線を東西および南北に設定して探査をおこなった結果、深度0.2mで周囲と違った反応が認められた。第16図にアミかけで表示した部分であり、東西方向に延びる変化点が南北2列確認できる。青木遺跡の地質は保水量が多いために電波の減衰が大きく、地中深い部分の探査は有効でなかったが、地表近くの変化点は有意なものと評価され注目できる。反応を示したものが何であるか特定することはできないが、石列の可能性も高く、11号墓の埴丘貼石上端の列とみることも可能である。

上記のレーダー探査結果を11号墓の貼石（埴塀ラインではなく残存埴丘の上端ライン）と仮定すれば、11号墓の埴丘規模は南北約13m、東西13m以上、とすることができる。埴丘斜面が若干の傾斜をもつことを考慮して、残存埴丘上端と埴塀を図上で想定して復元したのが第16図に示した破線ラインであるが、これは11号墓の東辺貼石が途切れる位置と整合している。

12号墓の規模と貼石状況

12号墓は11号墓の埴丘東側に付加された貼石遺構で、南北3.2m、東西2.5mの方形を呈する。西を除く3面の埴丘斜面に貼石されている。方位は座標北に対してN-3°-Wとわずかに西にふれる。N-8°-Wの方位をとる11号墓とはごくわずかに方位を違えている。

Y 墓石の石材は25~30cm大でばらつきが少なく、円滑が進んだ並円形が用いられている。貼石の高さは50cm、右1段分ほど残存していた。上面には古墳時代中期~7世紀の包含層(第54回上層のc層)が堆積しており、削平を受けたとすれば本来の埴丘がさらに高かった可能性がある。

埴丘上面の平坦面は南北1.8m、東西1.6mの長方形である。12号墓の機能は單葬のための施設と想定され、上面の面積は十分埋葬が可能とみられたため、埋葬施設の痕跡を検出する作業を繰り返しおこない、一部は断ち割りによる観察をした。しかし、どうしても掘り込みの存在確認することができなかった。墓壙が上面に表れない理由としては、埋葬と構築が同時におこなわれ、掘り込みを伴う墓壙自体が存在しなかつた可能性が想定される。なお、この上面精査作業中に、鉄製刀子1点(55-1)が南北方向に寝かせた状態で出土した。中ほどを欠損して欠くが、全長12.5cm、刃部長9cmほどの小型の刀子である。鞘や柄にあたる木質や皮革など有機質痕跡は全く残されていなかった。出土位置からみて12号墓に伴う可能性が高く、埋葬時に副葬されたと考えられる。

11号墓・12号墓の層位の関係と遺物の出土状況

11号墓の埴丘基底面(ベース)は標高3.4m、12号墓は3.6mと0.2mほど12号墓が高い。この関係を図示したものが第54図である。土層間に照らしながら過構の構築順をみると、11号墓の構築面はg層上面にあたる。11号墓築造後に堆積したe'層が、11号墓の貼石下部を被覆する。このe'層中には、図示していないが弥生後期初頭の土器のみが含まれていた。12号墓が構築されるのは、このe'層の上面にあたる。その後、d層が12号墓を被覆して堆積する。

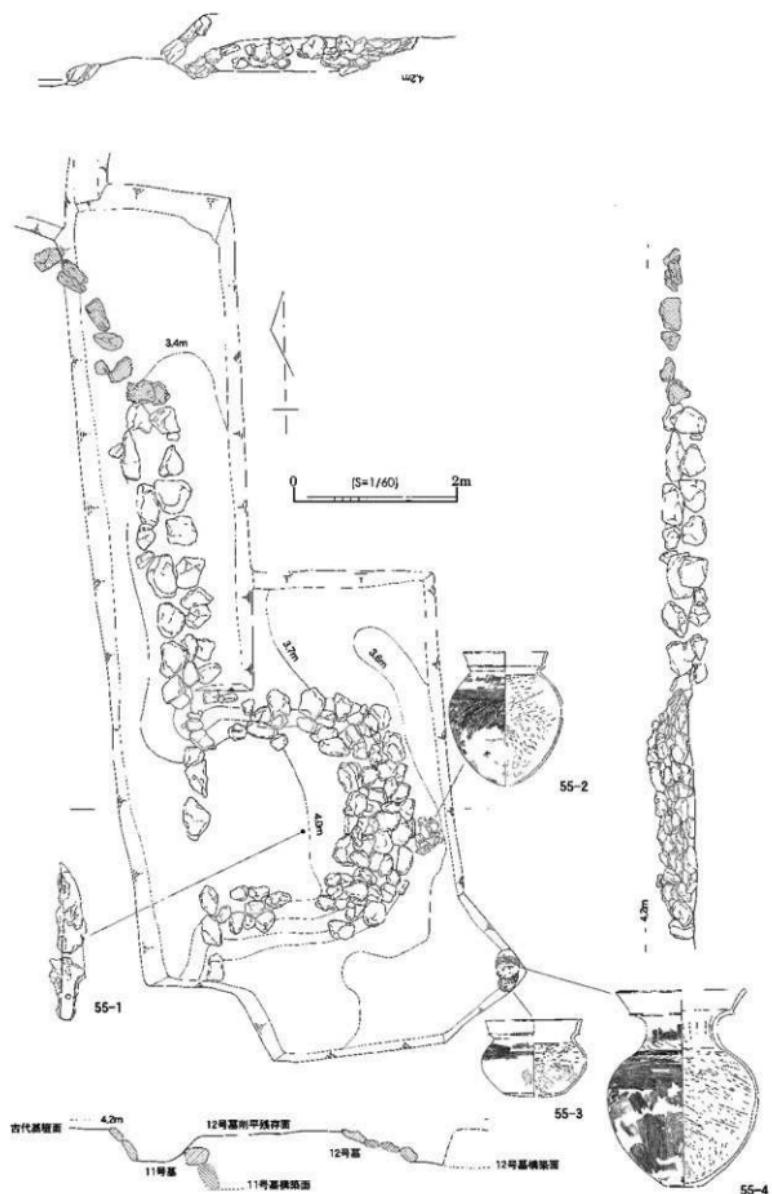
以上の関係から、層位関係からみて11号墓→12号墓という前後関係は確実である。次に、埴丘周辺から出土した土器について。12号墓の東裾から出土したY170はほぼ完形に復元される甕で、横位につぶれた状態で出土した。状況からみて置かれた原位置を保つか、あるいは埴丘上から転落したものとみられる。このY170は先述のd層中に含まれるが、その下のe'層上面に直接乗っている。つまり、12号墓が築造されてからそれほど時間経過を経ない後にもたらされたものとみられる。

55-3と4は2個体が組み合った状態で、12号墓の南東1.5mの地点から出土した。口縁を向き合わせ横位に寝かせた状態で、4の口縁は打ち欠いて合わせ口に逆位に被せてあった。これらはつぶれていない残存状況からみて、何らかの掘り込みを伴う過構内に納められたものとみられる。出土層位は12号墓の裾より低いが、想定される掘り込み面は12号墓の構築面と同一のe'層上面である。したがって、3と4はともに12号墓の築造時期と近い時期のものと考えられる。なお、出土層位は強還元されたグライ化上質であり、掘り込みを検出することはできていない。この口合わせにした上器1対は土器帽として埋葬にともなう可能性もあるが、両者とも外下面下部に煤が多く付着し、煮炊きでの使用が認められる。

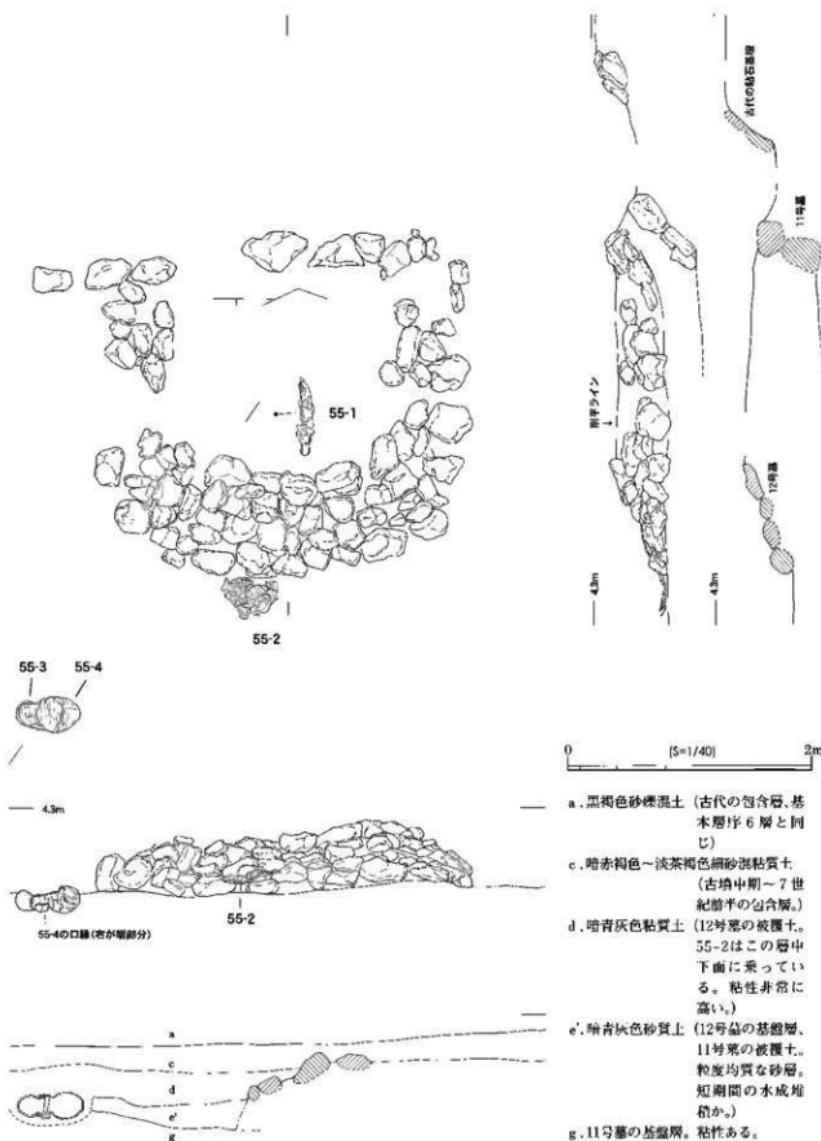
11号墓・12号墓の時期

前記の層位関係と共に伴する遺物から、過構の時期を検討する。まず11号墓については被覆していた上層(e'層)中に弥生後期初頭の上器しか含まれないこと、この土器が築造からまもなく、比較的短期間に堆積したとみられることなどから、弥生後期初頭に造墓されたと考えられる。次に12号墓は、土器55-2・3・4が築造直後のものと判断されることから、古墳時代初頭(大木式期)と考えられる。

結果として、11号墓と12号墓それぞれの築造には、かなりの時間差があったことが明らかであり、その時間幅は250年ほどとなる。このような時間を経てから副次的な埋葬施設が付加されるという事例は異例であり注意される。また、今回の調査で確認された貼石墓・四隅突出型埴丘墓は弥生中期後葉~後期最終末に限られており、この12号墓が最も新しい例階で作られた貼石埋葬施設ということになる。



第53図 11号墓・12号墓実測図



第54図 12号墓実測図

写真図版四一

弥生時代の遺構／貼石墓／十一号墓



北東から



北から

写真図版四二 弥生時代の遺構／貼石墓／十二号墓



上：東から
下：北東から

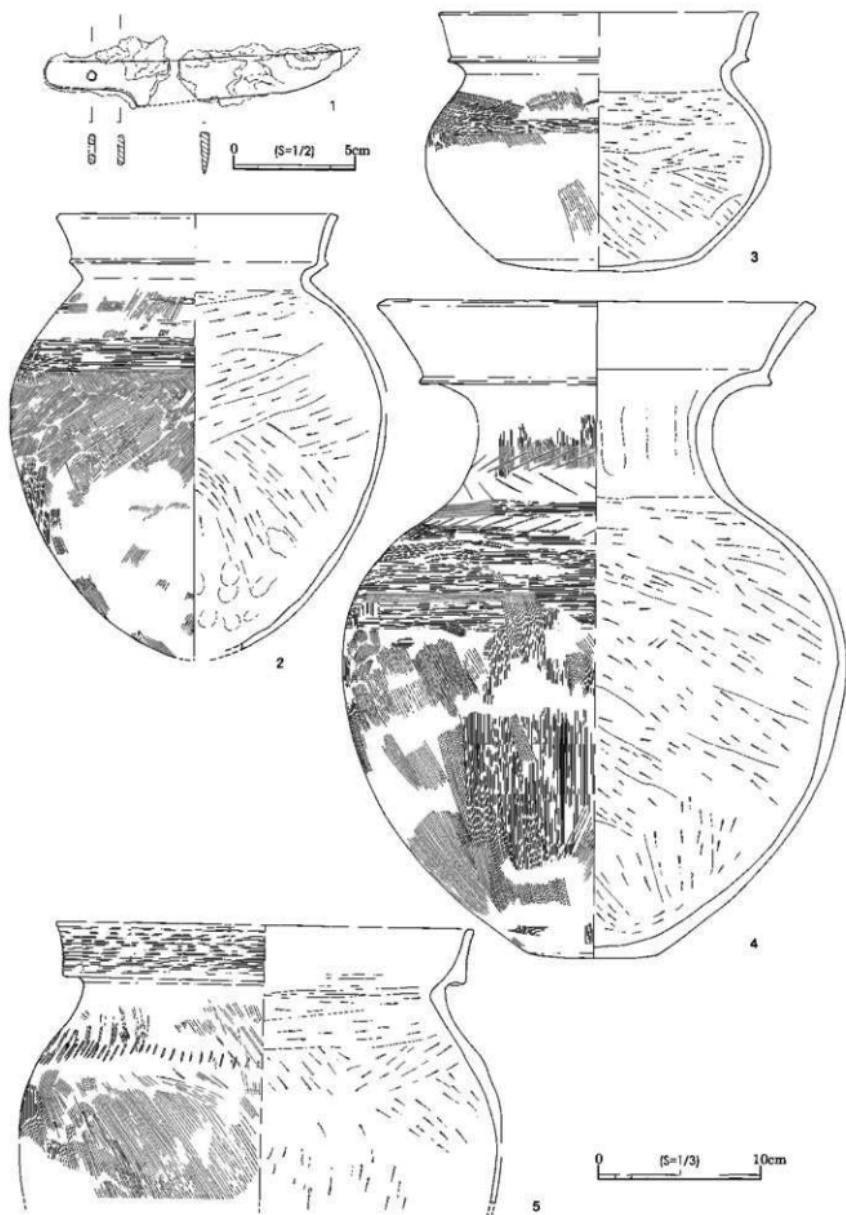
写真図版四三
弥生時代の遺構／貼石墓／十二号墓



上・下左：55-3、4
下右：55-2

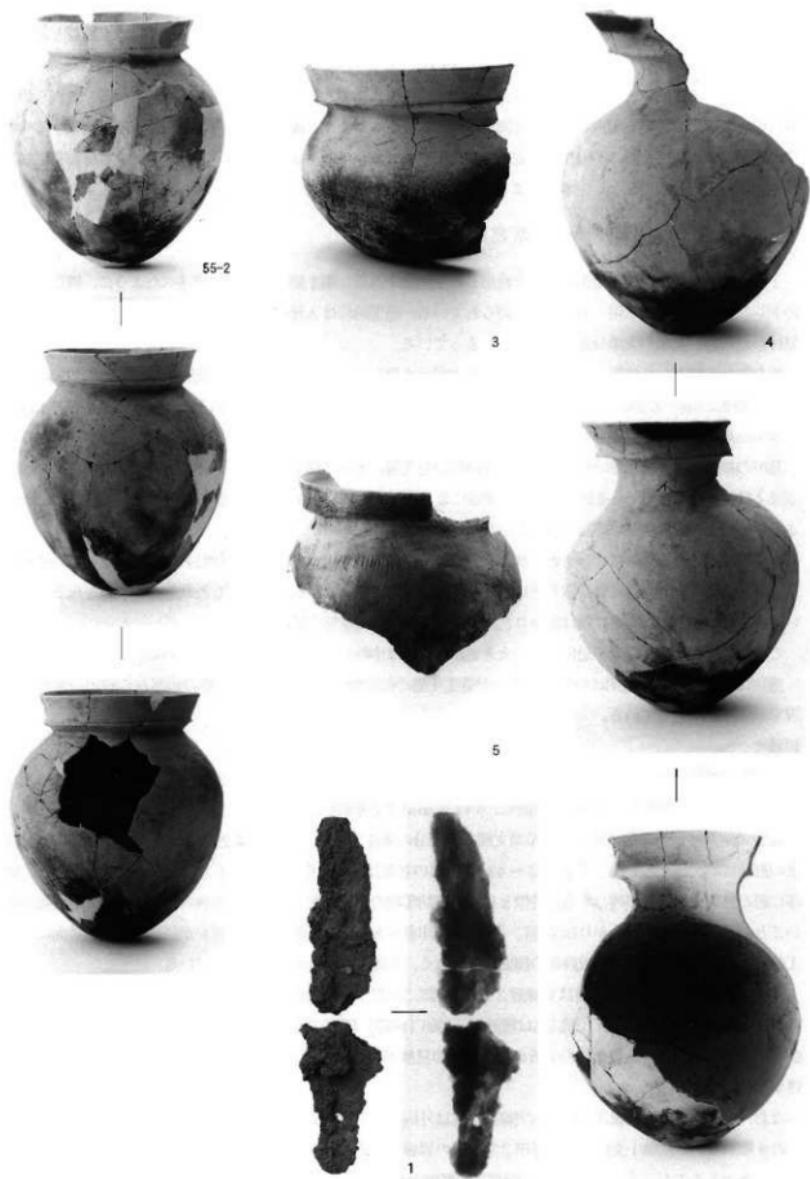
第13表 12号墓関連遺物 観察表

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第55回									
1	鉄製品	刀子	(本文 参照)			中径を欠く			
2	弥生土器	甕	17.0		全体の80%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ。 底部衝撲付痕/外面：ハケメ、ナデ	内面：灰褐色 外面：灰褐色	外面上に煤付着。	
3	弥生土器	甕	(19.5)		全体の40%	内面：口縁部ナデ、腹部～底部ケズリ/外面：口縁部ナデ、肩部～底部ハケメ	内面：灰褐色 外面上に貝殻による剝離削突文。	外面上に煤付着。	
4	弥生土器	甕	(26.8)		全体の50%	内面：口縁部ナデ、頂部指圧付痕。 肩部～底部ケズリ/外面：口縁部ナデ、頭部～底部ハケメ	内面：灰褐色 外面上に無輪羽状の沈縮文・5条の浅縫・斜縮文・5条の沈縮文を施す。	外面上に煤付着。	
5	弥生土器	甕	(25.4)		口径～底部 全周の30%	内面：口縁部ナデ、頭部ミガキか、 肩部ケズリ/外面：ナデ、底部ハケメ	内面：灰白色 外面：灰褐色	丸重式。口径に12～13条の握削痕、肩部に削突文。外面上に煤付着。	



第55図 12号墓関連遺物実測図

写真図版四四 十二号墓関連遺物



第2節 土墳墓の人骨

T区で人骨8体（1号～8号人骨）、IV区で3体（10～12号人骨）を確認したほか、IV区では上墳墓とみられる人骨片が残る土墳を2基（SK03・04）確認している。またT区では獸骨1体（9号獸骨）を確認した。

第3章で述べたように、T区の人骨・獸骨は現地から取りあげており、現在整理作業を進めている。これらの資料については形質人類学・古病理学など関連分野の所見をまじえて、解剖学的見地からの報告文を掲載するべきであるが、本書刊行までにその作業を完了することができなかった。よって、人骨・獸骨に関する詳細報告は次年度以降に刊行することとし、本書ではごく概要を記すこととする。

1. 1号人骨（銅鐸片出土土墳墓）

T区の1号墓東辺の北東突出部付近で検出した土墳墓である。第1節1号墓の項で述べたように、確認調査時のトレンチや調査区排水用の溝によって切られている。結果的には人骨が出土したことによって土墳墓の存在に気付いたため、墓壇の大部分が掘削されてしまっている。

残存部分を精査した結果、平面形は隅丸の長方形状を呈し、一段掘りであった可能性が高い。その規模は墓壇底面で長さ2.3m～2.5m、幅は1.2mを測り、上段の幅は1.7mを測る。深さは下段で約10cmであるが、上段からは30cm残存している。墓壇底面の標高は3.8mであった。

墓壇の掘り込み面は古墳時代～奈良・平安時代の包含層によって削平を受けているため不明であるが、墓壇底面は4号墓等の基盤面である無遮物層の砂礫層にまで達している。残存している墓壇内を丁寧に精査してみたが、木棺等の埋葬施設の痕跡は確認できなかった。

人骨は墓壇の南東寄りに埋葬された状態で検出した。保存状態は良好でほぼ1体分の骨が検出されているが、下半身部分は確認調査時に骨を取り上げている。頭部を南に置き、足を北に伸ばした状態の伸展位で埋葬されている。頭部は左側頭部を上に向けており、顔面は北東を向いた状態で検出されている。

この人骨は壮年の女性で、足の骨等の大きさから体格は小柄であったことが分かっている。

遺物は墓壇底面から時期は特定できないが弥生土器の破片数点と底面南端の人骨の頭部から約10cm離れた位置で銅鐸片が出土している。

銅鐸片

銅鐸片の所見については、難波洋三氏（京都国立博物館考古室長）に指導いただいた。以下は難波氏のご教示による。また、破片として出土する銅鐸については第18章で考収を加えた。

近畿式銅鐸の鉢外縁部に付く「双頭渦文飾耳」部分の破片である。大きさは全長6.05cm、高さ3.55cmで、渦文の直径は2.60cmと2.75cm、厚さは3～4mm。頭部の巻数は5周（中心点を含む）、連結部の線条数は4条、脚部に鉢の外周突線1条が残存する。特徴としては連結部線の左右に配される斜線が無いこと、鉢の外周突線が細いことがあげられる。仕上りには全体に「下手な」印象がある。また前後面で型ズレが認められる。破面には人工的な切断痕や破断工具痕、破断後の擦痕などが多く、不規則な荒れた破面を呈している。

近畿式の双頭渦文飾耳の全長は突線鉢2式では35.5cm以下、突線鉢4式では8.5cm以上あり、本例はその中にある突線鉢3式にあたる（型式名は難波洋三1986『銅鐸』『弥生文化の研究』第6巻道具と技術Ⅱ、による）。頭部の巻数、連結部の线条などの分析からも同様の見解が導かれ、中でも細分型式の突線鉢3Ta式である可能性が高い。

なお、5大別された突線鉢式のうち突線鉢3式は外周突線が3条で、身の横軸突線が無いものである。さらにこれを細別し、外縁第1文様帶と外縁第2文様帶の界線が2条であるのが3Ta式、さらにつれてこのうち身の上縁の突線が2条であるのが3Ta式にあたる。同型式の類例から、本来の銅鐸の全高は60～70cm程度と推定される。突線鉢3Ta式の製作年代は、後期前奈良とと考えられる。

1号人骨の時期について

さて、この土壙墓の時期については、1号墓の頃で墓域のレベル関係から1号墓より後出のものと判断したが、ここでは他の視点からも再度検討してみることにしたい。

1号墓との前後関係を知るために貼石の有無が最も重要なポイントであったが、確認調査時のトレーンチ調査ではこれらの遺構上面まで土石流による礫層が厚く堆積していたことや湧水などから、貼石が存在していたか否かは残念ながら把握できない状況であった。

そこで、トレーンチのセクションから検討してみたい。南北セクションを観察すると第4層上に30~50cmの石が認められるが、これは古墳時代の集石遺構であり、第4層下層には貼石と考えられる石は認められない。また、東西セクションにも第7層上面には突出部の貼石が認められるが墳丘の貼石は認められない。このことから推測すれば、墳丘の貼石は墓壁を掘り込む際に取り除かれて存在していないとも考えられ、もしそうであれば1号墓より後出であった可能性が高くなる。

次に墓壇のセクションを観察してみると、墓壇は第7層の弥生時代前期~中期後葉の包含層（I区の第12層）を掘り込んで第10層の無遺物層に至ることからみれば、弥生時代中期後葉までは遡らないと考えられる。また、弥生時代後期前葉~後葉の包含層である第5層（I区の第11層）を掘り込んでいたかどうかであるが、墓壇及び第5層は古墳時代中期の包含層である第4層（I区の第10層）によって切られているため掘り込み面は把握できなかった。

明確には判断しがたいが、前述したように墓壇直前のレベル関係や1号墓の貼石の有無などから導いた結論としては1号墓より後出の可能性が高いと考えた。そうだとすれば上限は弥生時代後期後葉を遡らない時期で下限は古墳時代中期前後の時期と捉えることができる。

なお、破片銅鐸からみれば、銅鐸の製造時期はⅣ~Ⅱ-3式であることから、1号墓より先行するものであるが、それがすなわち埋葬された時期とは考えにくく、銅鐸片が持ち込まれた時期や埋葬された時期などの時間差も考慮して検討する必要があると思われる。破片銅鐸の出土例は鳥取県青谷上寺地遺跡などにもみられ、今後はこれらの類別を調査して破片銅鐸の出土時期や人骨の形質学的見解などから総合的に検討していく必要がある。

2. 2号人骨

I区の1号墓東側5mで検出した人骨である。墓壇の平面プランが検出できなかったため規模については不明である。

人骨は頭部を西側にして足を東に伸ばした状態の伸展位で検出された。骨の遺存状況は悪く、正確な埋葬部位は確認できなかった。

遺存する歯や骨の鑑定の結果、8歳程度の子供であることが明らかとなっているが、性別については不詳である。

3. 3号人骨

2号人骨の東8mの位置で検出した人骨である。他の土壙墓同様に平面プランは検出できなかったため規模等については不明である。

人骨は頭部が欠損し、足を南に伸ばした状態で検出しており、仰臥伸展位で埋葬されたものと考えられる。頭部は遺存状態が悪く、後頭部の一部が残存している。その他の骨は比較的残りがよく、骨盤の骨には出産溝が認められる。

性別については女性であり、年齢については壮年~熟年と考えられる。

なお、3号人骨の近辺からは成人男性のものと老年者のものと考えられる骨も出土している。

4. 4号人骨

3号人骨の東約1mの位置で骨が散乱しているのが認められた。これらの骨の大部分は歯骨であったが、その中に人骨の右大腿骨と左大腿骨が含まれていた。この骨は約25cmの間隔で、ほぼ平行に並列していたことから、埋葬時の元位置を留めている可能性が高いと考えられる。

性別は成人の男性であるが、年齢は特定できなかった。

5. 5号人骨

2号人骨の東1.5mの位置で検出した人骨である。墓壇の平面プランは検出できなかつたため規模等については不明である。

検出された人骨は頭部を西に置き、顎を引いて顔面を北東側に向いている。足を東に伸ばしている状況からみて、仰臥伸展位で埋葬されたものと考えられる。頭部は若干土圧による変形が認められるが遺存状態は良好であった。これに対して、他の骨は脆く遺存状況が悪い。

手の骨が下顎付近から検出されており、このことから判断すると肘関節を強く屈曲させて、前腕を胸部に置いていた可能性も考えられる

性別、年齢は壮年後半～熟年の男性である。

6. 6号人骨

調査区の東端で検出した人骨である。平面プランは他の墓壇同様に不明であるため規模等については不明である。人骨は頭部を北東に置き、足を南西に伸ばした状態で検出しており、仰臥伸展位で埋葬されたものと考えられる。顔面～頭頂部にかけての部分は調査時に破損をきたしているが、顔面は上を向いていたと思われる。その他の骨は比較的遺存状況が良好である。

性別は男性であるが、年齢については不詳である。

7. 7号人骨

調査区中央付近で検出した人骨である。人骨の頭部付近で橢円形状の平面プランらしきラインが一部認められたが、規模等を特定することはできなかった。人骨は頭部を西に置き、足を東に伸ばした状態で検出しており、仰臥伸展位で埋葬されたものと考えられる。遺存状況は比較的良好である。

年齢、性別は熟年の女性である。

8. 8号人骨

3号人骨の東2mの位置で検出した人骨であるが、骨の小片が散乱したような状態で検出したため、頭蓋骨のみ図化している。頭蓋骨と周辺の骨を一括のものとして取り上げているが、本人骨以外に3体分の成人骨が混在していた。

本人骨は、5、6歳程度の子供と考えられる。

9. 9号歯骨

2号人骨の西側、1号墓の東寄りで検出した歯骨である。これは犬の骨で頭を東に向けて1体分近くが検出されている。他の歯骨は散乱して包含層中から検出されているが、本歯骨は他の人骨同様に無遺物層上でまとまって検出されていることからみれば、埋葬された歯骨である可能性も考えられる。

10. 10号人骨

IV区3号墓の北2mの地点で検出された人骨で、頭蓋骨頂部と、左足と推定される大腿骨および脛骨が確認された。遺存状態が極めて悪く、腕、体幹部は全く残存していないかった。大腿骨は径3.0cm。頭部端から大腿骨遠位端までは129cmであった。東を頭位に、仰臥伸展葬の姿勢をとる。埋葬主軸はN-80°-E。墓壇壙方などは確認できなかった。標高は大腿骨が5.06m、頭蓋骨頂部が5.11mで、四隅突出物墳丘墓である3号墓の構築面4.2mより80cm高い。弥生後期後葉の3号墓が築造されてから一定期間を経て、周辺の堆積が進んだ時点では埋葬がおこなわれたものと判断される。埋葬の主軸が3号墓の墳丘方位とそろうことから、3号墓を意識した配置である可能性が高い。3号墓は古墳時代中期に上部の大半を削られていることから、10号人骨の埋葬時期はそれ以前であると考えられる。よって10号人骨の埋葬時期は古墳時代前期である可能性が最も高い。遺構の保存が決定していたため、最上面の検出にとどめてただちに埋め戻した。

11. 11号人骨

10号人骨と同様、3号墓の北側で検出された人骨。10号人骨とは2mの距離を隔てる。頭蓋骨頂部と、左大腿骨、両脛骨と両腓骨が残存しており、仰臥伸展葬とみられる。遺存状態は悪く、頭蓋骨は小片化している。腕および体幹部は完全に失われているか、下位に埋まっているものとみられ検出していない。頭部端から大腿骨遠位端までは121cmであった。ほぼ真東に頭位をとり、埋葬の主軸はN-90°-Eであった。墓壇壙方などは確認できなかった。標高は頭蓋骨頂部が5.32m、大腿骨が5.25mで、10号人骨と同様に3号墓より高い。時期は10号人骨と同様に、古墳時代前期の可能性が最も高い。これも上面を検出した段階で記録をとり、ただちに埋め戻している。

12. 12号人骨

IV区の弥生時代遺構のなかで最も南西側で検出されており、推定される11号墓の墳丘北側に位置する。骨は細片化して動いたものも見受けられ、遺存状態は極めて悪い。頭蓋骨右側面から右上腕骨、右側の大腿骨から脛骨、足先まで残存している。復元身長157cm。埋葬姿勢は横臥伸展葬の可能性が高い。西に頭位をとり、主軸方位N-95°-W。土質の異なる範囲を平面的に検出しており、墓壇プランの可能性が考えられるものとして図中に破線で示した。墓壇の底面近くがかろうじて残存したものと考えられる。標高は3.9m、弥生中期後葉頃の遺物包含層に掘り込まれていた。時期は直接言及することが難しいが、層位的には弥生中期後葉～奈良時代の幅でしか把握できない。近接する11号墓・12号墓とレベル関係を比較すると、駄石墓の残存上端と人骨の残存レベルが近い。12号墓は古墳時代前期初頭のもので、これがほぼ完全に埋没してから埋葬されたと考えられることから、古くとも古墳時代前期、年代下限は8世紀ごろとなる。

遺存状態が悪く取り上げが難いこと、遺構の保存が決定した後に検出したことなどから、土坑内を掘り上げることをせずに、上面を検出し位置、頭位、規模を確認した後、残存する人骨全てを露出させることなくただちに保護土で被覆して埋め戻した。

13. SK03

長軸153cm×短軸83cmの長梢円形の土坑。細長く南北に上軸をとる。底面は平坦でなく、微妙に凹凸をもつ。底面から側面へならかに立ち上がり、明確な壁面をもたない。埋土の底近くに骨片が残存している。骨片は状態が極めて悪く、本來の法量不明。残存長15cm、径2.5cm。部位は特定できないが、人骨の脛骨あたりとすれば北頭位の埋葬か。埋土は単一の堆積で、3～5cm大の亜角礫を多く含む黒色土。粘性高く密度疎で、現状では保水量多くべちゃべちゃする。

人骨が本来の埋葬位置を保つものとすれば、七坑墓と考えられる。ただし、棺などの痕跡は一切みられない。遺物は小片あるが、意図的なものとは考えられない。

土坑の掘り込み面は8層（弥生前期須賀堆積の砂礫層）の上面からで、7層（弥生中期後葉～後期の包含層）に被覆されている。このことから、弥生前期～弥生中期後葉の時期と考えられる。

14. SK04

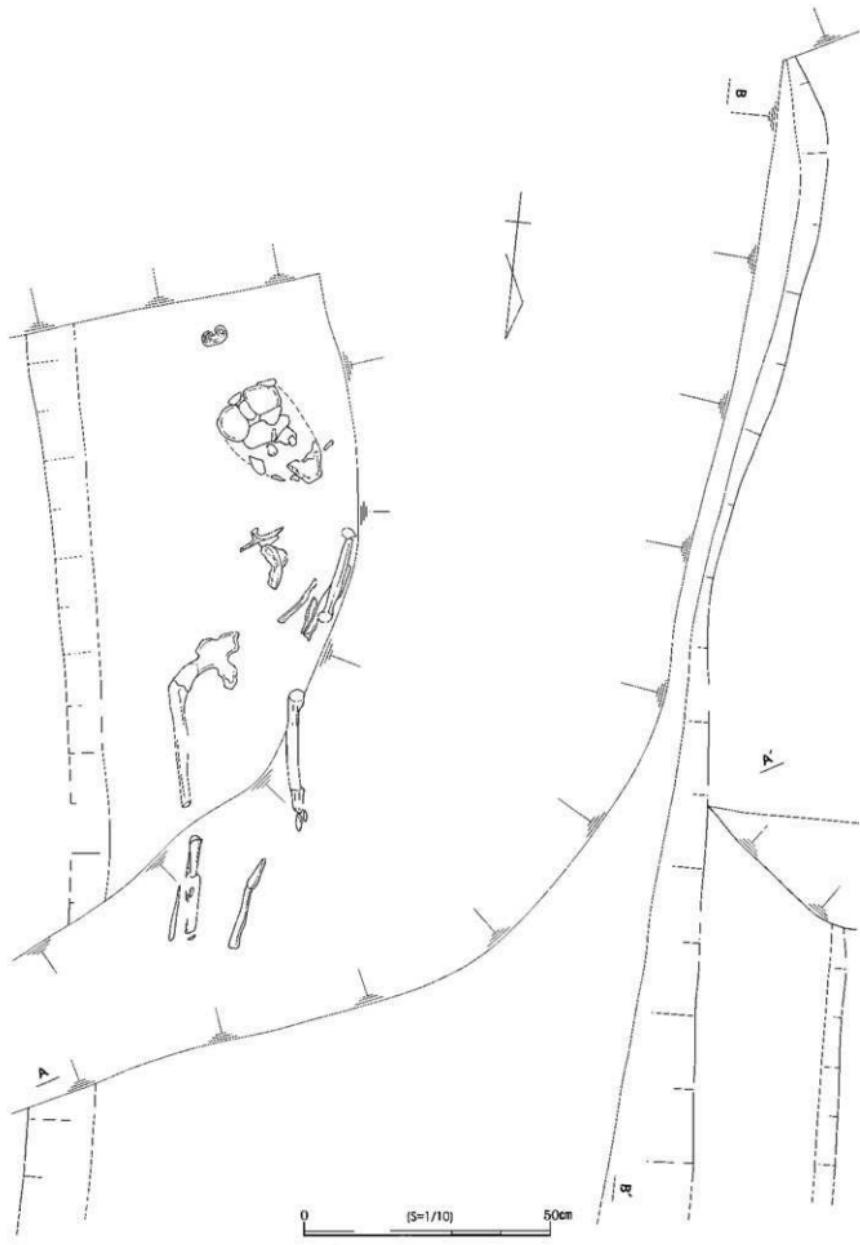
東西に長い橢円形の土坑。二段掘りになっており、上段で長軸153cm。しっかりとした深さのある土坑としては長軸127cm。状態は想いが骨片が含まれており、七坑墓など埋葬に伴うもの可能性がある。

埋土は粘性が非常に高い小礫混黒色土。3cm以下的小礫を含むが、土壤自体はべたつく粘質土。境界が不明瞭ながら、上下2層に分層できる。上層は黒味が強く、より粘性高い。骨片はこの層に含まれる。下層は青灰色があり、基盤層である8層との混成らしい。ただし、壁面・底面にみえる8層とは明確に区別される。棺などの痕跡や、特徴的な土層はみられない。骨片は4カ所に分かれ、小片となって検出された。残存する骨片の部位は特定できないが、内側のものが人骨大腿骨周辺とすれば、本来は西頭位に埋葬されていたものと復元される。七坑東端に角礫が置かれており枕とされた可能性もあるが、面の傾斜がきつく、長軸に対しても正対しないことから考えにくい。

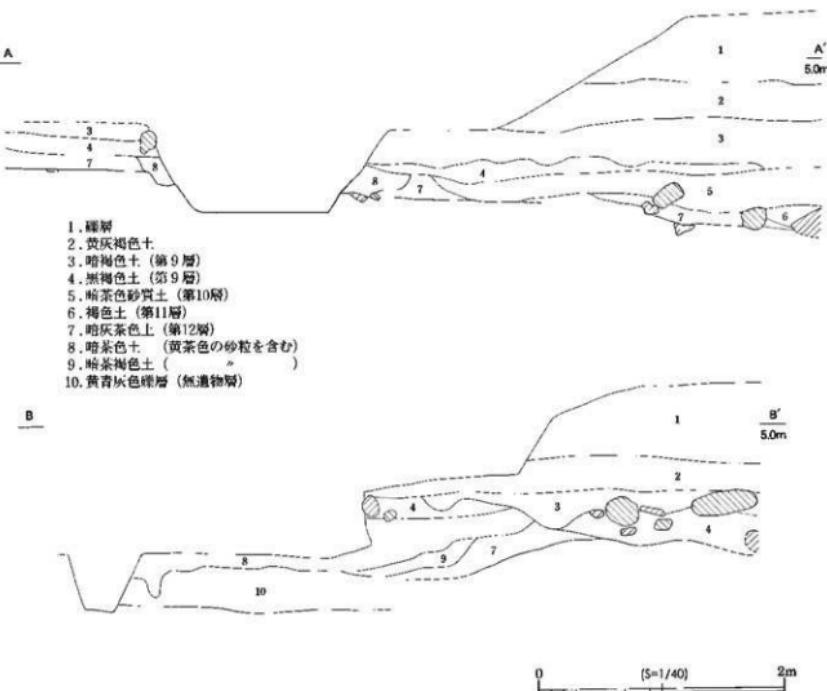
第62図に示した遺物は壺・甕の一部が不規則に埋土中に含まれていた。上層・下層ともに含まれ、いずれも全体のごく一部分の破片にすぎない。意図的でない混入の可能性も考えられる。1と4は薄手の甕で、口唇端部を上方へかすかに折り上げる。内面にケズリ痕がみられない。3の高杯と併せ、中期中葉（Ⅲ様式）のものと考えられる。5の甕は口縁側面に面をもち、若干肥厚させるもので、口縁のみをみれば他の遺物と比較して新しい要素をみせる。この甕は外面に円形の付属具が剥離した痕跡を残し、把手などがつく器種であろう。SK04の遺物は遺構内から一括して出土したもので、若干の時間幅をもつ可能性があるが、全体として弥生中期中葉という遺構の成立時期を示すものと判断してよからう。

第14表 SK04出土遺物 観察表

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第62図									
1	弥生土器	甕	(12.0)			口縁～全体 部全周の 20%	内外面：口縁部ナゲ、胴部ハケメ	内面：灰褐色4 外面：灰褐色3	内外面に焼付着。
2	弥生土器	甕	底径	8.4		底部全周 の100%	内面：ナデ/外壁：ミガキ、底ナデ	内面：灰褐色5 外面：灰褐色1	底部外面黒斑。
3	弥生土器	高杯	(36.6)			口縁～周 部全周の 20%	内面：ナデ、ハケメ/外壁：ハケメ、 ミガキ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色2	口縁上面に斜格子文に近い粗緻な面文。口縁に刻目文。外曲 に焼付着。
4	弥生土器	甕	(19.8)			底部全周 の20%	内面：ナデ、粗粒底、ミガキ/外 面：口縁部ナデ、胴部タタキ・ハ ケメ・ミガキ	内面：灰褐色4 外面：灰褐色1	脚部に斜行刺突。
5	弥生土器	甕	(24.6)			口縁～周 部全周の 20%	内外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ	内外面：灰褐色1	把手状のものの剥離痕あり。



第56図 1号人骨実測図①



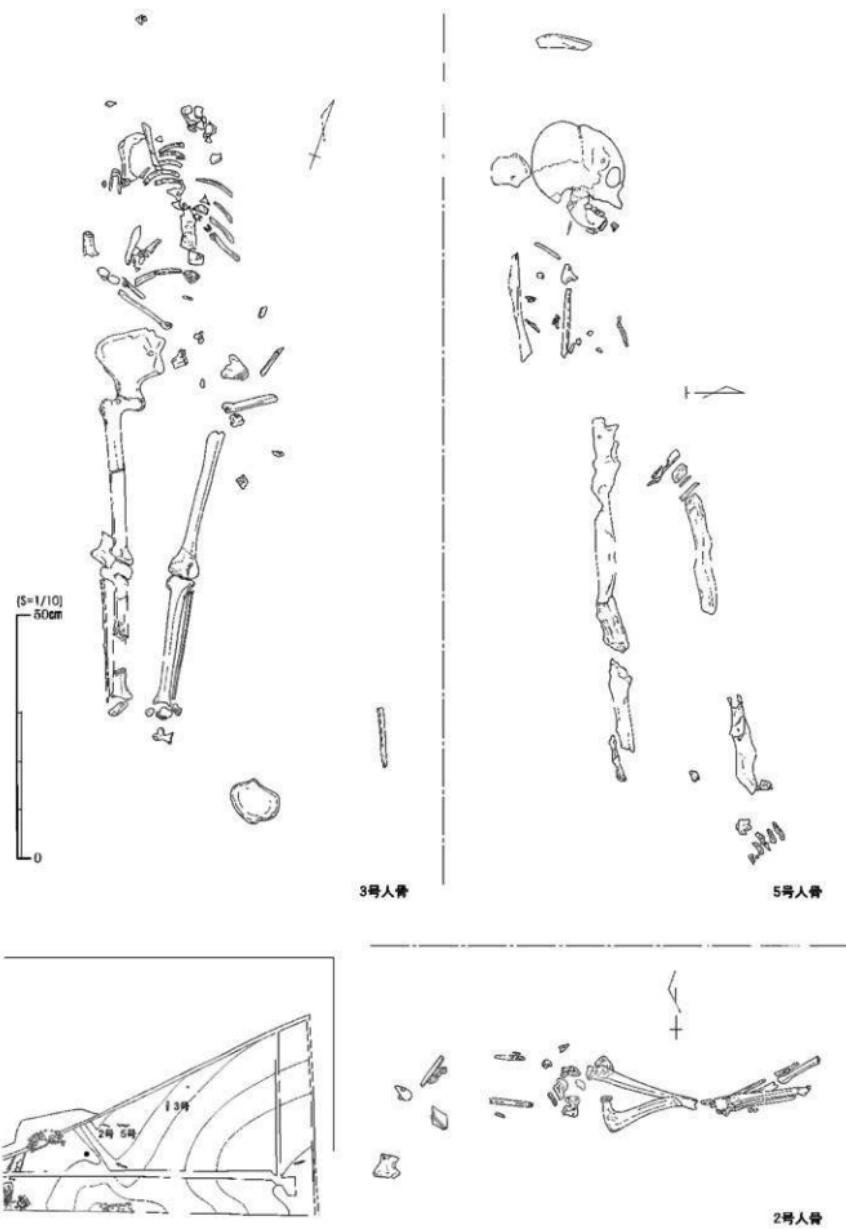
銅鏡飾耳実測図



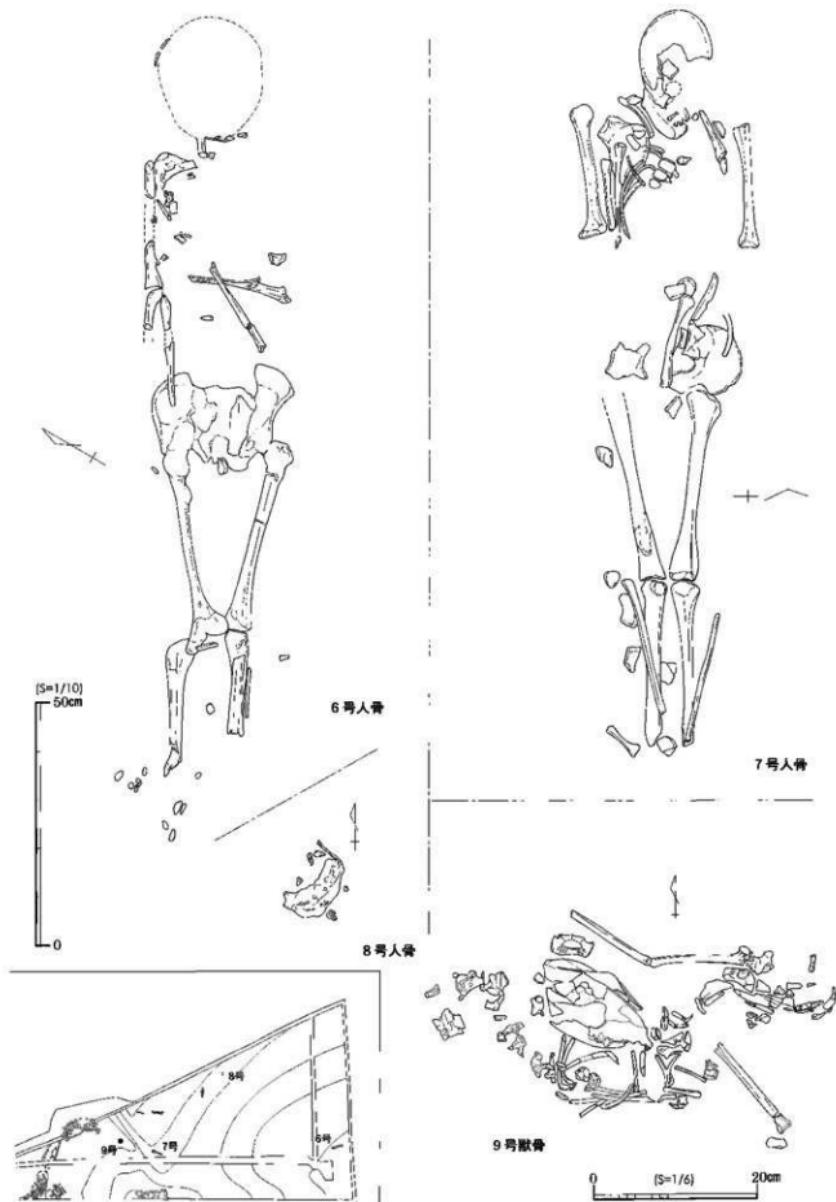
第57図 1号人骨実測図②

写真図版四五 一号人骨に伴う銅鐸飾耳

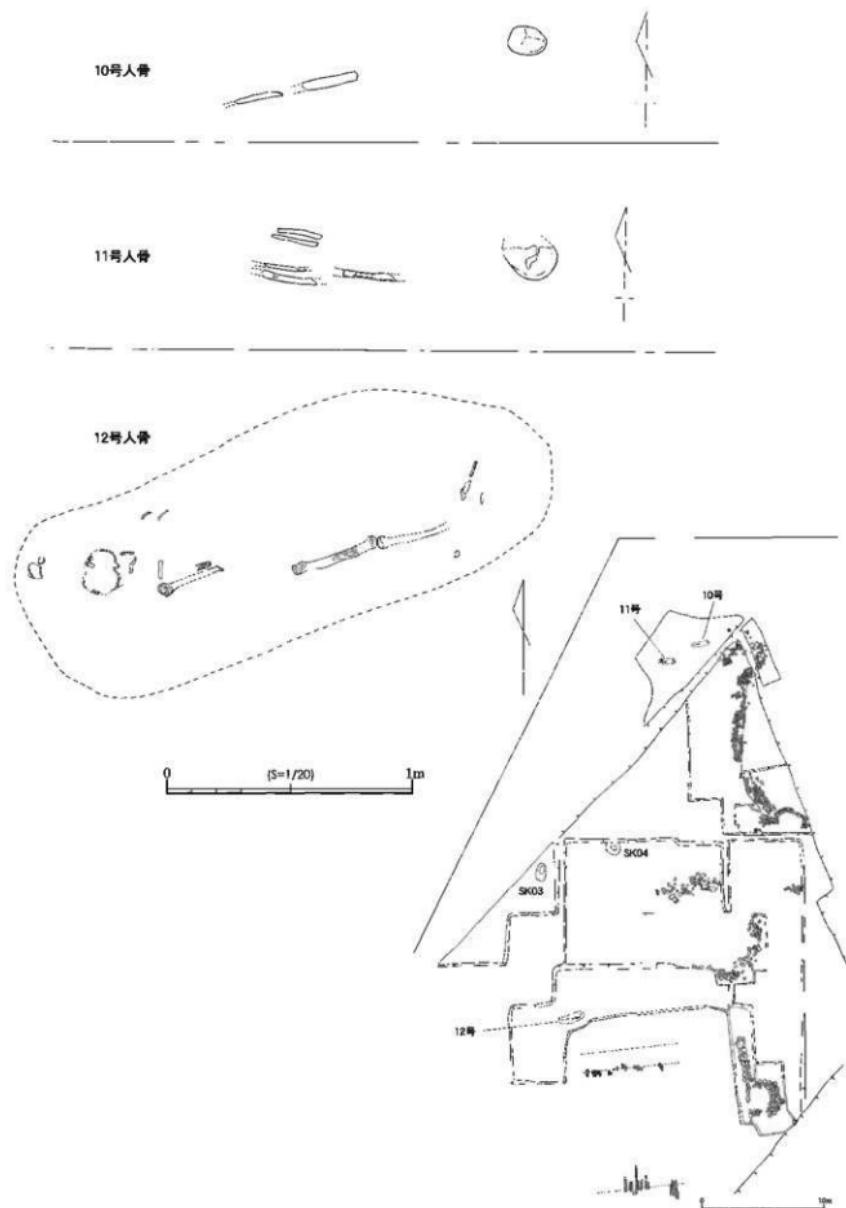




第58図 2号・3号・5号人骨実測図

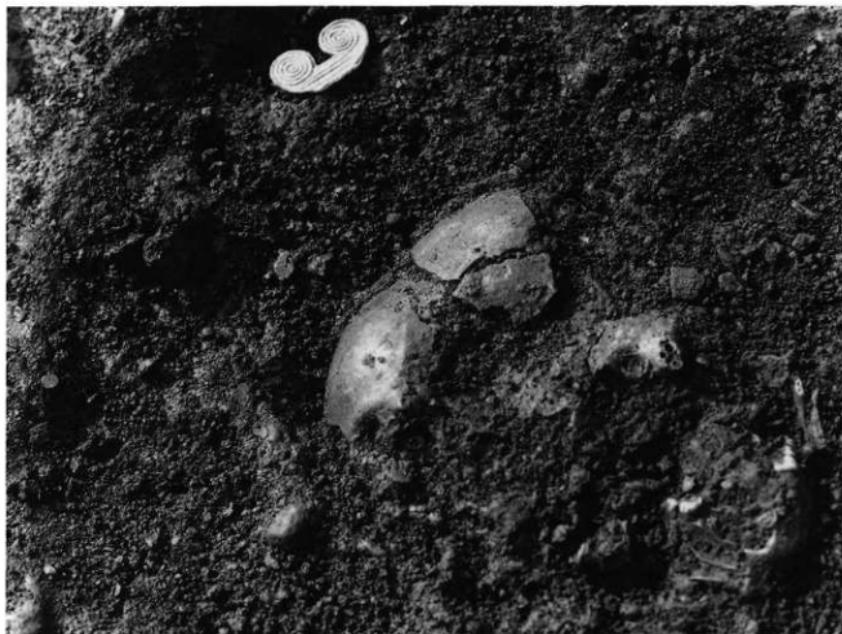


第59図 6号・7号・8号人骨、9号獸骨実測図



第60図 10号・11号・12号人骨実測図

写真図版四六 弥生時代の遺構／一号人骨



上：頭骨と銅鋌飾耳
下：墓縁と人骨（南から）

写真図版四七　弥生時代の遺構／一号人骨



写真図版四八 弥生時代の遺構／一号・三号人骨



上：1号人骨発掘時
下：3号人骨

写真図版四九

弥生時代の遺構／五号・六号人骨



上：5号人骨
下：6号人骨

写真図版五〇 弥生時代の遺構／七号人骨・九号獸骨



上：7号人骨
下：9号獸骨

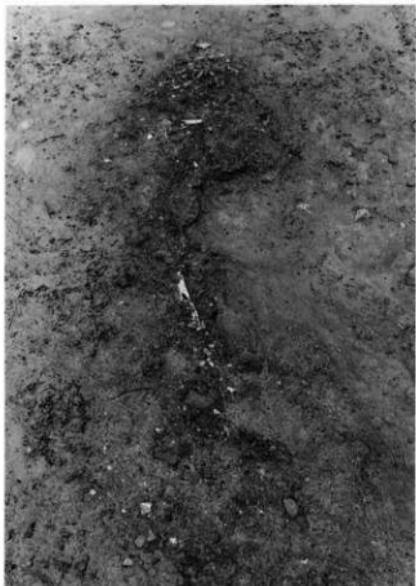
写真図版五一
弥生時代の遺構／十号人骨

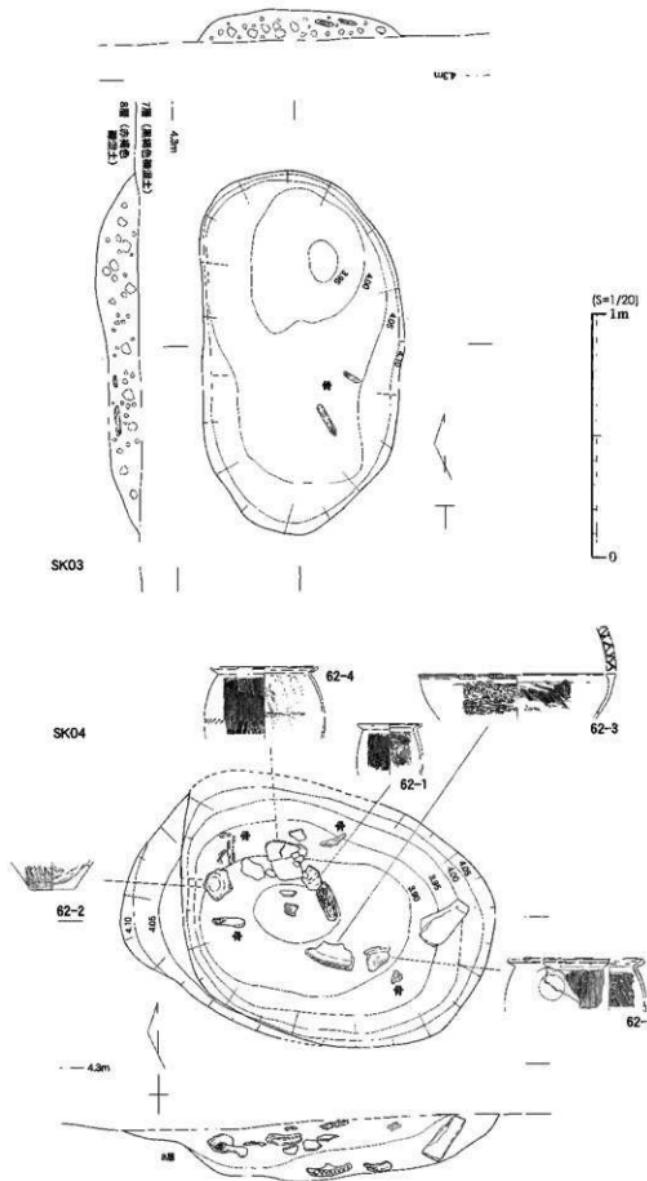


写真図版五二
弥生時代の遺構／十一号人骨



写真図版五三
弥生時代の遺構／十二号人骨



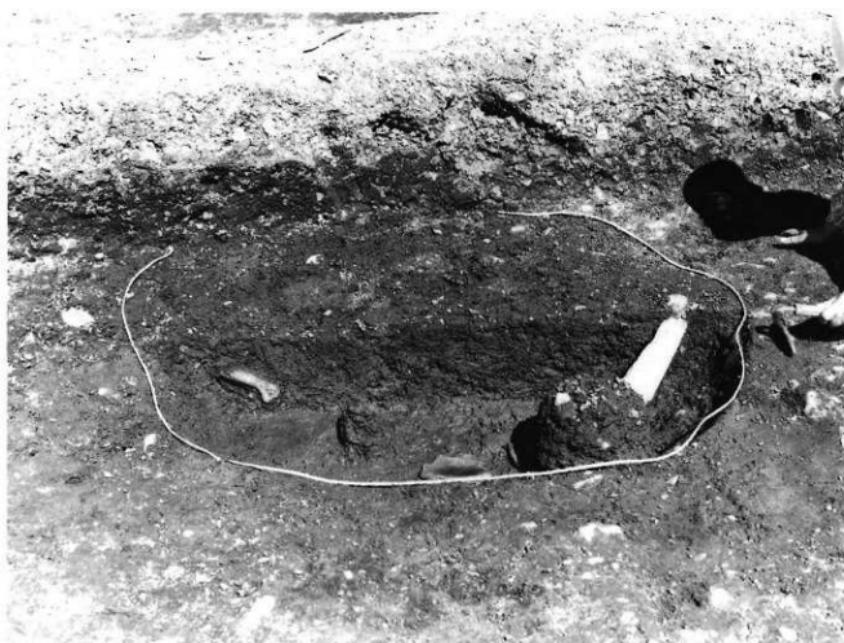


第61図 SK03 (上)・SK04 (下)実測図

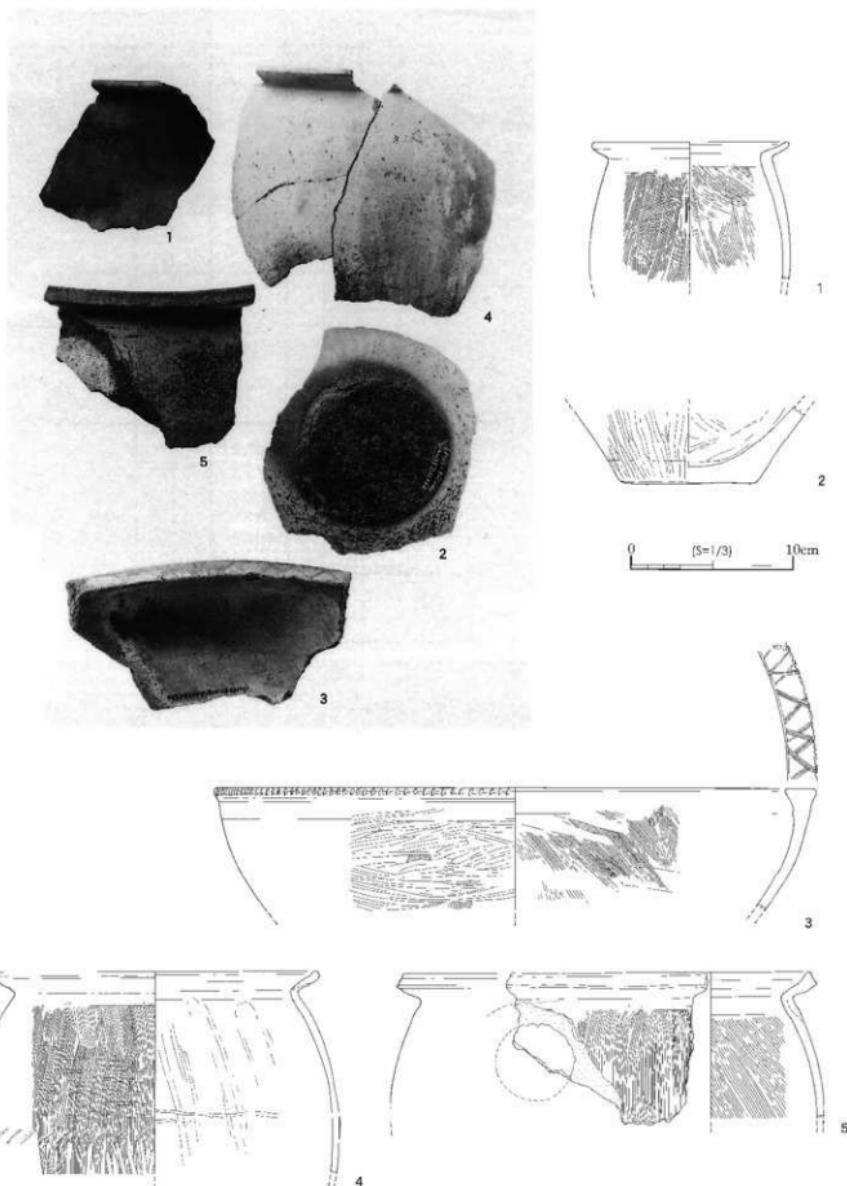
写真図版五四
弥生時代の遺構／土壙墓／SK03



写真図版五五
弥生時代の遺構／土塚墓／MSK01



写真図版五六 SK04出土遺物



第62図 SK04出土遺物実測図

第5章 遺物の詳細

第1節 包含層出土弥生土器

遺構に伴わないもの、遺構の解釈に直接関係しない状態で出土したものを包含層出土として一括して扱った。I区とIV区の調査区の別を優先し、次に出土した層位ごとに分けて掲載している。IV区については、さらに出土したグリッドごとにまとめている。グリッドの配列および層位関係については、文末に凡例を掲載しているので参照いただきたい。

I区・IV区をあわせてコンテナ170箱分の弥生土器が出土している。全体の時期的傾向や器種組成を反映するよう努めながら、292点を抽出して掲載した。同型同大が多数出土しているものについては残存率の高いものから一部を選んでいる。また他地域からの搬入や影響が考えられるもの、類例の少ない特殊なものについては全点掲載することとした。

1. I区包含層出土土器

第12層出土土器（第63図～第67図）

Y001～016は甕である。001、002は口縁部が屈曲するもので肩部外面に列点文を施している。003はL字縫端部が上下に肥厚し端部外面に3条の凹線文を施したのち刻み目を入れ円形浮文で飾られている。頸部外面には貼り付け突帯文をめぐらしている。肩部以下は凹線の間にハケ日と羽状文を施している。004は口縁端部の側面を横方向に突出させて平らな面をつくり、頸部外面に突帯を貼り付けている。口縁上面に4条の波状文を施し、口縁端部と頸部の突帯に刻み目を施している。胴部外面に凹線と波状文を施している。005～007は頸部外面に貼り付け突帯をめぐらすものである。005は口縁端部外面に刻みによる羽状文、胴部に刺突文を施している。006は口縁端部外面に貝殻状工具による刺突文、胴部に斜行刺突文を施している。007はくりあげ口縁外面に4条の凹線文、肩部に3列の列点文を施している。008は口縁端部が上下に若干肥厚する。009は口縁外面に2条の凹線文を施したのち刻み目を入れる。010～012はL字縫部が上及び上下に肥厚するもので、010は胴部に斜行刺突文、012は列点文を施す。013、014は口縁部外面に3～4条の凹線文、肩部に凹線を施した後、重層刻日文を施している。これは堀町系土器と思われる。015は口縁外面に凹線文、胴部に波状文を施している。016は口縁外面に4条の凹線文を施している。

Y017～032は壺である。017～019は口縁外面に斜格子文と円形浮文を施した広口壺で、017は内面にも施している。019は内面を羽状文や円形浮文で飾っている。020はL字縫外面に凹線文、刻目文、棒状浮文で飾っている広口壺である。021は外傾してのびる口縁部の端部外面に横目搔き三角文と円形浮文、口縁外面に4条の突帯をめぐらし刻日文を施す。022は頸部に3条の沈線を施す。023はL字縫外面に凹線文、円形浮文を施し、頸部に断面二角形状の凹線を施す。024は口縁部に凹線文、頸部に5条の沈線を施す。025はL字縫端部に3条の凹線を施す。026、027は口縁部に凹線文、頸部に沈線を施す。028はL字縫外面に鉛鏡文、山形文、突帯状の凹線文を施しているが、壺の脚台部の可能性もある。029は台付壺で外面に多条の凹線を施している。030～032は底部で平底を呈している。

Y033～044は高壺である。033、034は体部から屈曲する口縁部をもち端部側面と体部の境に刻日を施す。035～037は口縁端部が横方向に肥厚し、035、036は側面に刻目を施す。038は口縁部に2条の凹線を施し、赤彩している。039～041は脚部で凹線文、刻目文で飾り、041は円形透かし、042は竹管文を施す。

Y045～047は台付壺である。046は胴部中央がよく張るもので、凹線と波状文を施している。台部はハの字状に開き、凹線文、山形文、三角形刺突、円形の透かしを施している。047は底部との境に3条の突帯をめぐらせている。

第11層出土土器（第68図～第72図）

Y048～063は複合L縁の壺であり、060までのものはL縁外面に凹線及び擬凹線を施している。051は口縁が拡張しないものである。頸部から肩部にかけて刺突文を施すものが認められる。064は単純口縁の壺である。065～069は複合L縁の壺で、067までは口縁外面に凹線及び擬凹線を施す。069は肩部に波状文を施す。070は器台でL縁に1条の沈線を上に施し、その間に5条の波状文を2段に施している。穿孔が1箇所あり。071～074は壺壺類の底部で、073は小型のものである。075～083は高坏である。075は碗形の壺部で外面に5条の沈線を施す。076はL縁端部に1条の凹線と刻目を施す。077、078はL縁と体部の境に稜をもち、内面に暗文を施す。082は脚部外面に3条以上の沈線を施す。083は円形の三方向透かしをもつ。085は肩部に突帯をめぐらしその下方に斜行刺突文、上方に竹管文を施す壺である。086は口縁部をくぐる壺であるが、肩部に2条の突帯をめぐらしてL縁を綾杉文で飾り、穿孔を有する。他地域の壺入品の可能性がある。087は底部で086の底部の可能性がある。088～093はスタンプ文土器で、091以外は胴部に突帯がめぐり、突帯の上下が突出するものである。088は胴部に沈線と交互に半裁竹管による刺突文、C字状文、綾杉文などを施す。089は沈線と交互に連続渦巻文、二重同心円文などが施される。090は沈線と交互に羽状文、C字状文などが施される。091は沈線と交互に綾杉文、羽状文などが施される。092は綾杉文、竹管文などが施される。093は2条の沈線と刺突文、同心円文が施される。094は鉢である。095、096は壺壺類の底部である。097～099は蓋で097はつまみに凹線文を施し、穿孔あり。100は鉢である。101は壺である。

Y102～107は壺位が不明な上器である。102は肩部に2条の沈線をもつ壺である。103は口縁外面に1条の凹線と刻目を施す壺で、胴部下に刺突文を施す。104は肩部に小さな段をもつ壺である。105はやや作りが粗雑な壺である。106は頸部下に3条の沈線を施す壺である。107は高坏でL縁端部外面に円形浮文、側面に刺突文を施す。

第10層出土土器（第73図）

ここには第10層（古代の包含層）に混入した弥生上器を掲載している。

Y108～110は壺である。108は口縁部が横方向に大きく開き、口縁外面に4条の凹線、内面に5条の凹線を施している。頸部には凹線、斜格子の刺突を施している。109は頸部から外反気味にのびる口縁部で口縁外面に3条の凹線と羽状文を施したのち竹管文を施した円形浮文を貼り付けている。111は体部から屈曲して伸びる口縁部を有する高坏で、外面に3条の凹線、刻目文、棒状浮文を施している。112は体部境に刺突文、脚部に7条の沈線、刺突文、円形透かしを施す。113は鉢形土器であるが輪廻は不明。114は断面長方形の把手である。

サブレンチ出土土器（第74図～第76図）

調査区に設定したサブレンチや排水用の溝から出土した土器を掲載した。

Y115～117、119、121はL縁部が緩やかに外反する壺で、115は胴部に小さな段、116は沈線を施す。117は口縁端部に刻目文、119は胴部に6条の沈線を施す。121は口縁端部に刻目、胴部に沈線と刺突で羽状文を表現している。118は外面に「の」の字状の浮文を施すものである。120は口縁部が斜掛する壺で端部に凹線を施す。122はL縁が丸く肥厚しながら端部が上方を向く壺である。123は口縁部に凹線、頸部に貼り付け突帯をもつ。124はL縁に1条の凹線と刻目を施す。125は小型の壺である。126は付差の台で凹線を施す。127～130は壺である。127は口縁外面、内面に波状文を施している。128は口縁外面に4条の凹線と棒状浮文、内面に重弧文、斜格子文、沈線を施す。頸部に6条の凹線、刻目を施している。129はL縁端部が上面にヘラ状工具による斜線文を施したのち円形浮文を貼り付けている。130は頸部に貼り付け突帯をめぐらし、肩部に刺突文を施す。131～133は壺壺類の底部である。134～136は高坏である。134、135は口縁端部が横方向に肥厚して側面に凹線と刻目を施している。137は口縁部が横方向に強く屈曲する壺で胴部に2条と3条の突帯をめぐらし、刻目を施している。

2. IV区包含層出土土器

第7層出土土器（第77図～第80図）

7層は墳墓等の遺構が形成されている基盤層にあたる。I区の12層と対応する。

第77図・78図にはY20グリッド出土のものをまとめた。このなかでY138～145はまとまった位置で出土しており、一括りがあるものと認められる。Y138は高环の脚部で凹線と刺突を施す。139～141、143～145はくりあげ口縁の甕で、139は口縁外面に列点文を施す。その他は凹線文を施しているが、140、143、145は頭部に貼り付け突帯をめぐらす。141と144は頭部に沈線のち斜行刺突文を施す。141の施文は塩町式ではみられない技法であるが、144は塩町式と共通する特徴をもつ。ただし胎土は塩町式とは異なる。142は直口壺で端部外面に凹線を施す。146は器台で筒部が長く、受け部に凹線を施す。上層のものが混入した可能性がある。147はL字縁端部が外方に肥厚して刻目を施す甕で頭部に直線文と波状文を施し、2個で1対の穿孔を有する。148は壺類の底部である。147と148は同一個体か。II様式のものである。149は口縁が強く突出する甕である。一方、150は頭部に貼り付け突帯をめぐらす甕で、口縁部に凹線を施す。151は壺類の胴部である。152は外面に貝殻による4条の凹線と重弧文を施す甕と思われる。153～156は口縁部が大きく開く壺である。153は口縁外面に斜格子文を施す。154は口縁外面に斜格子文、上面に压痕文帯を貼り付けている。頭部には断面三角形文帯、棒状浮文を施している。155は頭部に沈線、斜格子文などが施される。高环の坏部が接合部からはがれたものである。156は頭部から大きく開く口縁部をもち端部上面に斜線文と円形容文を施す。外面に断面三角形文帯と棒状浮文などを施す。

第79図はY21グリッド出土のもの。Y157、158は甕で157は口縁部に凹線、頭部に貼り付け突帯をめぐらす。159～162は壺で、161以外は口縁部が横方向に大きく開き斜格子文や刻目、貼り付け突帯などで飾る。162は頭部に沈線と刻目、脚部に沈線と斜線文などで飾っている。163は高环の坏部でL字縁端部に凹線と円形容文を施す。164は高环の脚部で綾杉文を施す。165は器台の脚部で凹線を施す。166～168は甕で168はL字縁が緩やかに屈曲するが、他はくの字状に屈曲する。169は広口壺で口縁部から頭部にかけて6段以上の突帯を貼り付け刻目文を施している。170、171は甕で170は口縁外面に凹線を施している。172はL字縁部が外方に開く壺で、端部外面に沈線と刻目を施す。173は器台の受け部である。174は口縁部が外方に大きく開く壺でL字縁上面に刺突文を施す。175、176は外面に沈線と刺突を施す甕である。

第6層出土土器（第81図～第91図）

第6層は奈良・平安時代の遺物を含む包含層であるが、これに混入する弥生土器が多くあった。したがって内容には時期廟が大きく認められる。一定の移動が想定され、出土地点にはあまり意味が無いかもしれないが、グリッドごとにわけてまとめている。

第81図～第84図にはX21グリッドのものを掲載した。X21グリッドは四隅突出型墳丘墓3号墓の周辺であり、多くの土器が出土している。Y177～189はL字縁外面に凹線文を施す甕である。190～193は緩やかに外反するL字縁部をもつ甕で、190は頭部付近に2箇所の穿孔を有する。191～199は壺である。194～197は口縁部が横方向に大きく開き、L字縁外面に斜格子文、内面に斜格子文、貼り付け突帯、円形容文などで飾っている。198は複合口縁の甕で、199は口縁部に凹線文を施す。200は高环の脚部と思われる凹線と円形容文を施す。201は口縁部が内傾する鉢で外面は凹線文、刻目文、刺突文で飾られている。202は口縁が緩やかに外反する甕である。203は高环と思われる口縁端部に斜格子文と円形容文を施す。204は複合口縁の甕で、肩部に刺突文を施す。205、206は口縁部が外方に大きく開く壺で206の口縁内面には3条の凹線文を施す。207は器台の受け部で外面に複合凹線を施す。208、209は口縁外面に凹線文を施す甕である。210は口縁内部に貼り付け突帯や斜格子文、列点文で加飾した壺である。211は器台で口縁外面に凹線を施す。212～218は複合口縁の甕である。212以外はL字縁部に凹線文を施している。219は複合口縁の高环である。220は口縁部が強く屈曲する甕で端部に1条の凹線を施す。221は壺の肩部の破片で羽状文、ヘラ描き直線文、刺突文が施されている。222は口縁部が横方向に突出し頭部に貼り付け突

帯をめぐらす壺で、口縁端部に刻目、肩部に列点文を施す。223は口縁部が横方向に肥厚し端部上面に斜撇文、肩部に円底文帶をもつ壺である。224はL縁が鈎状にのびた高环である。

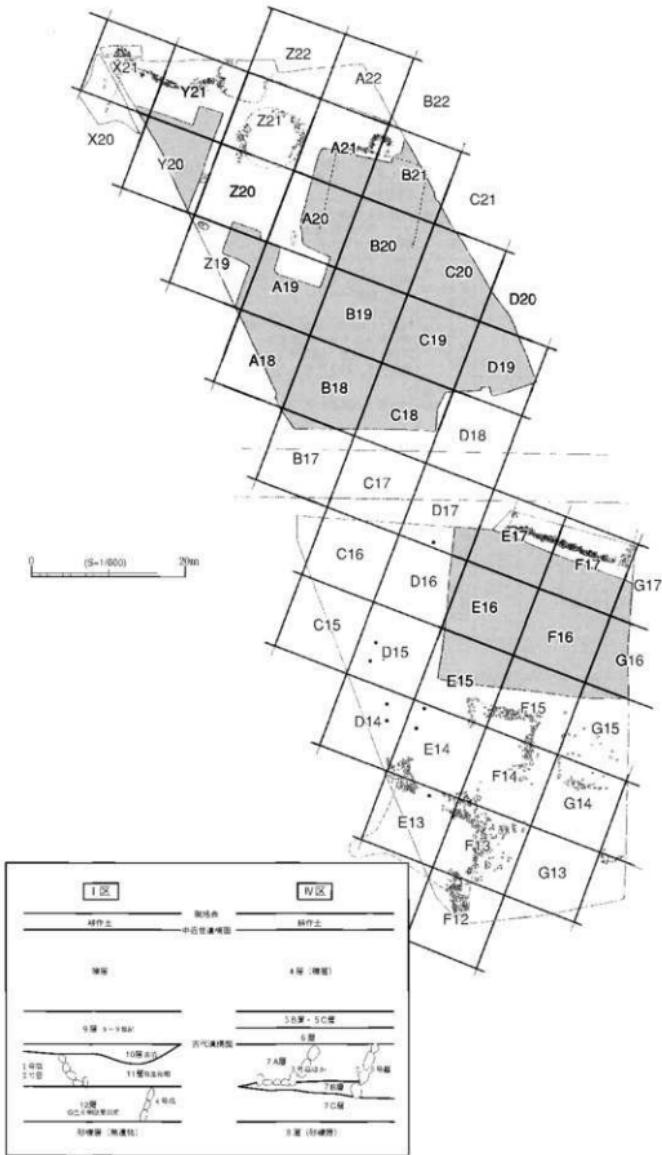
第85図と第86図はY21グリッド出土のもの。Y225～232は甕である。225は口縁外面に擬凹線を施す。226は口縁外面に凹線文、頸部に貼り付け突帶を施す。227は肩部に2条の沈線と刺突文を施す。228は肩部に刺突文を施す。229は底部である。230は口縁に凹線文、231は口縁に凹線文を、胴部に刺突文を施す。232は九州系の可能性がある鉢で口縁部が横方向に崩れし頸部に2箇所の穿孔を有する。233は特殊壺の台で擬凹線を施す。234は高环の脚部で擬凹線を施す。235はL縁部に凹線と刻目を施す甕である。236～240は壺である。236は頸部から胴部にかけて3条の沈線と斜行刺突文、列点文を施す。237は頸部に3条の沈線を施す。238は口縁外面に斜格子文と円形浮文、内面に3条の断面三角形文帶と波状文を施す。239は口縁に凹線文を施し、頸部にサメのような線刻がある。240はL縁に凹線文、頸部に沈線を施す。242、243、245は外面に擬凹線を施す器台である。244は鉢で口縁に2段に列点を施してそれぞれ2条の凹線で切り、6段の刻目を施す。

第87図はY20・Z19グリッド出土のもの。Y246は口縁端部が内側に屈曲する甕で、端部外面に刺突文、頸部に貼り付け突帶をめぐらせ、胴部に刺突文を施している。247は高环の脚部で3箇所に4条の沈線を施す。248は注口土器で列点文を施す。249は長頸壺で凹線文、刺突文などを施す。250、251は口縁部に凹線を施す甕で貼り付け突帶をめぐらすものであるが、突帶は250は肩部に、251は頸部に貼り付けている。252は口縁外面に斜行刺突文、頸部に貼り付け突帶をめぐらす甕である。253は口縁上面に斜撇文、側面に凹線及び刺突文を施す高环である。254は口縁端部が横に突出する甕で胴部に段を有する。255は高环と思われ口縁上面と側面に凹線を施す。

第88図と第89図はZ20グリッド出土のもの。Y256～258は口縁部に凹線を施す甕である。259は口縁部がくの字状の甕である。260は小壺でL縁部は複合L縁を呈する。261は高环の脚部で凹線を施す。262～266は壺である。262は13条の柳描文、三角形刺突文を施す。263は直立ぎみにのびる口縁部で端部に凹線を施す。264は口縁外面に斜行刺突文、頸部に貼り付け突帶をめぐらす。265は口縁外面に斜格子文、頸部に貼り付け突帶をめぐらす。266は口縁端部に凹線文、頸部に7条の沈線を施している。

第90図はB21グリッド出土のもの。Y267～269は複合L縁が退化した甕である。270は壺甕類の底部で平底を呈する。271～273は口縁部に凹線を施す甕であるが、273は凹線の上下に刻目文、肩部以下に斜格子文、刺突文を施している。274は壺甕類の底部である。275は甕の脚部と思われ外面に6条の凹線を施す。276は高环の坏部で端部に2条の凹線、外面に5条の凹線と上部に刻目を施す。277は高环の脚部で端部に2条の凹線と上部に刻目を施す。278は口縁正面に刻目入り断面三角形文帶、外面に刻目入り断面三角形文帶と棒状浮文を貼り付けている。

第91図にはその他のグリッド出土のものを掲載した。Y279、280は菱形器台の受け部で、L縁部は長くのびるものである。281は複合口縁を呈する台付鉢でL縁部に刻目、胴部外面に刺突文を施している。282は単純L縁の甕である。283は高环で口縁外面に凹線と上部に刻目を施している。284はL縁部が鈎状にのびた高环で端部に刻目文を施す。285、286は複合口縁の壺で稜は横方向に突出している。287はL縁部がくの字状に屈曲する甕で口縁端部に刺突文を施す。288は単純口縁の甕である。289は頸部に貼り付け突帶をめぐらす甕でL縁部には凹線を施す。290は口縁部が横方向に大きく開く壺で端部に浅い凹線を施したち斜撇文で飾る。291はL縁部に凹線、頸部に1条の沈線を施す甕である。292は口縁外面に斜格子文、上面に貼り付け突帶を有する甕である。



凡例：グリッド配置および基本層序

第15表 包含層出土弥生土器 観察表①

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第63回									
Y001	甕	C16	(22.0)			口縁一休 底部全周の 30%	内面：口縁部ナデ、胴部ハケメ後 指ナデ/外面：口縁部ナデ、胴部ハ ケメ	内外面：灰褐色1	中期。胴部に点列文。外 面に煤付着。
Y002	甕	C16	19.8			口縁全周 の80%	内面：口縁部一頭部ナデ、胴部ハ ケメ/外面：口縁部一頭部ナデ、胴 部上半ハケメ、頭部下半ハケメ後 ミガキ	内外面：灰褐色1	中期。胴部に点列文。口 縁に並みあり。内外面に 煤付着。
Y003	甕	E14	(17.8)			口縁一頭 部全周の 35%	内面：口縁部ナデ、胴部ハケメ後 ナデ、胴部压痕/外面：口縁部ナデ、 胴部ハケメ後ナデ	内外面：灰褐色1	中期。口縁部目、円形浮 文、頭部舟形文帯、胴部 羽状文。
Y004	甕	D16	(26.9)			口縁一頭 部全周の 30%	内面：ナデ、ハケメ/外面：口縁部 ナデ、胴部ハケメ	内外面：桃褐色1 外面：灰色1	口縁上に4条の波状文、 口縁に2段の削り、肩部 に5条の沈線、5条の波 状文
Y005	甕	D14	25.7			口縁一頭 部全周の 25%	内面：口縁部一頭部ナデ、胴部上 半ハケメ後ナデ、胴部下半ミガキ/外 面：口縁部一頭部ナデ、肩部一 頭部ハケメ後ミガキ	内外面：灰褐色1 外面：灰褐色2	中期。口縁に刻みによる 羽状文、頭部直楕文帶。 胴部に削り文。
Y006	甕	E14	(16.8)			口縁一頭 部全周の 30%	内外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 30%	内外面：灰褐色2 外面：灰褐色1	中期。口縁に貝殻刺突 文、頭部に舟形文帯、胴 部に削り行削文。
Y007	甕	-	(24.8)			口縁全周 の30%	内面：口縁部ナデ、頭部ハケメ/ 胴部ハケメ後ミガキ/外面：口縁部 ナデ、頭部ハケメ	内外面：桃褐色1 外面：灰褐色1	中期。口縁に4条の凹線。 頭部尖端に割り目文。肩部 に点列文3列。退化した頭 部に刻文帯。
Y008	甕	D14	(17.2)			口縁一休 底部全周の 20%	内面：口縁部ナデ、胴部上半 ハケメ、胴部下半ハケメ後ミガキ/外 面：口縁部ナデ、胴部上半ハケメ、 胴部下ハケメ後ミガキ	内外面：灰褐色1 外面：灰白色	中期。外面煤付着。
Y009	甕	G13	(14.4)			口縁一頭 部全周の 20%	内面：口縁部一頭部ナデ、胴部上 半ハケメ、胴部下半ハケメ後ミ ガキ/外面：口縁部一頭部ナデ、 胴部上ハケメ、胴部下ハケメのち ミガキ	内外面：灰褐色1	中期。口縁に2条の凹線 後削り目文。外面に煤付着。
第64回									
Y010	甕	G15	(23.8)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、頭部ハケメ、 胴部压痕/外面：口縁部ナデ、胴部上 半ハケメ、胴部下半ハケメのち ミガキ	内外面：灰褐色4	中期。口縁に2条の凹線。 胴部に削り行削文。外面 に煤付着。
Y011	甕	E15	(9.8)			口縁全周 の40%	内面：口縁部ナデ、頭部ケズリ後 粗いミガキ/外面：口縁部ナデ、胴 部上半纏目ミガキ、胴部下半横ミ ガキ	内外面：灰褐色3	中期。
Y012	甕	E14	(12.0)			口縁一頭 部全周の 25%	内面：口縁部ナデ、頭部上半ハ ケメ、胴部上半ケズリ/外面：口縁部 ナデ、胴部上ハケメ、胴部下ハ ケメ	内外面：灰褐色2	中期。胴部に3条の粗 な点列文。外面肩部以下 及び口縁返り部分に煤付 着。
Y013	甕	E14	(23.8)			口縁一頭 部全周の 20%	内面：口縁部ナデ、胴部压痕/外 面：ハケメ後ナデ/外面：ナデ	内外面：灰白色	中期。口縁に3条の凹線。 頭部に2条の垂直削り目文
Y014	甕	G13	(18.4)			口縁一頭 部全周の 10%	内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ後 ミガキ/外面：口縁部ナデ、胴部不 規	内外面：灰褐色2 外面：桃褐色1	中期。口縁に3条の凹線。 頭部に4条の垂直削り目文。 胴部に削り行削文。 外面煤付着。
Y015	甕	D15	(23.8)			口縁一頭 部全周の 20%	内面：口縁部一頭部ナデ、胴部ケ ズリ/外面：口縁部ナデ、胴部ハ ケメ	内外面：灰褐色1 外面：灰白色	口縁に3条の凹線。 胴部に波状文2列。外面の一部に 黒斑。
Y016	甕	E14	(23.0)			口縁一頭 部全周の 20%	内面：口縁部一頭部上半ナデ、 胴部下ハケメ後ナデ/外面：口縁部 一頭部ナデ、胴部ハケメ	内外面：灰褐色1	中期。口縁に4条の凹線。 頭部に2条の垂直削り目文

第16表 包含層出土弥生土器 観察表②

番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	調査	色調	施文・圖考
Y017	壺	E14	(30.6)			口縁全周 の40%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ナデ、 ハケメ	内面：灰褐色Ⅰ 外面：灰褐色Ⅰ	中期。口縁上間に斜格子文、円形浮文。7条の沈窓。口縁に斜格子文、円形浮文。
Y018	壺	C16	(27.2)			口縁全周 の40%	内外面：ナデ	内外面：灰褐色Ⅰ	中期。口縁に斜格子文、円形浮文。
第65回									
Y019	壺	E14	(31.0)				内面：ナデ/外面：ナデ、ハケメ	内外面：灰褐色Ⅲ	中期。口縁上間に羽状文、1~2条の波状文を施したのも旁窓間に円形浮文。11縦に斜格子文、円形浮文。
Y020	壺		(34.0)			口縁全周 の16%	内外面：ナデ	内面：灰褐色Ⅰ 外面：灰白色	中期。口縁上間に斜格子文、前段文。口縁4条の間窓後斜口、横刻目入り3本の棒状浮文。
Y021	壺	G13	(23.0)			口縁全周 の10%	内面：ハケメ後ナデ、ミガキ/外面： ナデ	内外面：灰褐色Ⅰ	中期。口縁上間に網目模様3角文、円形浮文。5条の沈窓。口縫に斜目文、4条の断面3角文斜文、刻目文。
Y022	壺	G13	(16.8)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、腹部ハケメ後 ナデ、底部压痕/外面：口縁部ナデ、 腹部ハケメ	内面：橙褐色Ⅰ 外面：灰褐色Ⅱ	中期。口縁部内面に2条の凹線、口縁部に3条の凹線、腹部に少なくとも3条の沈窓。
Y023	壺	E14	26.7			口縁100 %	内外面：ナデ、ハケメ	内外面：橘褐色Ⅰ	中期。口縁上に3条の凹線、口縫に5条の凹線、不規則的な円形浮文。頭部に4条の断面3角文。
Y024	壺	B16	(21.5)			口縁~腰 部全周の 25%	内外面：11縦落ナデ、腹部ハケメ	内外面：灰褐色Ⅳ	中期。口縫に4条の凹線、頭部に少なくとも5条の沈窓
Y025	壺	E14	(10.8)			口縁~腰 部全周の 25%	内面：ナデ/外面：口縁落部ナデ、 口縁部ハケメ、腹部ハケメ後一部 ミガキ	内外面：橙褐色Ⅰ	中期。口縫に3条の凹線。
第66回									
Y026	壺	E14	(27.8)			口縁全周 の25%	内面：ナデ、底部压痕/外面：ナデ、 ハケメ、ハケメ後ナデ	内外面：灰褐色Ⅰ	中期。口縫上間に粗雑な 波状文、3条の凹線文。口縫に3条の凹線文、頭部に少なくとも4条の凹線文。
Y027	壺		(28.6)			口縁全周 の70%	内面：口縁部ナデ、腹部压痕 ナデ/外面：口縁部ナデ、頭部ハ ケメ	内外面：灰褐色Ⅰ	中期。口縫上面及び口縫 に3条の凹線、頭部に少 なくとも4条の凹線。
Y028	壺または 高环の脚部	E14	(18.8)			口縁全周 の約6%	内面：ナデ、底部压痕/外面：ナデ、 ハケメ後ミガキ	内外面：灰褐色Ⅰ	中期。山形文、次章状の 凹線文/底环の脚部で天地 逆になる可能性あり
Y029	台付壺	E14	(13.9)			脚部全周 の20%	内面：口縁部ナデ、脚部シボリ、 脚部ハケメ後ナデ/外面：口縁部ナ デ、脚部一側部ミガキ	内外面：灰褐色Ⅱ	中期。脚部に1条の凹線、 ミガキをはさみ8条、1 1条の凹線
Y030	壺	C16		6.7		底部一部 下半周 30%	内面：ハケメ後ミガキ、ナデ後ミ ガキ/外面：ミガキ	内外面：灰褐色Ⅲ	中期。外面に擦付苔。
Y031	壺の底部分			7.2		底部全周 の80%	内面：ナデ、底部压痕/外面：ミガ キ	内面：灰褐色Ⅱ 外面：灰褐色Ⅲ	中期
Y032	壺の底部分	D16		(8.4)		底部全周 の40%	内面：ナデ後ミガキ、ナデ/外面： ナデ後ミガキ、底ナデ	内面：灰褐色Ⅱ 外面：灰褐色Ⅴ	中期。外面に擦付苔。

第17表 包含層出土弥生土器 観察表③

番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	調査	色調	施文・備考
第67回									
Y033	高坏	DE13	24.2			口縁全周の40%	内外面：ナデ、ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色3	5条の回線をはさんで割目文。外面の一部に墨痕。
Y034	高坏	D16	(30.5)			口縁全周の10%	内面：ミガキ、ナデ/外面：ナデ、ミガキと思われるが部位不明	内外面：灰褐色3	口縁上面に3条の回線、口縁に5条の回線。1条目と6条目には割目文を施す。外側に復付着。
Y035	高坏	D14	(29.8)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ/外面：ナデ、ミガキ	内面：灰白色 外面：灰褐色3	口縁部に1条の回線、割目文、内外面の一部に墨痕。
Y036	高坏	D15	(25.8)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ後ナデ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色3	口縁部の一部に黒斑。口縁部に割目文、回線文。
Y037	高坏	D15	(30.0)			口縁全周の30%	内面：环部上半（口縁部）風化のため不詳、环部下半ハケメ後ミガキ/外面：ミガキ	内外面：灰褐色1	中期 口縁部風化。
Y038	高坏	D16	(16.8)			口縁全周の10%	内面：口縁部ナデ、环部上半横方向のケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色1	後期（V-2）。赤彩。口縁に2条の回線。外面に墨痕付着。
Y039	高坏			(13.5)		全体の40%	内面：环部ナデ、脚部ケズリ/外面：ナデ	内外面：灰褐色1	平行沈線を挟んで割目文。
Y040	高坏			11.7		脚部100%	内面：脚部しばり、ナデ/外面：脚部ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	中期。割目、16条の沈線、7条の沈紋、2条の回線。
Y041	高坏	E14		(10.8)		脚部全周の25%	内面：シボリ、ケズリのち脚部ナデ、ナデ/外面：ミガキ、ナデ	内外面：灰褐色1	19条の回線、5条の回線、円形透かし
Y042	高坏	D16		(10.4)		口縁全周の80%	内面：环部ミガキと思われるが部位不明、脚部ナデ/外面：ナデ	内外面：灰褐色2	5条の帯状文、1条目と5条目には割目文。竹管文、4条の沈線。
Y043	高坏	D15		(15.0)		脚部全周の20%	内面：ケズリ/外面：ミガキ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	中期。5条のあいまいな沈線。
Y044	高坏	D16		7.9		脚部90%	内面：ナデ、指ナデ/外面：脚部ナデ	内外面：灰褐色1	割目文、10条以上の回線。内外面に復付着。
Y045	台付壺	D15			小径	内面：ナデ、ハケメ/外面：ミガキ	内面：灰褐色4 外面：灰褐色2	中期	
Y046	台付壺口壺	E14		(10.8)		全体の30%	内面：脚部上半指ナデ、脚部下半ヨコナデ・ハケメ、脚部しばり、ナデ/外面：脚部上半ハケメ後ナデ、脚部下半ミガキ、脚部ナデ	内外面：灰褐色1	五一-1. 脚部は粗筋な波状文を挟み5-6条の平行沈線。脚部は脚面二角形文、5条の沈紋、透かし風、三角形文。脚部孔あり。円盤充填法。
Y047	台付壺			15.8		脚部全周の100%	内面：环部ハケメ後ミガキ・ナデ、脚部ナデ・指ナデ/外面：脚部ミガキ、脚部ナデ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色1	中期。脚部に3条の断面二角形文帯。
第68回									
Y048	甕	E14	(31.9)			口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色2	口縁に少なくとも9条の回線、10縫に至る。外面の一部に墨痕。
Y049	甕	G13	(35.8)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁に5条の回線。
Y050	甕	E14	(16.8)			口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	肩部に斜行割目文。外面の一部に墨痕。
Y051	甕	G13	(12.8)			口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	内面：灰褐色1 外面：指ナデ1	口縁は鉛張しない。
Y052	甕	E14	(13.8)			口縁全周の30%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色3 外面：指ナデ1	後期。口縁に4条の回線。外側口縁附近に復付着。
Y053	甕	G14	16.7			口縁全周の90%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色1	穿孔あり。口縁に3条の回線、肩部に斜行割目文。
Y054	甕	G14	(21.6)			口縁全周の30%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外面：口縁部ナデ、脚部ナデ	内面：灰褐色3	口縁に3条の回線。
Y055	甕		(21.0)			口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、脚部ミガキ、肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色3	後期。口縁に6条の回線、脚部に利刃文。外側口縁の一部に墨痕。
Y056	甕	E15	(21.6)			口縁全周の30%	内面：口縁部ナデ、肩部上半ケズリ/外面：口縁部ナデ、脚部上半ハケメ	内面：灰褐色2 外面：灰白色	後期。口縁に3条の回線、脚部に利刃文。外面に墨痕。

第18表 包含層出土弥生土器 観察表④

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	説文・備考
Y057	甕		21.3			口縁全周の50%	内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、 肩部ケズリ/外面：口縁部ナデ、 肩部ハケメ	内外面：灰褐色 3	後期。口縁に12条の波状線。 肩部上半に列点文(貝袋によるか)
Y058	甕		(20.6)			口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色 外面：灰褐色1	後期。口縁に6条の凹線。外 面に保付。
Y059	甕	E14	(17.3)			口縁全周の30%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面：灰褐色 外面：灰褐色2	後期。口縁に4条の凹線。肩 部に刻文。口縁外側に保付。
第88回									
Y060	甕	F13	(29.0)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ナデ	内外面：灰褐色 2	口縁に17条の波状線。
Y061	甕	F13	(14.6)			口縁全周の40%	内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、 肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色3	後期。外側黒度。
Y062	甕	F13	(17.0)			口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ、ハケメ後ナデ	内外面：灰褐色 1	肩部に斜行削文。
Y063	甕	F13	(17.2)			口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ、口縁部ナデ、肩部ハケメ	内外面：棕褐色 1	後期。肩部に12条の波状文
Y064	甕		(17.2)			口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内外面：灰褐色 1	
Y065	甕		17.0			口縁全周の80%	内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、 肩部ケズリ/外面：口縁部ナデ、頸 部ナデところごろミガキ、肩部 ハケメのちミガキ	内面：灰褐色3 外面：灰褐色2	後期口縁に4~5条の波状線。
Y066	甕		(26.6)			口縁全周の20%	内外面：ナデ・ハケメ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色3	後期。口縁に5条の凹線。
Y067	甕	F13	(20.0)			口縁全周の25%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ナデ	内外面：灰白色 1	口縁に4条の凹線。頸部に少 なくとも7条の波状線。
Y068	甕	F13	(20.6)			底部全周の25%	内面：ナデ、ケズリ/外面：ナデ、 ハケメ	内外面：灰褐色 1	後期
Y069	甕	F13	16.9			口縁全周の80%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内外面：灰褐色 1	後期。肩部に日輪による波 状文。
Y070	器台		(33.8)			口縁全周の20%	内面：ナデ、ケズリ後ミガキ/外面： ナデ、ハケメ後ミガキ	内外面：棕褐色 1	口縁に1条の沈線を上下には さんで5条の波状文が2段施 される。穿孔アレ所。
Y071	甕の底部	G14		5.4		底部全周の100%	内面：ハケメ/外面：ミガキ、底ナ ド	内面：灰褐色3 外面：灰白色	中期
Y072	甕の底部	G14		5.2		底部全周の100%	内面：指頭圧痕、ナデ/外面：ミ ガキ、底ナド	内外面：灰褐色 3	中期
Y073	小甕	E14		1.2		全體の40%	内面：脚部ケズリ、ナデ/外面：脚 部上半横ミガキ、脚部下半縫ミガ キ	内外面：灰褐色 2	中期。肩部に斜行削文。 外面に保付。
第70回									
Y074	甕または 壺の底部	G13			(4.8)	底部全周の80%	内面：ケズリ/外面：ミガキ、底ナ ド	内外面：灰褐色 1	中期
Y075	高坏	G15	(19.3)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ、指 頭圧痕/外面：ナデ、ミガキ	内外面：棕褐色 1	5条の沈線
Y076	高坏	G15	(22.5)			口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ/外面： ナデ、ミガキ	内面：灰褐色3 外面：灰褐色2	口縁に1条の凹線後刻目文。
Y077	高坏	G14	(21.8)			底部全周の0%	内面：ナデ、ミガキ後ナデ/外面： ナデ、ハケメ後ナデ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色1	底部と口縁部で胎土が 異なる。
Y078	高坏	G13	13.8			底部70%	内面：ナデ後ミガキ/外面：ハケメ 後ナデ	断面：棕褐色1	赤彩。内面に放射状暗文。
Y079	高坏	G14	(17.2)			口縁全周の20%	内面：ハケメ、ミガキ/外面：ナデ、 ハケメ	断面：灰褐色1	赤彩
Y080	高坏	G13	12.1			底部100%	内面：脚部しづり、ナデ、ハケメ 後ヨコナデ/外面：ハケメ、ナデ、 指頭圧痕	内面：棕褐色2 外面：棕褐色1	中期。粗い4条の沈線。
Y081	高坏	E17	14.3			全體の80%	内面：部ナデ・ケズリ後ナデ、 脚部ケズリ後ナデ・ハケメ後ナデ/ 外面：ナデ後ミガキ	内外面：灰褐色 3	
Y082	高坏	G14			(9.4)	脚部全周の25%	内面：ケズリ/外面：ナデ	内面：桃褐色3 外面：桃褐色2	少なくとも3条以上の沈線。

第19表 包含層出土弥生土器 観察表⑤

番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	構造		色調	施文・備考	
							(12.2)	脣部全周の45%	内面：ナデ、凹板ナデ後ナデ/外面：ナデ		
Y083	高环	G13					8.8	脚部90%	内外面：ナデ	内外面：灰褐色1	
Y084	脚古部	G14						脚部全周の25%	内面：ナデ、指頭圧痕、ケズリ/外 面：ハケメ後ナデ	内外面：灰褐色2	竹管文、肩部に1条の沈線 と斜行刻文あり。
Y085	壺	F13									
第71回											
Y086	壺	G13				脣部全周の10%	内面：ハケメ後ナデ・脚頭压痕、 ハケメ/ナデ、ミガキ	内面：棕褐色3、 棕褐色1	綾杉文、穿孔あり。		
Y087	壺	G13				脣部全周の25%	内面：脚部下半ハケメ、ナデ/外 面：脚部上半ハケメ後ミガキ、底 ナデ	内外面：棕褐色2	Y086の底部か。		
Y088	特殊壺	F13	11.6	(22.6)		口縁全周の50%	内面：口縁部ナデ、曲面部ナデ、 脚部ケズリ後ナデ/外面：口縁部 ナデ、脚部ハケメ後ミガキ	内面：灰白色 外面：灰褐色2		後期中葉。口縁に9条の 擬問線。脚部に沈線と交 互に刺突文・C字状文・ 綾杉文・C字状文・時 文・刺突文・突帯文・ C字状文・沈線文・C字状文・ 沈線文。	
Y089	特殊壺	E14	11.6	(21.0)		口縁全周の80%	内面：口縁部ミガキ、脚部ナデ、 脚部ケズリ後ナデ/外面：口縁部 ナデ、脚部ハケメ後ミガキ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1		後期中葉。赤彩。口縁に 8条の凹線。脚部は沈線 と交互に羽状文・C字状文・ 羽状文・刺突文・羽状文・ C字状文・刺突文が施さ れる。脚部に突帶。	
Y090	特殊壺	D15				全体の80~ 90%	内面：脚部上半ミガキ、脚部下半 ケズリ後ナデ、脚部ミガキ/外面： ナデ	内面：灰白色 外面：灰褐色		後期中葉。脚部に沈線と 交互に羽状文・C字状文・ 羽状文・刺突文・羽状文・ C字状文・刺突文が施さ れる。脚部に9条の凹線。	
Y091	特殊壺	E14			(13.8)	最大径全周 の40%	内面：脚部上半ケズリ後ナデ・茹 ナデ、脚部下半ミガキ/外面：ナデ	内外面：灰白色		後期中葉。沈線とヘラに よる斜行刻文が施される。 脚部疊人像付近にはヘラによる羽状文、外 面の一部に赤色感料残る。	
Y092	特殊壺	G13			(16.0)	最大径全周 の20%	内面：ケズリ後ミガキ/外面：ナデ	内外面：灰褐色2		後期中葉。赤彩。沈線と 交互にD型変換綾杉文・ 竹管文が施される。	
Y093	特殊壺	E14			(20.9)	体部最大径 全周の20%	内面：ハケメ後ミガキ/外面：ナデ	内面：灰白色 外面：灰褐色2		後期中葉。2条以上の沈 線・刺突文・突帯・2条 の沈線・刺突文・突帯・ 4条の沈線・陰行刻文 圓心凹文。	
第72回											
Y094	鉢	G15	7.3			全体の90%	内面：ナデ、茹ナデ/外面：ナデ、 ハケメ	内外面：灰褐色2	内外面に煤付着。		
Y095	壺または 甕の底盤	G15			4.6	脣部全周の 100%	内面：茹ナデ/外面：ミガキ、底ナ デ	内面：灰褐色3 外面：灰褐色4	中期。外面に煤付着。		
Y096	壺または 甕の底盤	G15			6.3	底部全周の 100%	内面：ナデ、ハケメ後に具による ナデ/外面：ハケメ後ケズリ	内面：棕褐色1 外面：灰白色	中期		
Y097	壺	F13			5.65	天井部100%	内面：天井部ナデ、ミガキ(單位 不明瞭)/外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色1	後期 5条の沈線。		
Y098	壺	E14	(12.4)	4.2	6.1	全体の60%	内面：ナデ/外面：茹ナデ・脚部さ え	内外面：棕褐色1			
Y099	壺	E14	(13.5)		4.6	体部全周の 40%	内面：ナデ、脚部圧痕、ミガキ/外 面：ナデ、ミガキ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色1	前期 内外面の大部分に 黒斑。		
Y100	鉢	G14	(16.0)			口縁全周の 30%	内面：ハケメ後ナデ/外面：ハケメ 後ナデ・ケズリ	内面：棕褐色1 灰褐色3			
Y101	瓶	F13				小片	内面：ケズリ/外面：ハケメ	内外面：棕褐色2	外面に煤付着。		

第20表 包含層出土弥生土器 観察表⑥

番号	器種	グリッド	口径	底径	腹高	残存率	調査	色調	旗文・備考
Y102	甕		(20.8)			口縁一部 底全周の 10%	内面：ハケメ後ナデ、剥頭圧痕/外 面：口縁部ナデ、胴部ハケメ	内外面：灰褐色 2	前期。胴部に2条の沈線。
Y103	甕		(12.8)			口縁全周 の25%	内面：口縁部一部ナデ、胴部ハ ケメ/外面：口縁部一部ナデ、胴 部上半ハケメ、胴部下半ミガキ	内外面：灰褐色 2	中期。口縁に1条の沈線後 刻目文。胴部に貝紋模様に よる点文。内外面に焼付 着。
Y104	甕				底全周 の25%	内外面：ハケメ後ミガキ	内面：棕褐色 1 外面：灰褐色 3	前期。胴部に段。	
Y105	甕			10.7		口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、剥頭圧痕ナ デ、胴部ナデ、口縁部ナデ、剥頭 押いハケメ、胴部ハケメ後粗いミ ガキ	内面：灰褐色 2 外面：灰褐色 3	中期。風化著しい。内外面 の1種及び全体に焼付着。
Y106	甕		(19.0)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、胴部ハケメ、 押痕さえ/外面：口縁部ナデ、胴部 ハケメ	内面：灰白色 1 外面：棕褐色 1	中期。口縁に3条の凹線、 胴部に3条の沈線。
Y107	高环		(23.2)			口縁全周 の25%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ/外面： ナデ、ミガキ	内外面：棕褐色 1	口縁上面に3種1組の円形 浮文が4か所。口縁に刻目 文。

第73図

Y108	甕	B16	(34.0)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、頭部ハケメ/外 面：口縁部ナデ、頭部ハケメ	内外面：灰褐色 2	中期。口縁上面に5条の沈 線。口縁に4条の凹線。頭 部7条の沈線、粗い刻文、 斜格子文、粗粒な沈線、斜 格子文。
Y109	甕	E13	(29.2)			口縁一部 底全周の 20%	内面：ハケメ後ミガキ/外面： ナデ、ミガキ、ハケメ後ミガキ	内面：棕褐色 3 外面：灰褐色 3	中期。口縁に羽状文、3条 の凹線文、竹管文を施文し た円形浮文。
Y110	甕	E13	(17.0)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、頭部ハケメ/外 面：口縁部ナデ、頭部ハケメ後ナ デ	内面：灰白色 1 外面：棕褐色 1	小谷
Y111	高环	E13	(22.0)			口縁全周 の20%	内面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色 1	口縁に4条の凹線後刻目文、 4本の刻目浮文。
Y112	高环	D14				剥落全周 の100%	内面：环部ミガキ、剥落部ボリ ケズリ/外面：环部ミガキ、頭部ナ デ	内外面：灰褐色 1	少なくとも1条の凹線、刻目 文、6条の沈線。7ヶ所以 上の円形透かし。
Y113	甕					小片	内面：ハケメ/外面：ミガキ	内面：灰褐色 2 外面：灰褐色 4	絞西土器
Y114	把手	F13				片側の把手 のみ	ナデ	内外面：棕褐色 1	断面長方形

第74図

Y115	甕	S溝中	(27.0)			口縁一部 底全周の 25%	内面：ナデ//外面：口縁部ナデ、頭 部剥頭压痕、剥頭ハケメ後ナデ	内外面：棕褐色 3	前期。外面焼付着。
Y116	甕	S溝中	(21.6)			口縁一部 底全周の 20%	内面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ/外 面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ後ナ デ	内外面：棕褐色 1	中期。外面焼付着。頭部上 半に1条の沈線。
Y117	甕	S溝中	(25.6)			口縁一部 底全周の 20%	内面：口縁部ナデ、コハケメ、 剥頭大きなハケメ、剥頭圧痕/外面： 口縁部ナデ、剥頭ハケメ	内外面：棕褐色 2	中期。口縁の下端に刻目。
Y118	甕	S溝				小片	内面：ナデ	内外面：棕褐色 1	前期。の字形浮文。
Y119	甕	S溝	(23.8)			小片	内面：ナデ、剥頭圧痕/外面：口縁 部ナデ、剥頭ハケメ後ナデ	内外面：棕褐色 1	前期。胴部に6条の沈線。
Y120	甕	S溝	(18.5)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ、 剥頭圧痕/外面：口縁部一部ナデ、 胴部ハケメ	内外面：棕褐色 1	口縁に2条の凹線。内外面 に焼付着。
Y121	甕	S溝中				小片	内面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ/外 面：ハケメ後ナデ	内外面：灰褐色 2	前期。口縁に刻目、胴部に 沈線と刻目で羽状文を表現。 内面に焼付着。
Y122	甕	H溝	(16.4)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ/外 面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ後ナ デ	内外面：棕褐色 4 外面：棕褐色 2	中期。口縁が短く立ち上がる
Y123	甕	S溝	(23.2)			口縁一部 底全周の 25%	内面：口縁部ナデ、剥頭ハケメ、 剥頭圧痕/外面：口縁部一部ナデ、 胴部ハケメ	内外面：棕褐色 5 外面：棕褐色 1	中期。口縁に7条の凹線、 頭部に圧痕文。

第21表 包含層出土弥生土器 観察表⑦

番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	調 整	色 調	施文・備考
Y124	甕	B溝	(23.3)			口縁全周の40%	内面：口縁部ナデ、胴部ハケメ/外 面：口縁部ナデ、胴部ハケメ後ナ デ	内外面：灰褐色3 中筋：口縁1条の凹線後刻 日文、外面縁付着。	
Y125	小甕	S溝	(10.0)			口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、胴部上半ハケ メ、胴部下半ケズリ/外面：口縁部 ナデ、胴部上半ハケメとこどこ ろミガキ、胴部下ハケメ後ミガ キ	内外面：灰色1 中筋：口縁に2条の凹線。 胴部に斜行刻突起。内外面 に縁付着。	
Y126	特殊甕	N溝		8.8		胴部の80%	内面：胴部下半ナデ、脚部ミガキ/ 外側：ナデ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色3 中筋：脚部に7条の凹線。 脚部内面に縁付着。全縁本 彩わずかに残る。	

第75回

Y127	甕	S溝	(31.2)		口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ/外面：ナデ、 内外面：灰白色	中筋：口縁上面及び口縁に 輪郭波状文。	
Y128	甕	E15	(38.8)		口縁全周の20%	内面：ナデ、ハケメ/外面：ナデ 内外面：灰褐色2	中筋：口縁内面に直彎文、 斜格文：5条以上のあい なび前。口縁部に5条 の凹線。特殊波文。頸部に 6条の凹線。割目文（風化 者しい）、粗い波状文、少 なくとも3条の沈線。	
Y129	甕	N溝	(37.2)		口縁全周の10%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ナデ 内外面：灰白色	中筋：口縁上面にヘラ狀原 文による斜彎文、円形波文、 口縁に1条の沈線後刻目文。	
Y130	甕	B溝			底部全周の30%	底部全周の内面：頭部ハケメ後ナデ、胴部ハ ケメ/外面：ハケメ	内面：棕褐色2 外面：灰褐色4	中筋：底部に指印と底文帶、 底部に貝殻飾縫による列点 文。

第76回

Y131	便の底部	N溝		(5.8)	底部全周の40%	内面：ハケメ後ナデ/外面：ミガキ 内面：ナデ、ミガキ	内面：棕褐色1 内面：棕褐色3	内外面に縁付着。
Y132	蓋または 便の底部	N溝		6.4	底部全周10% 0%	内面：ミガキ、底ナデ/外面：ミガ キ	内面：棕褐色1 内面：灰褐色2	中筋
Y133	蓋の底部	N溝		8.8	底部全周の100%	内面：ハケメ後ナデ/外面：ナデ後 ミガキ	内面：灰褐色1	中筋
Y134	高环	N溝		(29.8)	口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ/外面： ナデ、ミガキと思われるが単位不 明版	内面：灰褐色2	口縁に1条の凹線後刻目文。
Y135	高环	S溝		(21.8)	口縁全周の20%	内面：ナデ、ハケメ後ミガキ	内面：灰褐色3	口縁に2条の凹線後刻目文。 口縁部外側の一部に黒斑。
Y136	高环	S溝		(19.3)	口縁全周の20%	内面：ナデ	内面：灰白色	
Y137	甕	N溝		(39.0)	口縁全周の35%	内面：口縁部ナデ、胴部ハケメ後 ミガキ/外面：口縁部-頭部ナデ、 胴部ハケメ	内面：灰白色 内面：棕褐色1	口縁上面に4条の凹線、口 縁に1条の凹線、底部、胴部、制 部には断面三角形文の上に 刻目。外面に縁付着。

第77回

Y138	高环				底部下端～ 脚部上端	内面：底部ミガキ、脚部ケズリ/外 面：ミガキ、ナデ	底部に凹線 四線の上を刻 むものあり
Y139	甕			(18.4)	口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、脚部ケズリか/ ナデ、ハケメ	内面：黄褐色3 口縁部に列点文。
Y140	甕			(18.8)	口縁全周の25%	内面：口縁～頭部ナデ、肩部ハケ メ後ナデ/外面：口縁～頭部ナデ、 肩部ハケメ	内面：棕褐色2 口縁に3条の凹線か（風化 者が著しい）。頭部に斜行刻 突起文。
Y141	甕			(19.6)	口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ/外面：ナデ	内面：黄褐色3 口縁に4条の凹線、 底部3条の沈線後斜行刻突 起文。
Y142	甕			(13.6)	口縁～頭部 全周の40%	内面：指頭压痕、ハケメ後ナデ/外 面：ハケメ、ナデ	内面：棕褐色1 口縁上面に3条の凹線。

第22表 包含層出土弥生土器 観察表⑧

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	推文・備考
Y143	甕		(23.5)			口縁~腹部全周の20%	内面: ナデ 外表面: ナデ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色2	口縁に4条の凹線。頭部に指揮印痕文(爪先を使用した跡など仕上げ)。
Y144	甕		(29.6)			口縁全周の10%	内面: ハケメ、ナデ/外表面: ナデ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色2	指揮印痕後斜行刻突文。肩部は風化者しい。
Y145	甕		(32.0)			口縁全周の10%	内面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ/外表面: ナデ、ハケメ	内面: 深褐色1 外表面: 橙褐色1	口縁に7条の凹線文。頭部に直底文帯。
Y146	器台	Y20				底部90%	内面: 器受部ミガキ、筒部ケズリ/外表面: 器受部ナデ、筒部ミガキ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色1	器受部7条以上の凹線文。
Y147	甕	Y20	14.5			口縁~全体部全周の90%	内面: ナデ、指揮さえ、ハケメ/外表面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ・ミガキ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色1	松本二期。口縁に刻目文、胴部上半に直底文・5条の波状文。2ヶ所の穿孔(外曲から内曲に穿孔したもの)が対称に存在する。
Y148	甕	Y20		6.7		底部70%	内面: 肩部下手風化のため不明、底部ナデ/外表面: ミガキ、底ナデ	内面: 深褐色1 外表面: 橙褐色2	松本二期。外表面に煤付者。

第78回

Y149	甕	Y20	(21.0)			口縁全周の25%	内面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ/外表面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面: 黄褐色3 外表面: 淡褐色4	外表面に煤付者。
Y150	甕	Y20	(25.2)			口縁~腹部全周の25%	内面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色2	口縁に3条の凹線文、頭部に直底文帯。胴部に刻文文。外表面に煤付者。
Y151	甕	Y20		15.2		全体の90%	内面: 肩部I.平ナデか、肩部下半~底部ケズリ/外表面: ナデ	内面: 深褐色1 外表面: 口縁部橙褐色1、底部淡褐色3	偏球形の肩部 大底
Y152	壺	Y20				小片	内面: ミガキ、指揮印痕/外表面: ミガキ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色2	前期。貝殻による4条の凹線文及び直底文。
Y153	壺	Y20	(25.0)			口縁全周の25%	内面: ナデ、ミガキ/外表面: ナデ	内面: 深褐色2 外表面: 淡褐色3	口縁内面に刻文文。口縁に斜格子文。
Y154	壺	Y20	(32.0)			底部全周の25%	内面: 口縁部ナデ、肩部ミガキ・ハケメ/外表面: 口縁部ナデ、指揮印痕、肩部ハケメ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色1	口縁上面に直底文帯附付。口縁に消磨子文・円形浮文。頭部に少なくとも6条の筋面・三角形文帶・神狀浮文。
Y155	壺	Y20				肩部全周の10%	内面: シボリ、ハケメ、ナデ/外表面: ミガキ、ハケメ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色3	壇町式か。6条の沈線、ハケメ後斜格子文、ハケメ後3条の沈線文、ハケメ後斜格子文の隙間に施文される。三角形透かしが4ヶ所か。
Y156	壺	Y20	(47.0)			口縁全周の10%	内面: ナデ、ハケメ/外表面: ナデ	内面: 深褐色2 外表面: 淡褐色2	山形上面に斜線文・円形浮文。口縁に3条の凹線文。口縁に6条の斜面文・円形文帶・断面三角形文帶の上に棒状浮文。頭部に直底文帯。

第79回

Y157	甕	Y21	(23.2)			口縁~内部全周の25%	内面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ/外表面: 口縁部ナデ、肩部ハケメ・一部タタキ	内面: 深褐色2 外表面: 淡褐色3	口縁に3条の凹線。頭部に直底文帯。
Y158	甕	Y21	(21.6)			口縁全周の20%	内面: 口縁部ナデ、肩部ミガキ/外表面: ナデ、ハケメ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色3	外表面に煤付者。
Y159	壺	Y21	(36.2)			口縁全周の10%	内面: ナデ/外表面: ナデ	内面: 深褐色3 外表面: 淡褐色4	口縁上面に斜格子文。口縁に直底文。
Y160	壺	Y21	(34.2)			口縁全周の20%	内面: ナデ	内面: 深褐色1 外表面: 淡褐色1	口縁上面に直底文帯。口縁に斜行刻文文。
Y161	壺	Y21	(14.4)			口縁~底部全周の25%	内面: ナデ、ハケメ	内面: 深褐色1	口縁に2条の凹線、頭部に3条の凹線。

第23表 包含層出土弥生土器 観察表⑨

番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	調 整	色 調	箋文・備考
Y162	壺	Y21	(30.4)			口縁～全体の40%	内面：ハケメ、指揮压痕/外面：ハケメ、ミガキ	内外面：灰褐色2	口縁3条の沈縫後刻目文。頸部～肩部にかけて7条の刻縫、3条の沈縫、3条の横縫。3条の横縫体による斜綻文、5条の沈縫、3条の横縫原体による斜綻文、5条の沈縫、3条の横縫原体による斜綻文、5条の沈縫。
Y163	高環	Y21	(21.2)			口縁全周の25%	内外面：ミガキ、ナデ	内外面：灰褐色1	口縁上面に2条の沈縫後円形浮文・刻目文。
Y164	高環	Y21		11.6		脚部全周の60%	内外面：ナデ	内外面：灰褐色1	縫衫文、4条の凹線。脚端部に3条の凹線。
Y165	器台	Y21	15.8			脚部全周の40%	内面：ナデ、ケズリ/外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色1	赤彩。13条の擬回線。

第80回

Y166	甕	Z19	(19.8)		口縁から 脚部全周の10%	内面：口縁部ナデ、肩部ハケメ後 ナデ/外面：口縁～頭部ナデ、肩部 ハケメ	内面：灰褐色2 外曲：灰褐色3	内外面に保付着。
Y167	甕	Z19	(19.0)		口縁～脚 部全周の40%	内面：口縁部ナデ、肩部ハケメ後 ナデ/外面：口縁部ナデ、肩部ハケ メ	内面：灰褐色3	II巻が「く」の字に折れ曲 がる
Y168	甕	Z19			小片	内面：ミガキ、ナデ/外面：ナデ、 粗いハケメ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色3	前期。外面に煤付着。
Y169	甕	Z19	(22.6)		口縁全周の10%	内面：ナデ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色1	口縁に刻目文。頸部少なくとも6条の断面三角形文等多 く刻目文。
Y170	甕	Z21	(20.6)		口縁～脚 部全周の40%	内面：口縁部ナデ、腹部に指揮压 痕、脚部ハケメ/外面：II縫縫部ナデ、 脚部ハケメ	内面：灰褐色2	II縫に3条の凹線。
Y171	甕	Z21	(22.8)		口縁全周の10%	内面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色3	前南
Y172	甕	Z21	(19.2)		口縁全周の20%	内面：ナデ/外面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色3	3条の凹線、少なくとも5条の 沈縫。II縫上面に黒斑、人跡迷道で窓または台付鉢 の頸部になる可能性有り
Y173	器台	Z21			脚部全周の10%	内面：ミガキ/外面：ミガキ、ナデ	内面：灰白色1 外曲：灰褐色1	9条以上の擬回線。内面に保 付着。
Y174	甕	Z21	(28.6)		口縁～脚 部全周の20%	内面：ミガキ、ハケメ後ナデ/外面： ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色1	II縫上面に5条1単位の刺文 文が1周。口縁に2条以上の 沈縫が残っているようだが、 風化が著しく不明。頸部に 少なくとも2条の断面三角形文。 内面の一部に黒斑。
Y175	甕				小片	内面：口縁部ナデ、肩部風化のた め不明/外面：口縁部ナデ	内面：灰褐色1	前期。2条の沈縫の間に2列 の刻突文。
Y176	甕				小片	内面：口縁部ハケメ後ナデ、頸部 指揮压痕、ハケメ/外面：II縫縫部 ナデ、擦痕ハケメ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色3	前南。少なくとも3条の沈縫 後刻突文。外面に煤付着。

第81回

Y177	甕	X21	(14.2)		口縁全周の10%	内面：口縁部ミガキ、腹部ナデ、 肩部ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色2	口縫擬回線後ナデ消し。四 隅に伴うか。
Y178	甕	X21	(18.0)		口縁全周の10%	内面：ナデ	内面：灰褐色1	口縫に11条の擬回線。
Y179	甕	X21	(19.8)		口縁全周の10%	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色1	II縫に4条の凹線。
Y180	甕	X21	(18.4)		口縁全周の25%	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色2	II縫に4条の凹線。底部に具 縫による刻突文。内外面に 煤付着。
Y181	甕	X21	(26.4)		口縁全周の20%	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色2	II縫に8条の凹線。外面の一 部に黒斑。
Y182	甕	X21	(26.6)		口縁全周の10%	内面：ナデ	内面：灰褐色1 外曲：灰褐色1	II縫に3条の凹線。

第24表 包含層出土弥生土器 観察表⑩

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	瓶文・備考	
Y183	甕	X21	(21.4)			口縁全周の20%	内外面：ナデ 部ハケメ	内：内外面：棕褐色1 外：灰褐色1	口縁に6条の凹線。	
Y184	甕	X21	(19.2)			口縁一部 全周の20%	内面：ナデ/外面：頸部ナデ、肩 部ハケメ	内：内外面：灰褐色1 外：灰褐色1	口縁に3条の凹線。	
Y185	甕	X21	(17.8)			口縁全周の20%	内面：ナデ/外面：ナデ、ハケメ	内：内外面：灰褐色1 外：灰褐色1	口縁に3条の凹線。	
Y186	甕	X21	(20.0)			口縁全周の10%	内面：ナデ 部ハケメ	内：内外面：灰褐色2 外：灰褐色2	口縁に3条の凹線	
Y187	甕	X21	(16.4)			口縁全周の10%	内面：口縁ナデ、肩部ケズリ/ 外：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内：内外面：灰褐色3 外：灰褐色3	口縁部に5条の凹線	
Y188	甕	X21	(16.8)			口縁全周の40%	内面：口縁ナデ、肩部ハケメ- 通化痕/外：口縁部ナデ、肩部 左上がりの鉢筋のタタキ脱ハケメ	内：内外面：棕褐色2 外：棕褐色1	口縁に3条の凹線。	
Y189	甕	X21	11.8			全体の60%	内面：口縁部ナデ、 頸部削平直底、 側部上半ハケメ、 剥離下半ケズリ/ 外：口縁部ナデ、 胴部上半ハ ケメ、6~7cmの左上 がりの鉢筋のタタキ、 側部下部ミガキ	内：内外面：灰褐色2 外：灰褐色2	口縁に2条の凹線。外面に 縦付着。	
Y190	甕	X21	(10.8)			口縁全周の20%	内面：ナデ 部ハケメ	内：内面：灰褐色1 外：灰褐色2	瓶部に穿孔2ヶ所あり。	
Y191	甕	X21	(18.0)			口縁全周の10%	内面：ナデ	内：内外面：灰褐色1	全体に磨滅	
Y192	甕	X21		小片			内面：ナデ、剥離直底/外：ハ ケメ、ナデ	内：灰褐色4 外：灰褐色1	内面に保付着。	
Y193	甕	X21		小片			内面：口縁部ナデ、剥離ハケメ/ 外：ハケメ、ナデ、通化痕	内：棕褐色1 外：棕褐色1	前期	
第22表										
Y194	甕	X21		小片		内外面：ナデ	内：内外面：棕褐色1	口縁上面に斜格子文、不規 則な立柱文。口縁に網目文。		
Y195	甕	X21	(38.8)			口縁全周の10%	内面：ナデ/外面：ハケメ、ナデ	内：内外面：灰褐色1	口縁上面に神字形文、 刻目入削痕二角形文。 口縁に斜目文、網目文。	
Y196	甕	X21		小片		内外面：ナデ	内：灰褐色1 外：灰褐色2	口縁上面に斜格子文、円形 浮文（人小2箇）。口縁に網 目文。		
Y197	甕	X21		小片		内面：ナデ/外面：ハケメ、ナデ	内：灰褐色1 外：棕褐色1	口縁上面に斜格子文を施し た後4条の沈線、波状文、 円形浮文、2ヶ所の上から 下への穿孔。口縁に斜行刻 文。		
Y198	甕	X21	(17.0)			口縁全周の10%	内外面：ナデ	内：内面：灰褐色1 外：灰褐色2		
Y199	甕	X21	(11.0)			口縁全周の20%	内面：ハケメ後ナデ、ケズリ/ 外：ハケメ後ナデ	内：内外面：棕褐色1 外：棕褐色1	口縁に3条の凹線	
Y200	高杯か	X21	(17.4)			剥離のみ全 周の10%	内面：ナデ、ケズリ/外：ナデ、 ハケメ	内：灰褐色2 外：灰褐色1	4条の凹線。円形透かしあ り。	
Y201	鉢	X21	(11.6)			体部全周の25%	内面：ナデ、剥離直底、ハケメ、 ミガキ/外：ナデ	内：内外面：棕褐色1 外：灰褐色2	口縁上面に2条の凹線後ナ デ、刻目文、斜行刻文、 沈線がめぐらされる。外側 の一部に黒斑。	
Y202	甕	X21		小片			内面：ナデ/外面：ハケメ	内：内面：灰褐色2 外：灰褐色4	前期。	
Y203	高杯	X21	(36.5)			口縁全周の10%	内面：ナデ/外面：ナデ、一部ミ ガキ	内：内外面：棕褐色1 外：灰褐色1	口縁上面に斜格子文、円形 浮文	

第25表 包含層出土弥生土器 観察表⑪

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第83回									
Y204	甕	X21	(17.2)			口縁全周 の10%	内面：口縁部ミガキ、腹部ナデ、 肩部ミガキ/外面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色2	口縁に1条以上の凹線後強い ナデ消し。夏漆に斜行刻文字。 外面に焼付着。
Y205	甕	X21	(33.2)			口縁～頭 部全周の 10%	内外面：ナデ	内外面：棕褐色1	LJ縁底部強いナデ
Y206	甕	X21	(33.4)			口縁全周 の10%	内外面：ハケメ、ナデ	内外面：棕褐色1	口縁内面に4条の凹線、口縁 に2条の凹線。
Y207	器台	X21	(17.0)			口縁～体 部全周の 20%	内面：ナデ/外面：ナデ、ミガキか く	内面：灰色1 外面：灰褐色1	7条の鋸切線。
Y208	甕	X21	(23.2)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ミガキ、ナデ、肩部 ケズリ/外面：ナデ	内外面：灰褐色1	口縁に少なくとも7条の鋸切 後ナデ。
Y209	甕	X21	(18.0)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内外面：灰褐色1	口縁に4条の凹線。
Y210	甕	X21	(34.0)			口縁全周 の20%	内面：ナデ/外面：口縁部ナデ、頭 部ハケメ	内面：灰白色 外面：棕褐色1	口縁内面に斜格子文・列点 文。口縁上面に压痕文帶。
Y211	器台	Y21	(26.6)			口縁全周 の25%	内面：杯部ナデ・ハケメ、脚部シ ボリカ・ケズリ/外面：ナデ、ミガ キ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1	口縁部5条の凹線後ナデ。
第84回									
Y212	甕	X21				小片	内面：ナデ、ケズリ/外面：ナデ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色1	
Y213	甕	X21	(18.8)			全体の20 %	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ/外 面：口縁部・肩部ナデ、腹部ハケ メ	内外面：灰白色1	口縁に13条の凹線。外面上 に焼付着。
Y214	甕	X21	(23.8)			口縁全周 の20%	内面：ナデ・ミガキ、肩部ケズリ/ 外面：口縁部ナデ、腹部ハケメ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1	口縁に7条の鋸切線。
Y215	甕	X21	15.4			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ・ミガキ、肩部 ケズリ/外面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	口縁に3条以上の凹線後ナデ。 外面上に焼付着。
Y216	甕	X21	(17.0)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ・ミガキ、肩部 ケズリ/外面：口縁部ナデ、肩部ミ ガキ・ハケメ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1	口縁に7条の凹線。外面上に 焼付着。
Y217	甕	X21	(19.8)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内外面：棕褐色1	口縁に8条の凹線。
Y218	甕	X21	(11.6)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内外面：灰褐色1	口縁に2条の凹線。
Y219	高環	X21	(13.2)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、頭部指揮状、 肩部ハケメ/外面：口縁部ナデ、肩 部右上がたのタタキ後ハケメ	内外面：棕褐色1	口縁に3条の凹線。
Y220	甕	X21	(23.0)			口縁全周 の20%	内面：口縁部ナデ、頭部ケズリ/外 面：ナデ	内外面：棕褐色1	口縁に1条の凹線。
Y221	甕	X21				小片	内外面：ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	前頭、羽状文、ヘラ鉗直原 文、刻文字。
Y222	甕	X21	(19.0)			口縁・肩 部全周の 20%	内面：ナデ/外面：口縁部ナデ、肩 部ハケメ	内面：棕褐色2 外面：灰褐色1	口縁に透眼目文。頸部圧痕文 帶。肩部に列点文。
Y223	甕	A21	(12.0)			口縁・肩 部全周の 25%	内面：ミガキ/外面：ハケメ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色2	口縁上面に壓痕文。肩部に 压痕文帶。外面上に焼付着。
Y224	高環	X21				口縁全周 の20%	内外面：ハケメ、ミガキ	断面：灰色1	
第85回									
Y225	甕	Y21	(24.6)			口縁全周 の10%	内面：口縁部ナデ、肩部ハケメ/外 面：ナデ	内外面：灰褐色2	口縁に10条の鋸切線
Y226	甕	Y21	(27.4)			口縁全周 の10%	内面：口縁部ナデ、頭部・肩部ハ ケメ・部指揮状/外面：口縁部ナ デ、肩部ヨコハケメ	内面：灰白色1 外面：灰褐色3	口縁に3条の凹線。頭部に压 痕文帶。外面上に温痕。

第26表 包含層出土弥生土器 観察表⑫

番号	器種	グリッド	口径	直徑	基高	残存率	調査	色調	施文・備考
Y227	甕	Y21	(28.8)			口縁一部 基全周の 20%	内面：口縁部ナデ、腹部ハケメ。 頭頂圧痕/外面：ナデ、ハケメ	内外面：灰褐色1	船形式。口縁に3条の回線。 腹部上半に刺突文後2条の沈線、削文。
Y228	甕	Y21	(26.0)			口縁一部 基全周の 40%	内面：口縁一部ナデ、腹部ケズリ/ リ/外面：ナデ、一部ハケメ	内外面：灰褐色1	口縁に3条の回線。腹部に斜行刻文。
Y229	甕	Y21		9.5		頭部一部 基全周の 30%	内面：ハケメ、ナデ/外面：ミガキ	内外面：灰褐色2	
Y230	甕	Y21	(19.2)			口縁全周 の25%	内面：口縁部ナデ、頭部一部ハ ケメ/外面：口縁部ナデ、頭部一部 ハケメ、一部頭頂圧痕	内面：灰褐色1 外側：橙褐色1	口縁にかすかな回線。
Y231	甕	Y21	13.6			口縁一部 基全周の 25%	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、腹部ハケメ	内外面：橙褐色1	口縁に2条の回線後ナデ消し。 腹部に斜行刻文。内外面の一部に焼付石。
Y232	甕	Y21	(11.8)			口縁一部 基全周の 20%	内面：口縁部の内外面：ナデ	内外面：灰褐色1	九州か。腹部に穿孔2ヶ所。
Y233	特徴並頭部	Y21		9.4		頭部60%	内外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色1	赤彩。8条の擬回線。
Y234	高环(原形)	Y21		(10.6)		頭部全周 の30%	内面：ケズリ、ミガキ、ナデ/外面： ミガキ、ナデ	内外面：灰褐色1	7条の擬回線。
Y235	甕	Y21	14.8			口縁全周 の60%	内面：口縁部ナデ、腹部ハケメ/外 面：口縁部ナデ、腹部ハケメ	内外面：灰褐色3	口縁に5条の回線後斜行刻突文。内外面に焼付石。

第26図

Y236	甕	Y21	(13.4)		口縁一部 基全周の 20%	内面：口縁部ナデ、腹部ケズリ、 腹部ハケメ/外面：ナデ	内面：灰褐色4 外側：灰褐色2	口縁に3条の回線。頭部に3 条の沈線のち斜行刻突文。 腹部4条1単位の列点文が2段。
Y237	甕	Y21	(14.8)		口縁一部 基全周の 40%	内面：ナデ、頭頂圧痕、ナデ/外 面：ナデ、ハケメ	内外面：桃褐色1	口縁に3条の回線。頭部に3 条の沈線。
Y238	甕	Y21	(30.2)		口縁全周 の10%	内面：ナデ/外面：ナデ、頭頂圧痕	内面：桃褐色1 外側：灰褐色1	口縁上面に波状文、3条の断 面：角形文等。口縁に斜行 格子文、円形文。
Y239	甕	Y21	(32.8)		口縁一部 基全周の 10%	内面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色4 外側：灰褐色3	絵画土器。口縁上面4条の沈 線後ナデ。頭部に墨跡（サ メカ）。
Y240	甕	Y21	(27.0)		口縁一部 基全周の 10%	内面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1 外側：灰色1	口縁に4条の回線。
Y241	把手 (注 口七器か)	Y21			把手のみ	内面：ケズリ/外面：ハケメ、ナデ	内外面：灰褐色1	長範腹線による刺突文。
Y242	器台	Y21	(20.8)		器受部全 周の25%	内外面：ナデ、ミガキ	内外面：灰褐色1	13条の擬回線。
Y243	器台	Y21	(19.6)		口縁全周 の25% -	内面：ナデ	内外面：灰褐色1	13条の擬回線。一部赤色顔 料残る。
Y244	鉢	Y21	(17.8)		口縁一部 基全周の 10%	内外面：ナデ、ハケメ、ミガキ	内面：灰白色1 外側：灰色1	口縁に2段に列点をうちそれ ぞれ3条の回線で切り、6段 の列点を入れる。
Y245	器台	Y21	(27.8)		器部全周 の25%	内面：ケズリ、ナデ/外面：ナデ	内外面：灰褐色1	18条の擬回線。

第27図

Y246	甕	Y20	(22.2)		口縁一部 基全周の 25%	内面：口縁部ナデ、腹部ミガキに 軽たケズリ/外面：口縁部ナデ、腹 部ハケメ	内面：灰褐色3 外側：灰褐色4	口縁に斜行文、頭部に压痕 文帯。頭頂部下及び頭部中 ほどに刻文。
Y247	高环	Y20	10.8		頭部90%	内面：シボリ、ケズリ、ナデ、頭 頂圧痕/外面：ミガキ、頭頂部ナデ	内外面：桃褐色2	頭部に3条の回線。頭部3 ヶ所に4条の沈線。

第27表 包含層出土弥生土器 観察表⑬

番号	器種	グリッド	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
Y248	汁口十箇	Y20				注口のみ	内面：ナデか/外面：ミガキ、ナデ	内面：灰白色1 外面：灰褐色1	列点文・3条の沈線。外面に保付着。
Y249	長頸壺	Y21	(10.0)			口縁～頸部全周の40%	内面：ハケメ、ナデ、指ナデ/外面：ハケメ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁上面に3条の凹線文。腹部に4条の凹線、4条の断面三角形文書、斜目文、斜突文。
Y250	甕	Z19	(26.0)			口縁～頸部全周の25%	内面：口縁部ナデ、頸部ハケメ後ナデ/施文灰斑/外面：口縁～頸部ナデ、頸部ハケメ後ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁上面に3条の凹線。頸部直下に仕旗文器、外筋に保付着。
Y251	甕	Z19	23.8			口縁～頸部全周の70%	内面：口縁部ナデ、胸部ハケメ後ナデ/ミガキ/外面：胸部上半ハケメ後ナデ・ミガキ、頸部下半ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	口縁に3条の凹線、3個1單位の内形容浮文4ヶ所。頸部に仕旗文。
Y252	甕	Z19	(18.0)			口縁～頸部全周の30%	内面：ナデ、指ナデ/外面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色2	口縁に斜線文、颈部に正規文。
Y253	壺	Z19	(33.0)			小片	内外面：ナデ	内外面：灰褐色1	口縁上面に斜線文。口縁に1条の凹線、斜目文。
Y254	甕	Z19	(31.2)			口縁～頸部全周の10%	内面：ハケメ後ナデ/外面：ハケメ、ナデ	内外面：灰褐色3	腹部に段あり
Y255	壺	Z19	(39.3)			口縁～頸部全周の10%	内外面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色3	口縁上面に5条の凹線。口縁に3条の凹線。

第88回

Y256	甕	Z20	(21.0)		口縁～頸部全周の40%	内面：口縁部ナデ、胸部ミガキ/外 面：頸部ナデ、胸部ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色5	口縁に3条の凹線。口縁部に 並みあり。
Y257	甕	Z20	(19.6)		口縁～頸部全周の10%	内面：口縁～頸部ナデ、肩部ハケ メ/外面：口縁部ナデ、肩部ハケメ 後横タキメ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁に3条の凹線。頸部に斜 行刻文文。外筋に保付着。
Y258	甕	Z20	(18.6)		口縁～頸部全周の40%	内面：口縁～頸部ナデ、胸部上半 ハケメ・胸部下半ハケメ一部ミガ キ/外面：胸部ナデ、胸部上半ハ ケメ、胸部下半ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色2	口縁に2条の凹線。
Y259	甕	Z20	(22.4)		口縁～頸部全周の25%	内面：口縁～頸部ナデ、胸部ミガ キ/外面：胸部ナデ、胸部上半ハ ケメ、胸部下半ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色	口縁部に面をもつ
Y260	小甕	Z20	(9.6)		全体の70%	内面：ケズリ/外面：ハケメ	内外面：灰褐色1	
Y261	壺	Z20	(18.6)		頸部全周の30%	内面：シボリ、ケズリ、ナデ/外 面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	6条及び4条の沈線、5条の凹 線。頸部3条の凹線。

第89回

Y262	甕	Z20			小片	内面：ナデか/外面：ナデ後ミガキ	内外面：灰褐色3	13条の擁描文、連続三角形 斜突文
Y263	長頸壺	Z20	11.0		口縁～頸部全周の75%	内面：口縁部ナデ・ミガキ、肩部 ケズリ/外面：ハケメ後ミガキ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁に2条の凹線。
Y264	甕	Z20	(28.0)		口縁～頸部全周の80%	内外面：ハケメ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰白色1	口縁に斜行刻文文。頸部に 施文灰斑文。
Y265	甕	Z20	(27.0)		頸部全周の30%	内面：ナデ、ハケメ後ナデ/外 面：ミガキ、ナデ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色1	口縁に斜行刻文文
Y266	甕	Z20	(39.4)		頸部全周の25%	内外面：ナデ、ハケメ	内外面：灰褐色1	口縁上面に4条の凹線。頸部 に7条の沈線。

第90回

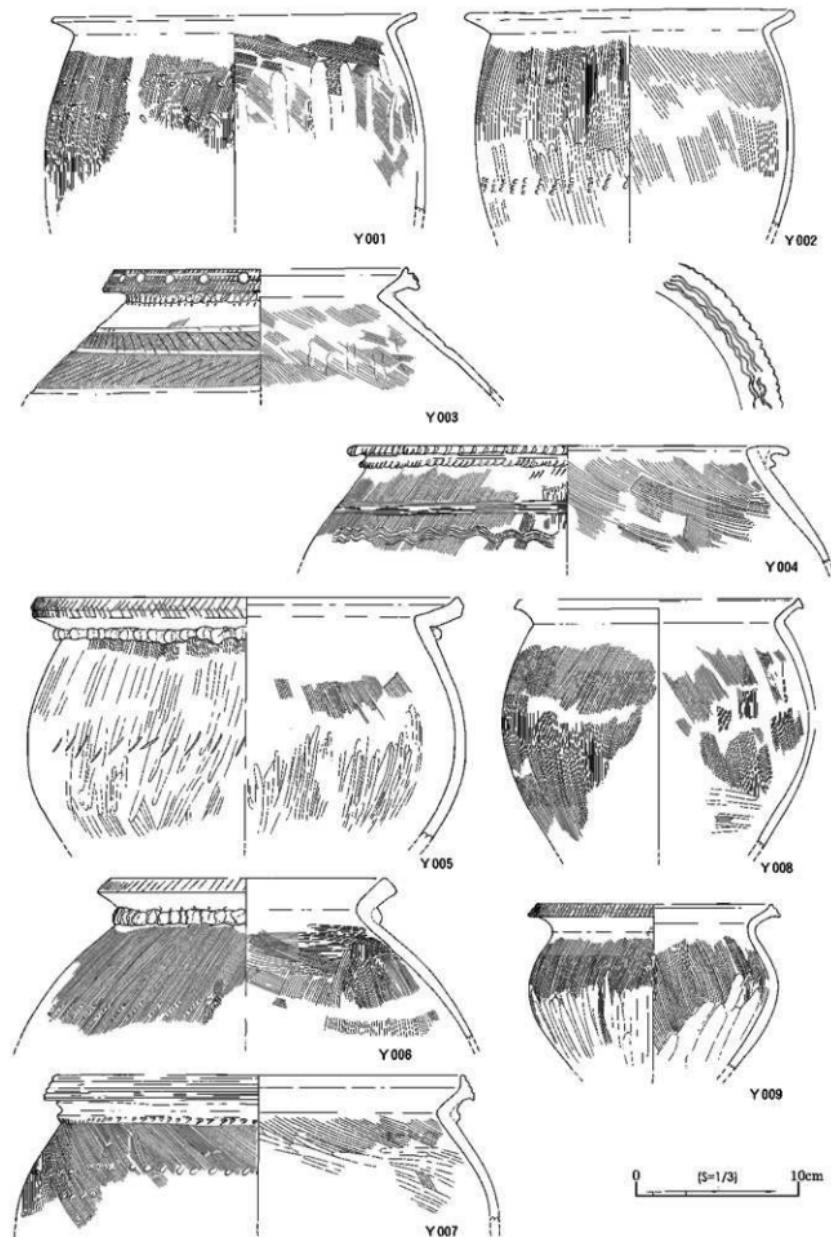
Y267	甕	B21	(14.6)		口縁～頸部全周の25%	内面：口縁部リコハケメ、胸部ナ デ・一部押彫直版、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内外面：灰褐色1	
Y268	甕	B21	(14.6)		口縁～頸部全周の25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ、ハケメ	内外面：灰褐色2	外面に保付着。
Y269	甕	B21	(24.0)		口縁部25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内外面：灰褐色1	
Y270	甕または甕	B21	(7.0)		底部全周の30%	内面：ケズリ後 肩部ミガキ/外 面：ミガキ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色2	外面に保付着。

第28表 包含層出土弥生土器 観察表⑭

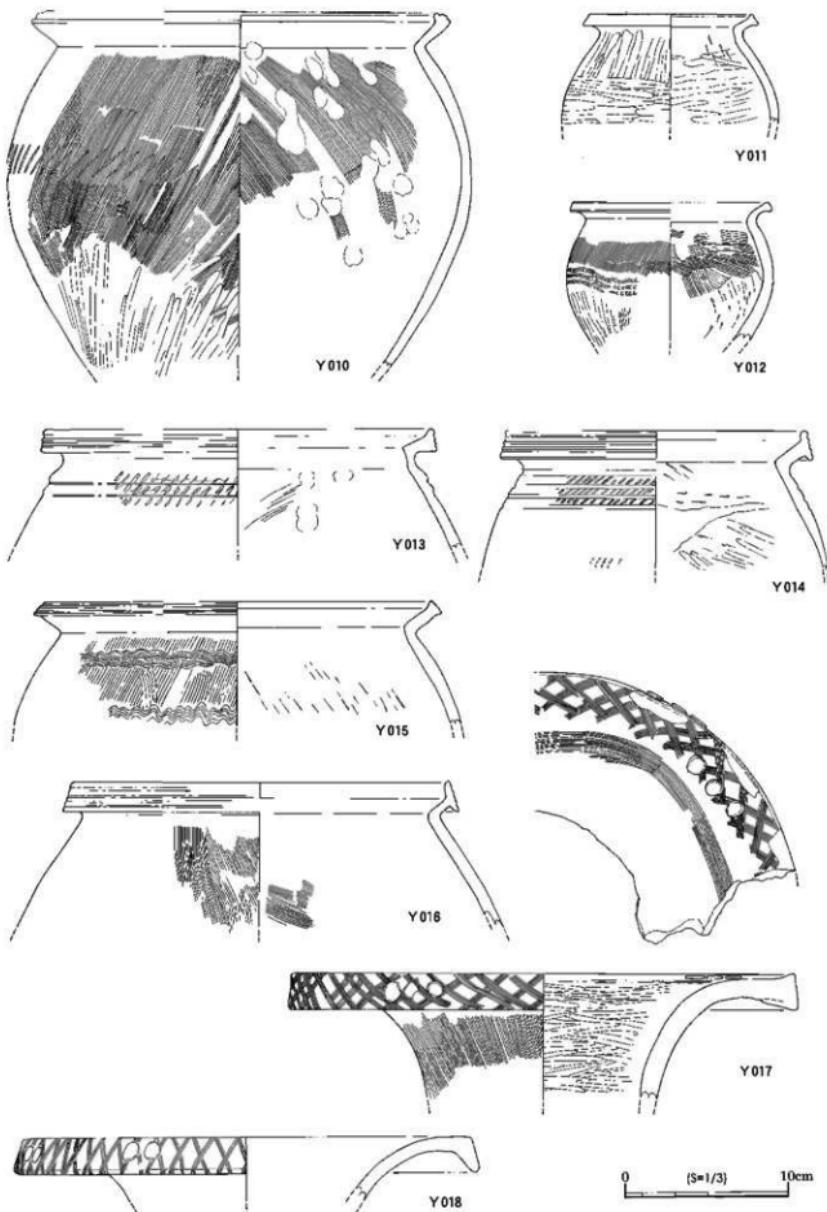
番号	器種	グリッド	口径	底径	基高	残存率	調査	色調	施文・備考
Y271	甕	B21	(21.4)			小片	内面：ナデ/外面：風化のため不明	内面：灰褐色4 外面：棕褐色2	口縁に3条の凹線文。
Y272	甕	B21	(18.9)			口縁一部 部全周の 35%	内面：口縁部ナデ、肩部ハケメ、 底部AN底/外面：口縁部ナデ、肩部 ハケメ	内面：灰褐色2	口縁に2条の凹線。
Y273	甕	B21	(14.0)			口縁一部 部全周の 25%	内面：口縁部ナデ、肩部ミガキ/外 面：ナデ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色1	口縁に2条と割目文。肩部 凹線3条後斜向突文。斜格子文 後6条の縱方向沈線文。外面 部黒斑。
Y274	甕 武部	B21			(13.2)	底盤全周 の10%	内面：ケズリ/外面：ハケメ	内面：棕褐色1 外面：棕褐色1	前腹
Y275	甕 脚部	B21			(7.0)	脚部全周 の40%	内面：ナデ、回転板ナデ/外面：ナ デ	内面：灰褐色1 外面：棕褐色2	6条の凹線。
Y276	高环	B21	(19.6)			环部全周 の20%	内面：ナデ/外面：ミガキ	内面：棕褐色1	口縁上面に2条の凹線。口縁 凹線5条の下割目文。
Y277	高环脚部	B21			(9.8)	脚部全周 の25%	内面：ナデ/外面：風化が著しく不明	内面：灰褐色1	1号以上の沈線、脚部には 2条の凹線、刻目文。
Y278	甕	B21	(33.4)			11縁全周 の25%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ナデ、 ハケメ	内面：灰褐色1 外面：灰褐色3	口縁上面に割目入断面三角 形文帯貼付。口縁に刻目人 面像・角形火垂文・練状浮 文。口縁上面に黒斑。

第29表

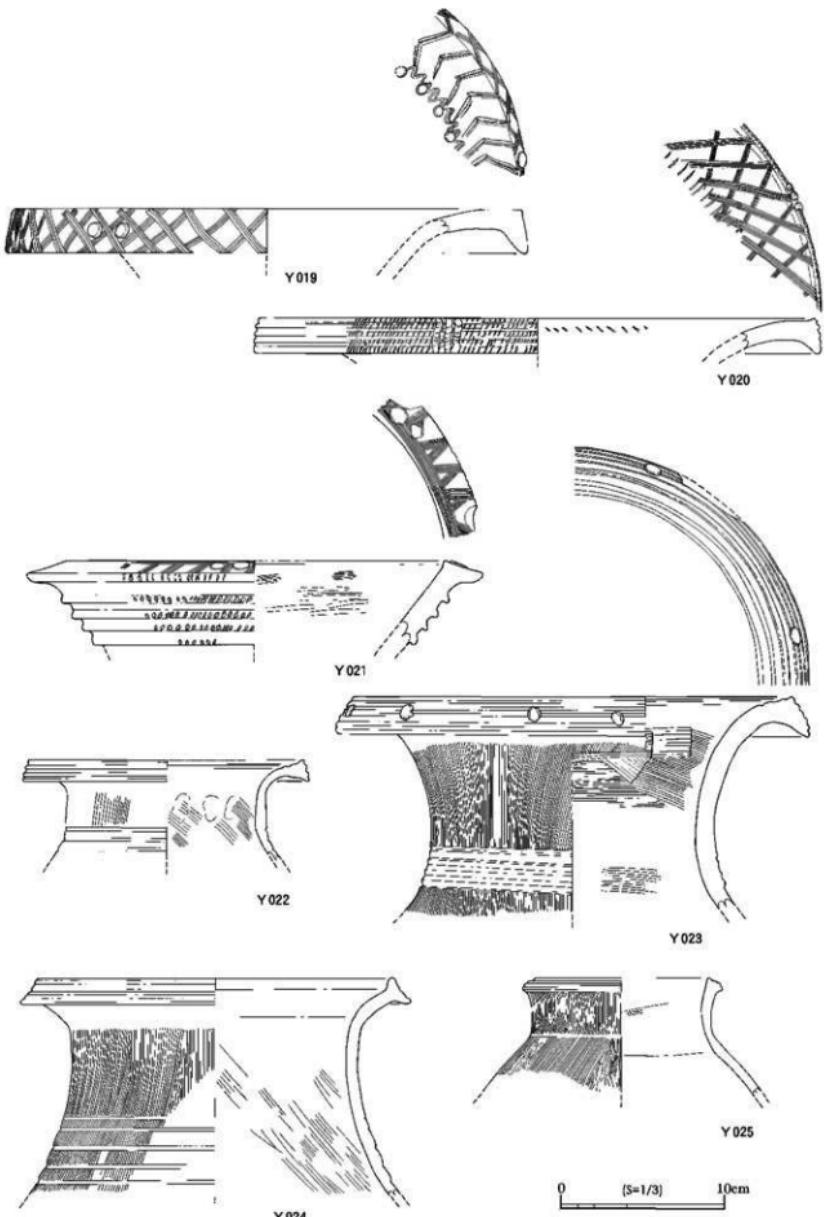
Y279	鉢形沿台	A19	(24.6)			器支座全 周の40%	内面：ナデ・ミガキ/外面：ナデ	内面：灰褐色1	
Y280	鉢形沿台	A19	(21.6)			器支座全 周の30%	内面：ナデ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色1	外曲の一帯に黒斑。
Y281	古付鉢	A20	(13.6)			頭蓋全周 の20%	内面：ナデ、粗いミガキ/外面：ナ デ、ミガキ	内面：灰褐色1	口縁に刻目文。工具による 削文・刺文・1条の沈線、 外曲の一帯に黒斑。
Y282	甕	A21	(16.0)			11縁一部 部全周の 25%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：11縁部ナデ、肩部ハケメ	内面：灰褐色1	
Y283	高环	A21	(24.6)			环部全周 の20%	内面：ナデ、ミガキ/外面：ミガキ	内面：棕褐色3 外面：灰褐色4	口縁上面に2条の凹線。口縁 に刻目文・5条の凹線。
Y284	高环	B20	(27.0)			口縁全周 の25%	内面：ナデ、ミガキ	口縁内部外面：灰 褐色1、 肩内面：灰褐色5 /外面：灰褐色4	口縁に刻目文。口縁に上か ら下にあけた透孔あり。
Y285	甕	A21	(18.4)			口縁～腰 部20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：ナデ	内面：灰褐色2 外面：灰褐色1	
Y286	甕	C20	(22.2)			口縁～腰 部全周の 10%	内面：口縁～腹部ナデ、腰部AN底、 肩部ケズリ/外面：ハケメ後ナデ	内面：灰白色1 外面：灰褐色1	内面の一帯に黒斑。
Y287	甕	C20	(21.0)			口縁～腰 部全周の 25%	内面：ナデ/外面：11縁部ナデ、肩 部ハケメ	内面：灰褐色1	口縁に貝殻縫隙による斜行 削文。肩部に刺突。外 面の一部に黒斑。全体に風 化が著しい。
Y288	甕	C20	(12.0)			11縁一部 部全周の 20%	内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ/外 面：口縁部ナデ、肩部ハケメ	内面：棕褐色1	外面に煤付着。
Y289	甕	C20	(20.8)			11縁全周 の20%	内面：11縁部ナデ、肩部ケズリか/ 外面：ナデ	内面：棕褐色1 外面：灰褐色1	11縁に2条の凹線、29部に压 縮文。
Y290	甕	C20	(26.8)			口縁～腰 部全周の 20%	内面：ナデ/外面：11縁部ナデ、腰 部ハケメ・腰部AN底	内面：棕褐色1 外面：灰褐色1	口縁に浅い2条の凹線を施し た後斜行削文。肩部に腰部AN 底文。
Y291	甕	C20	(34.1)			口縁～腰 部全周の 20%	内面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1	口縁上面ハケ削文・口縁 に4条の凹線、頭部沈線。
Y292	甕	C20				小片	内面：ナデ、ハケメ	内面：灰褐色1	口縁上面に日横文帯。口縁 に斜格子文・1条の凹線後ナ デ消し。



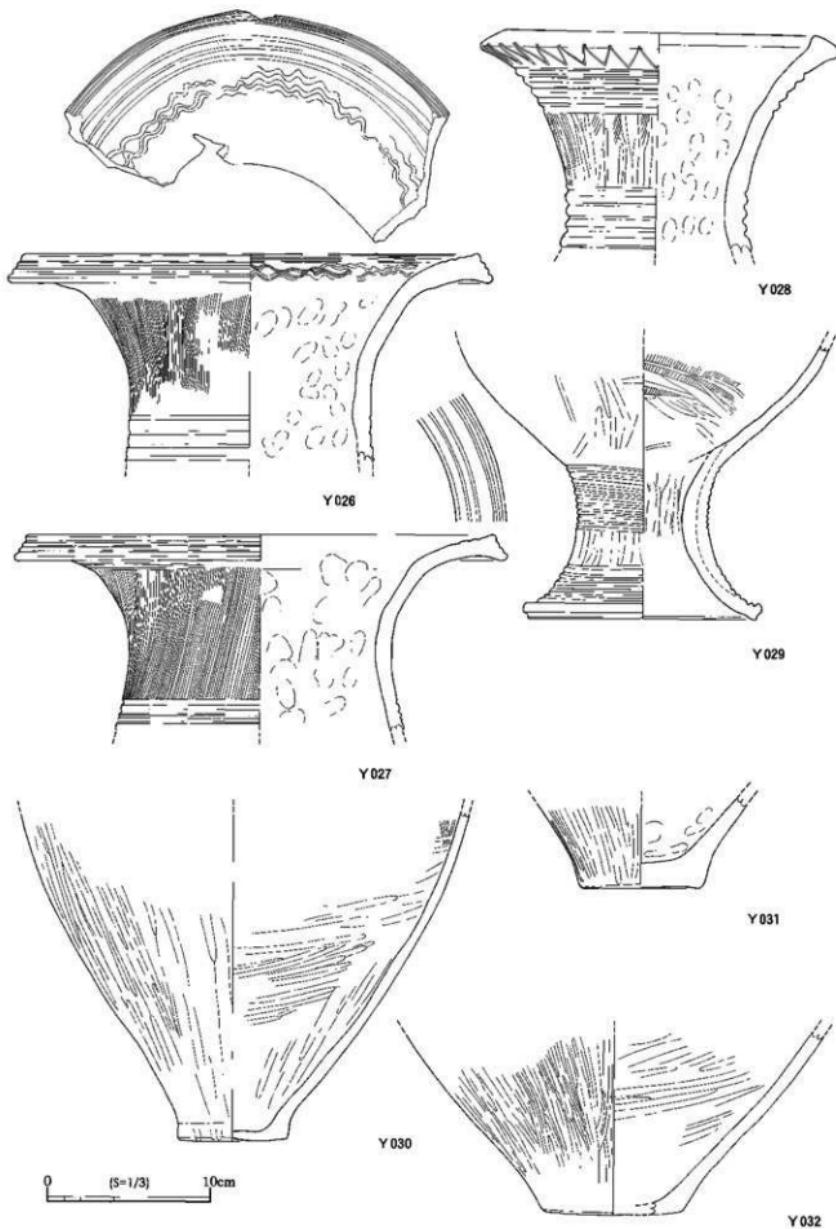
第63図 包含層出土弥生土器①（I区12層）



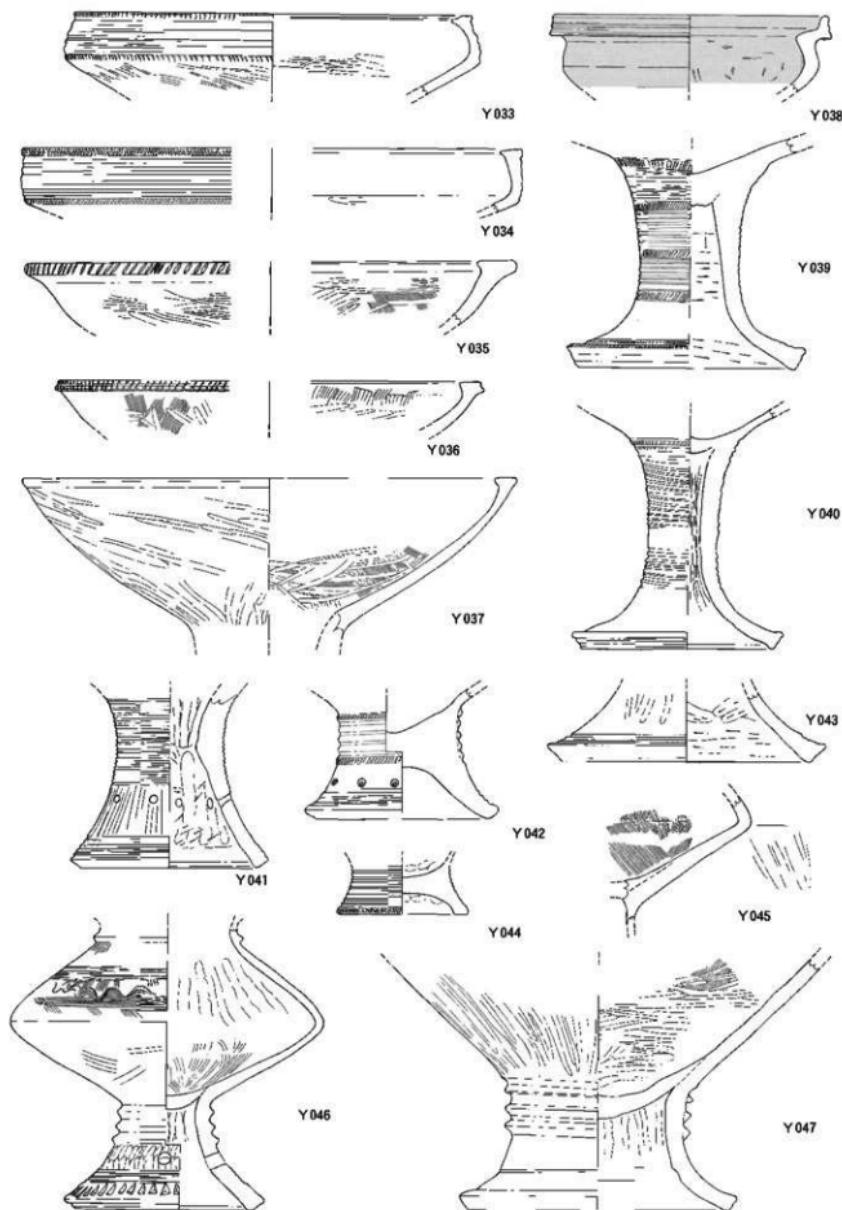
第64図 包含層出土弥生土器②（1区12層）



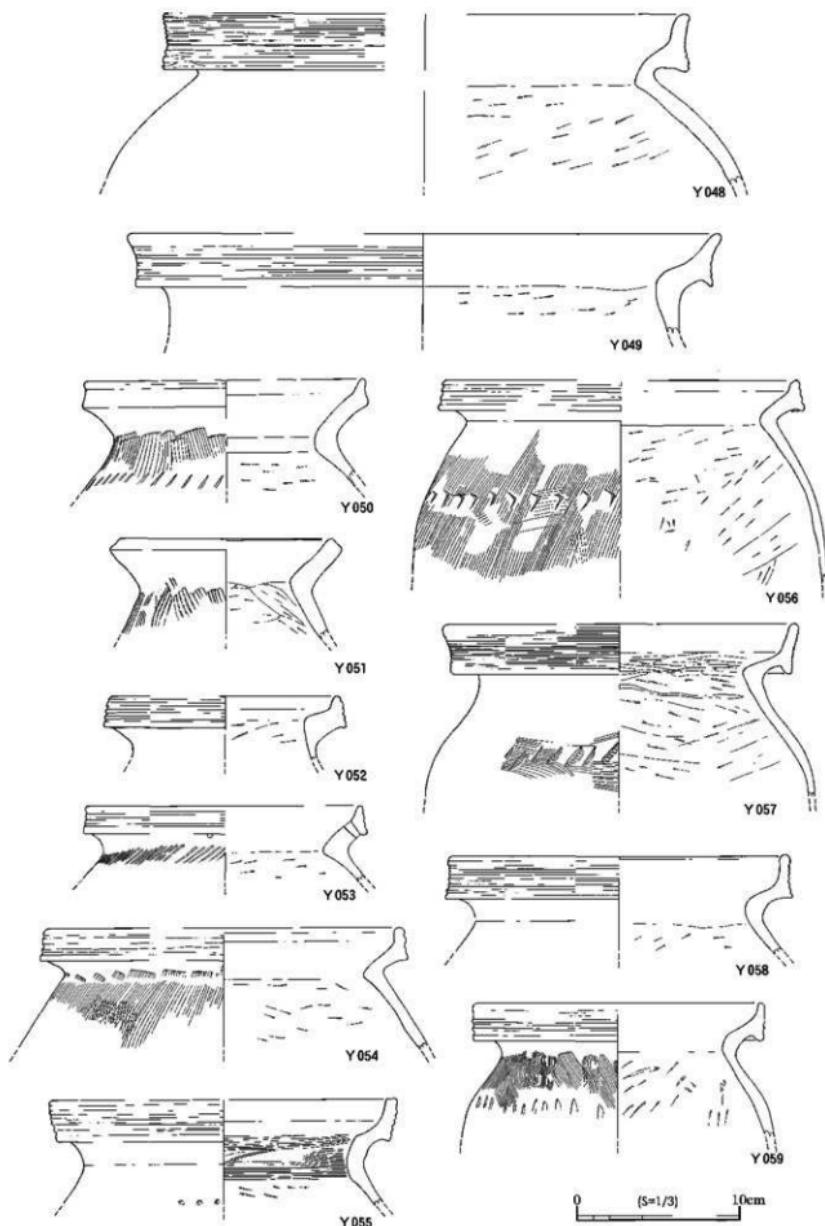
第65図 包含層出土弥生土器③（1区12層）



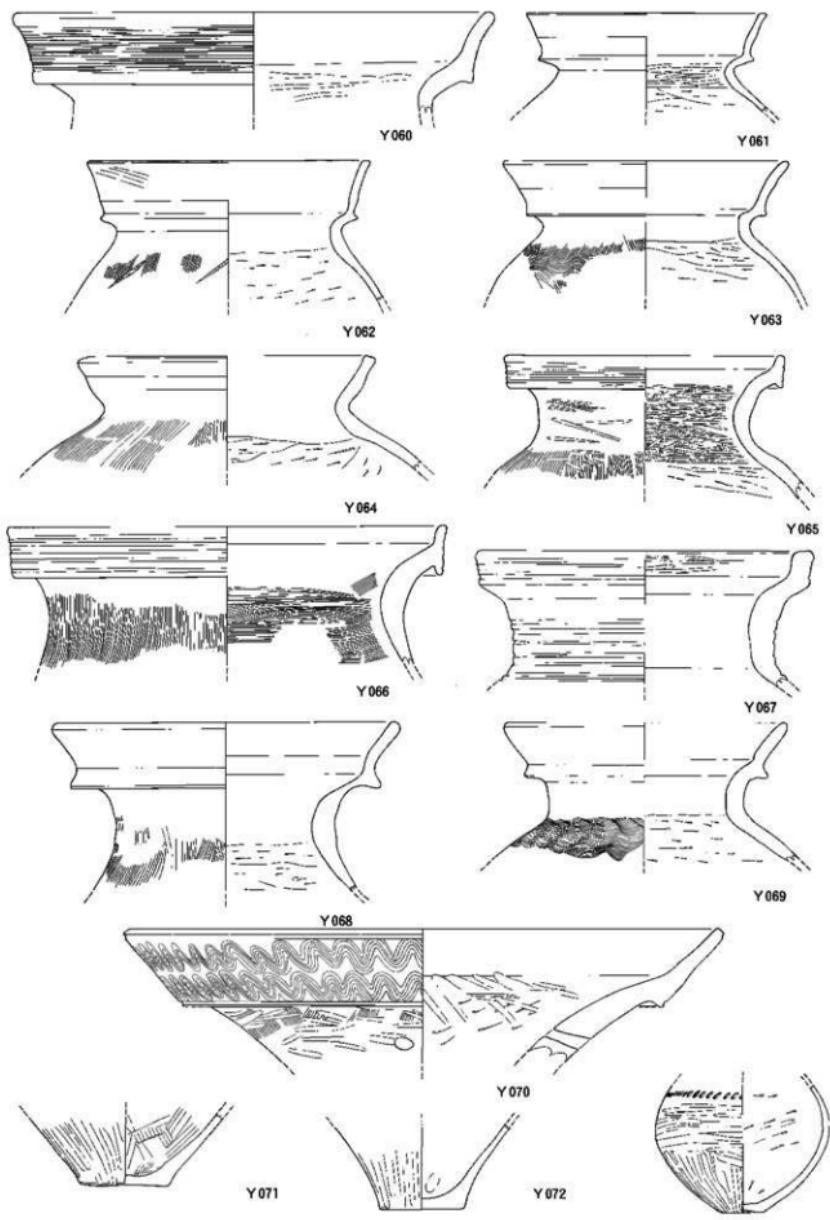
第66図 包含層出土弥生土器④（1区12層）



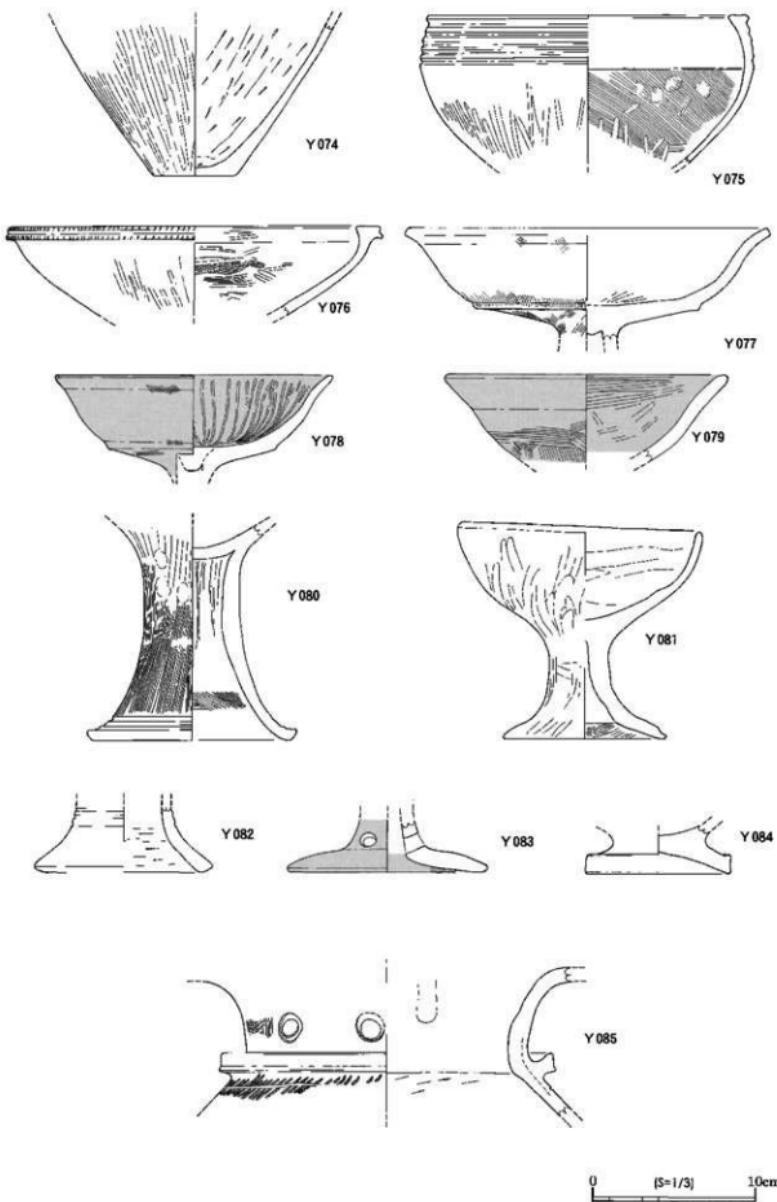
第67図 包含層出土弥生土器⑤（I区12層）



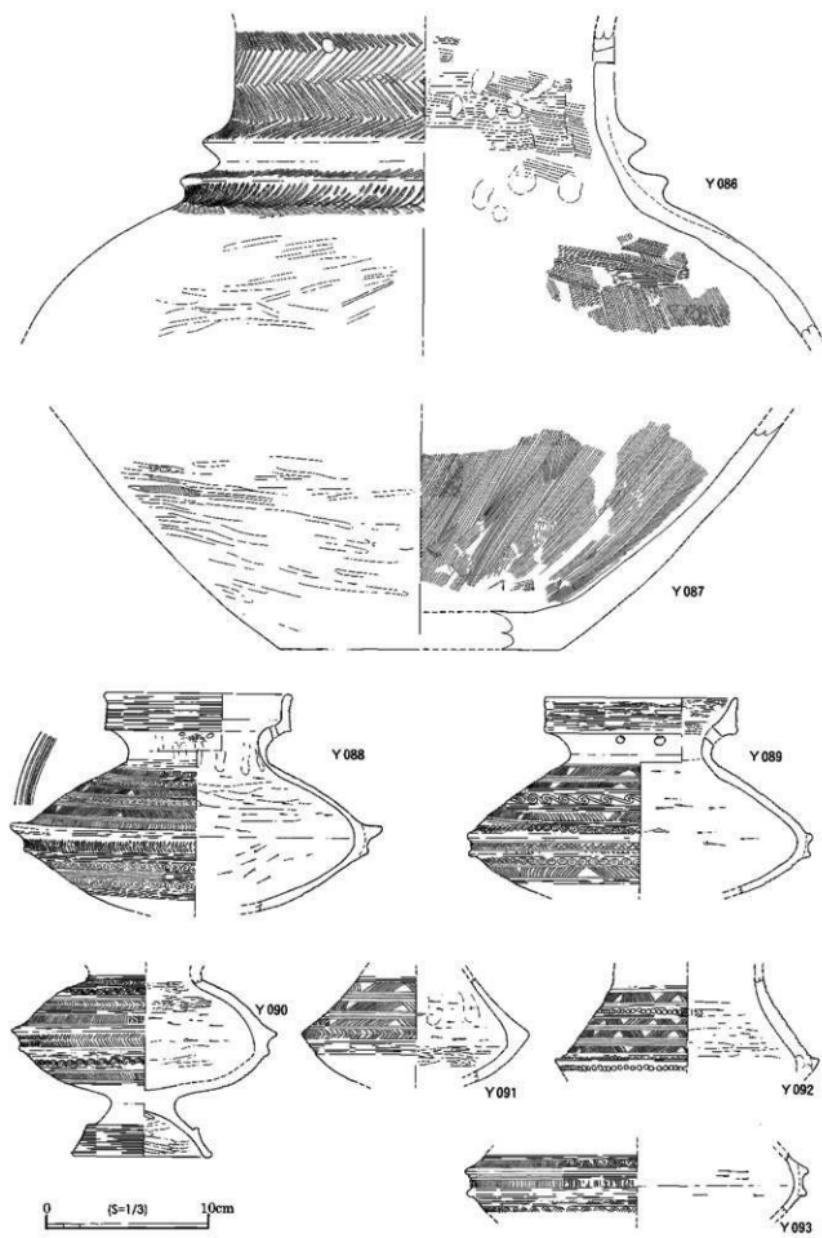
第68図 包含層出土弥生土器⑥（I区11層）



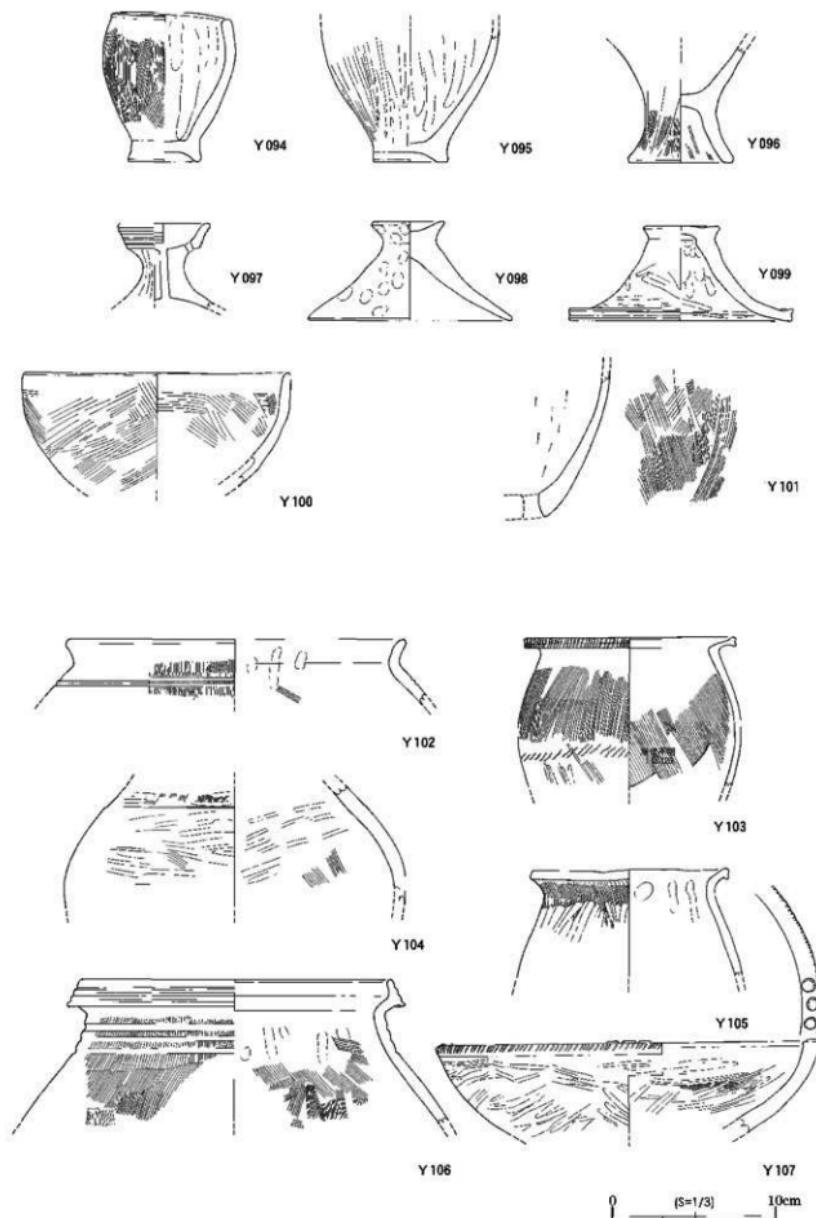
第69図 包含層出土弥生土器⑦ (I 区11層)



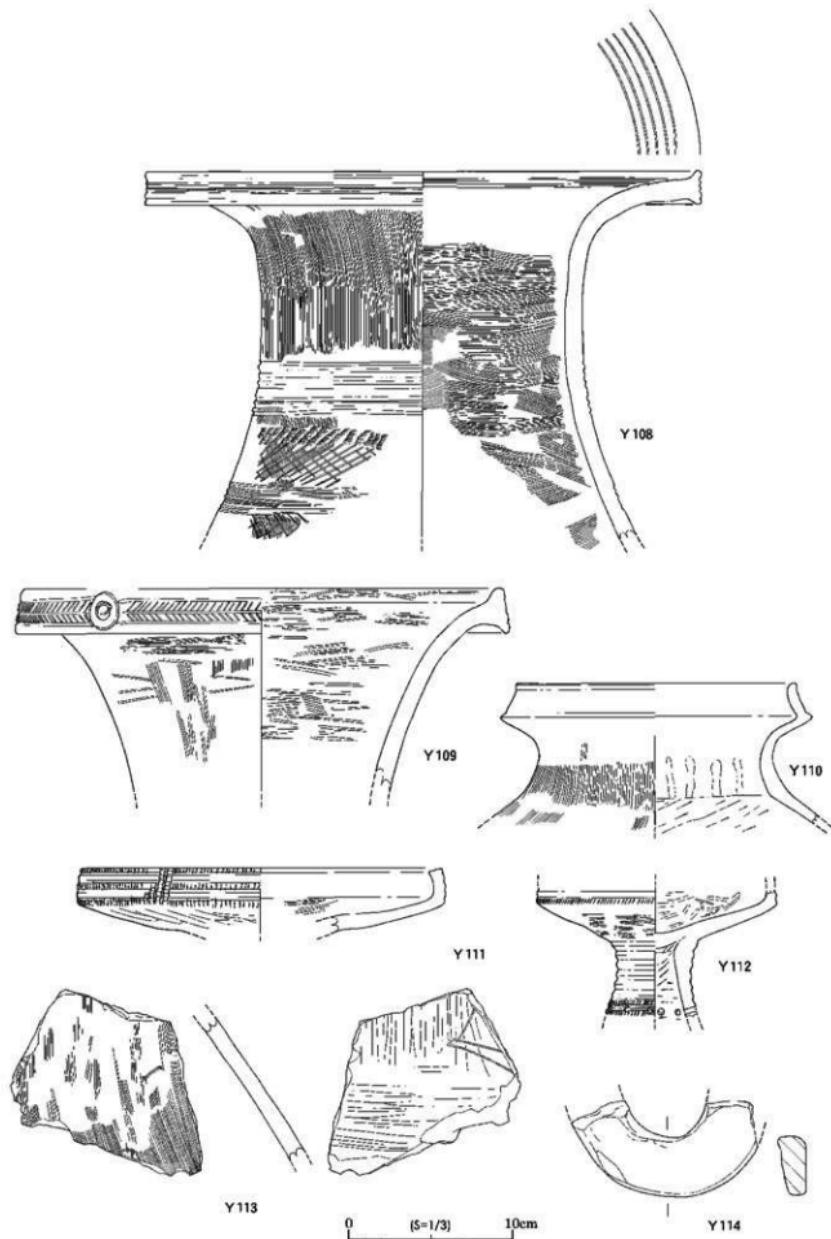
第70図 包含層出土弥生土器⑧（I区11層）



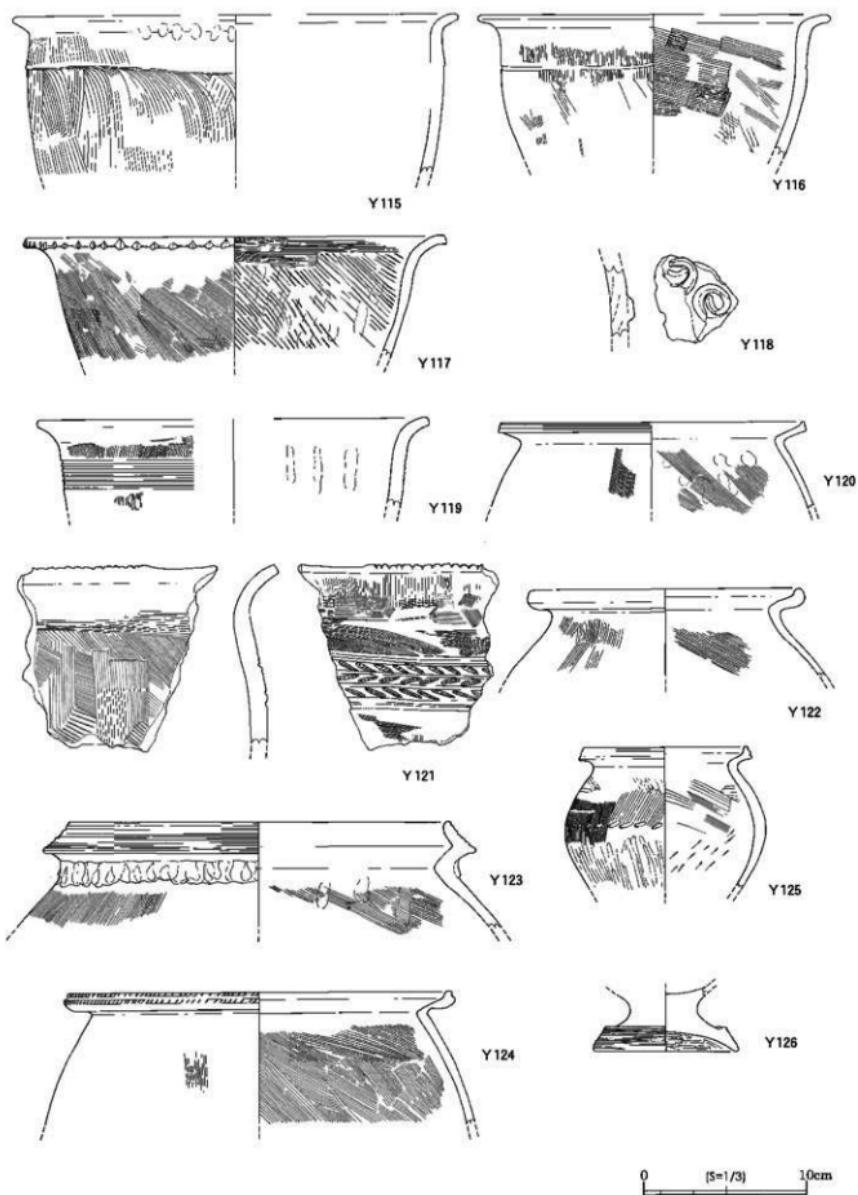
第71図 包含層出土弥生土器⑨（I-11層）



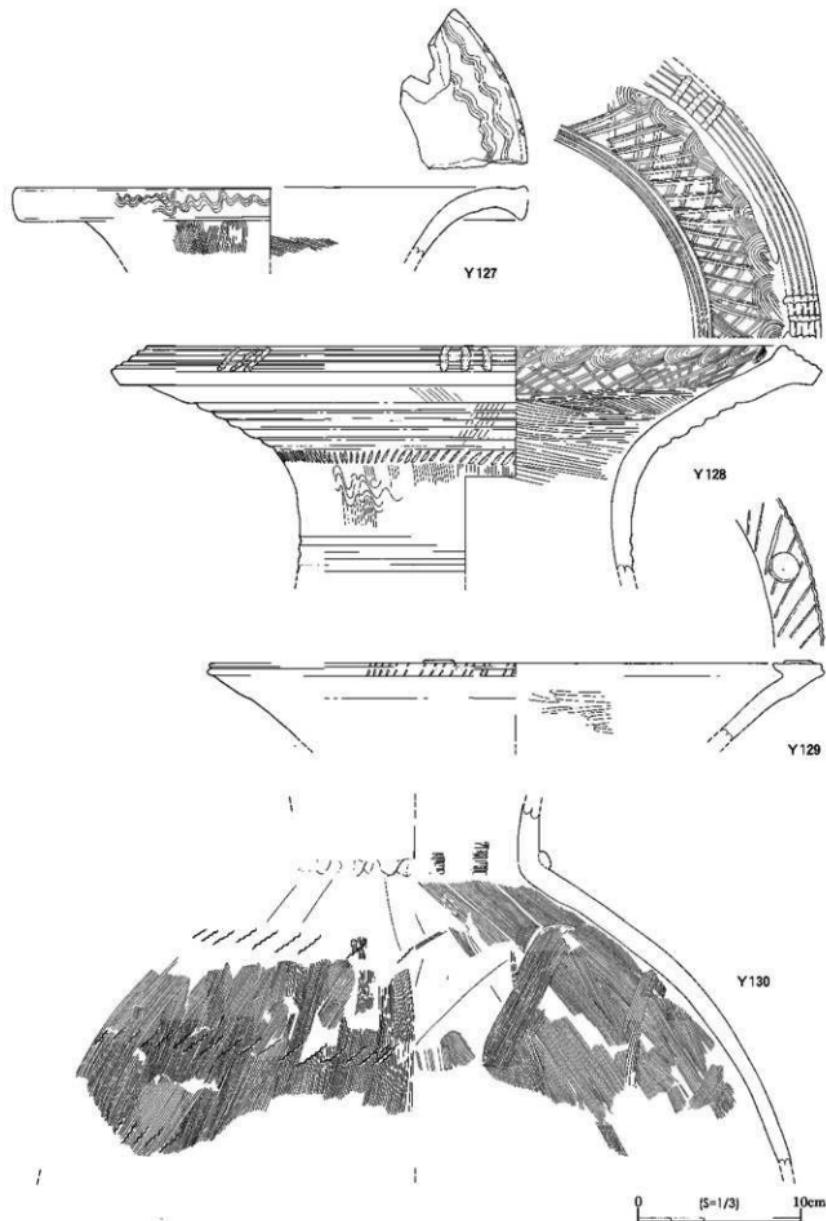
第72図 包含層出土弥生土器⑩（I区11層・層位不明）



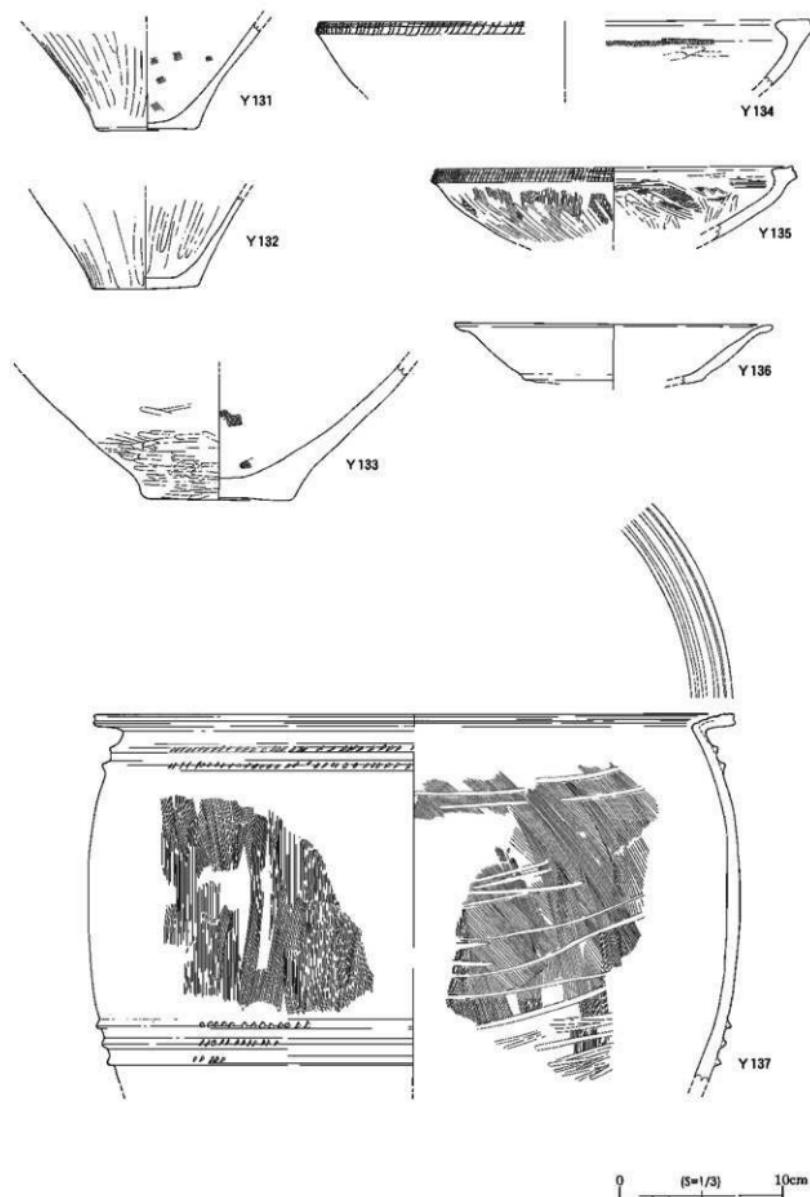
第73図 包含層出土弥生土器① (I区10層)



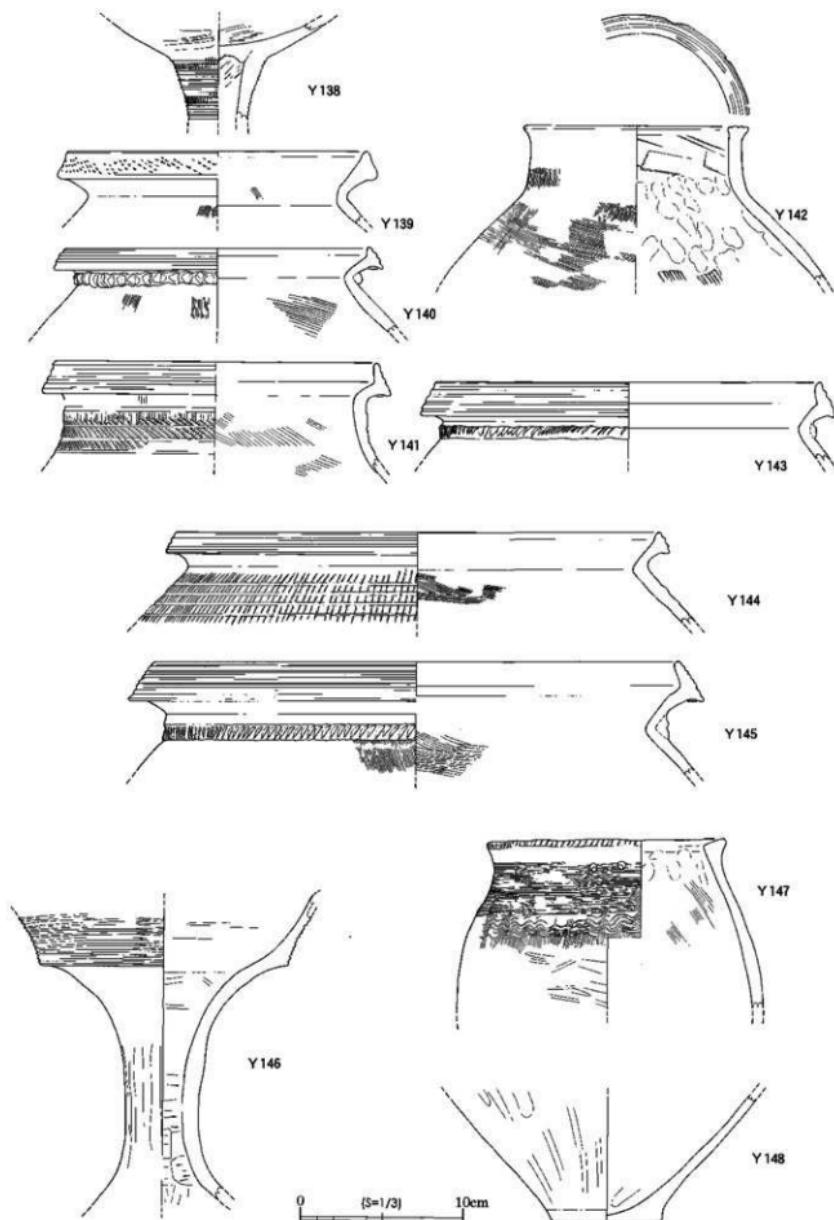
第74図 包含層出土弥生土器⑩（I区サブトレ内）



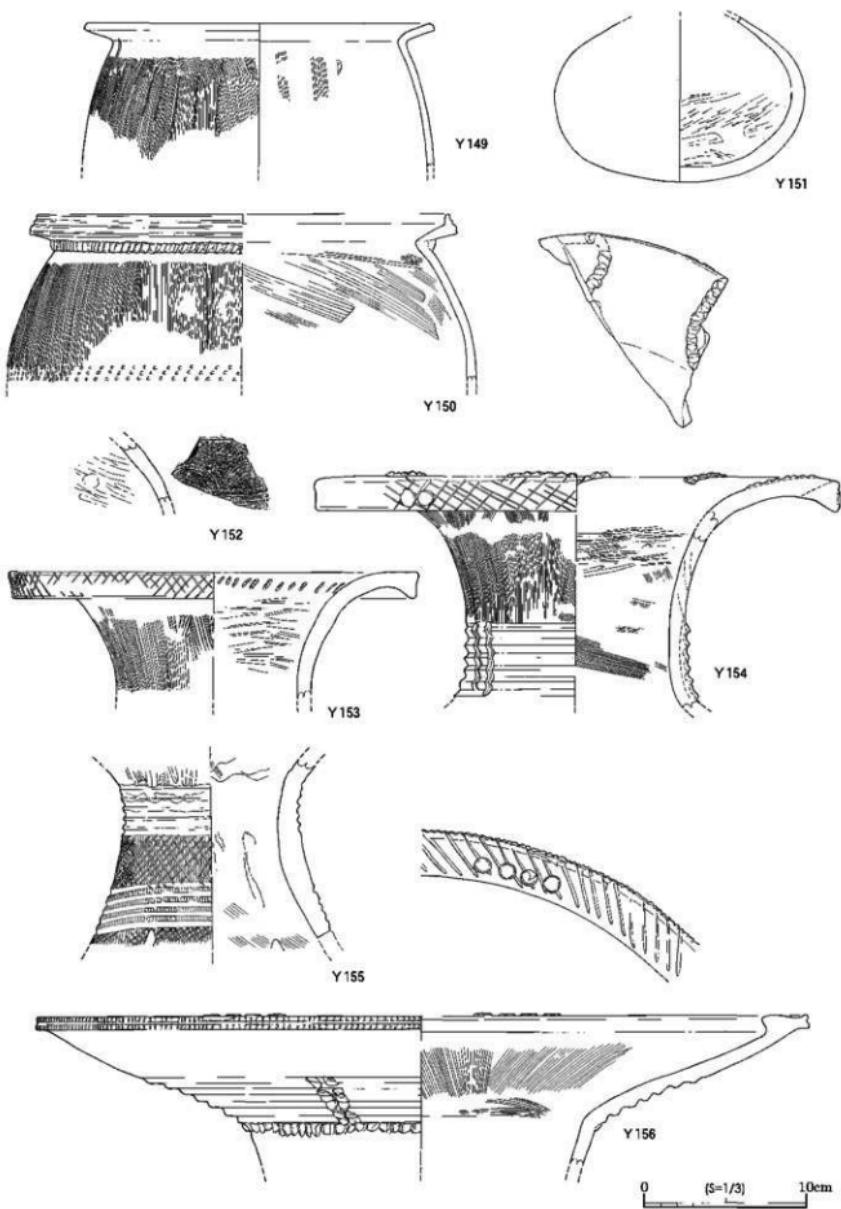
第75図 包含層出土弥生土器⑬（I区サブトレ内）



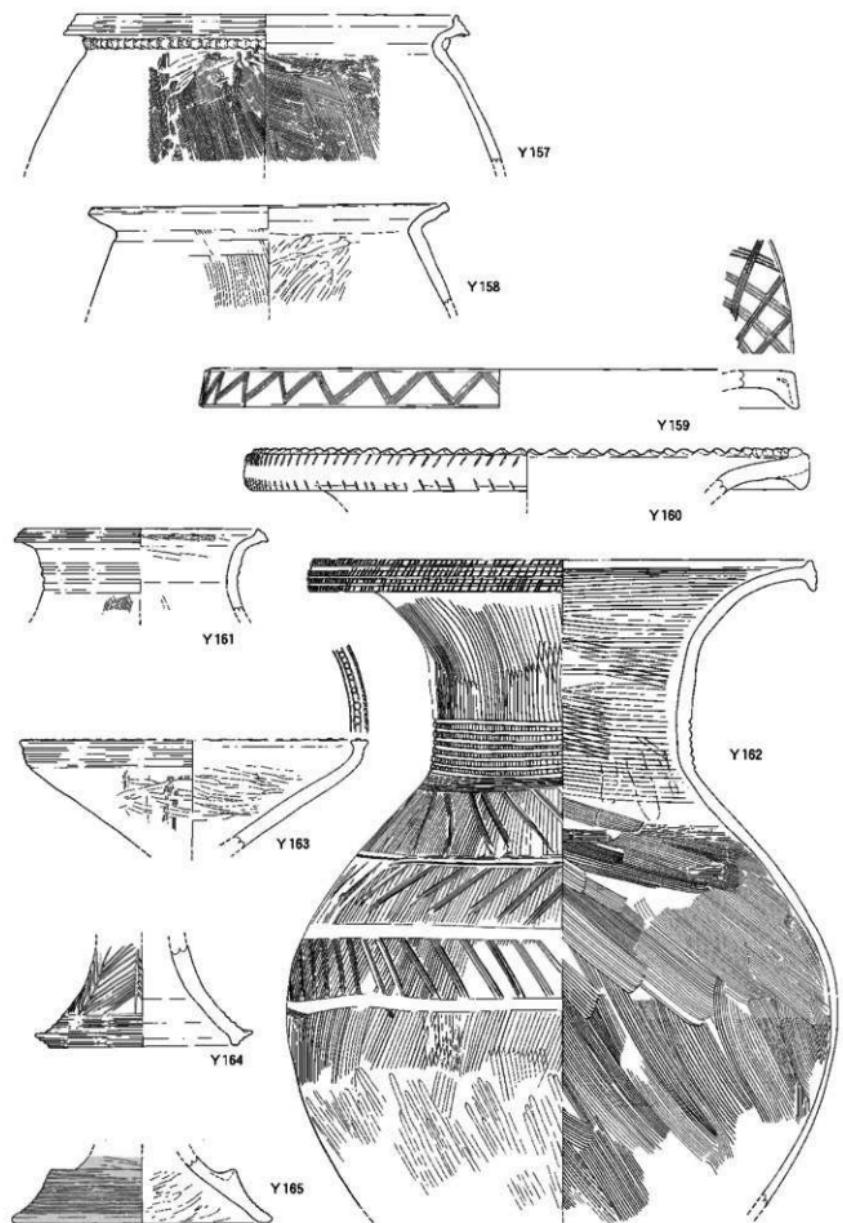
第76図 包含層出土弥生土器④（I区サブトレ内）



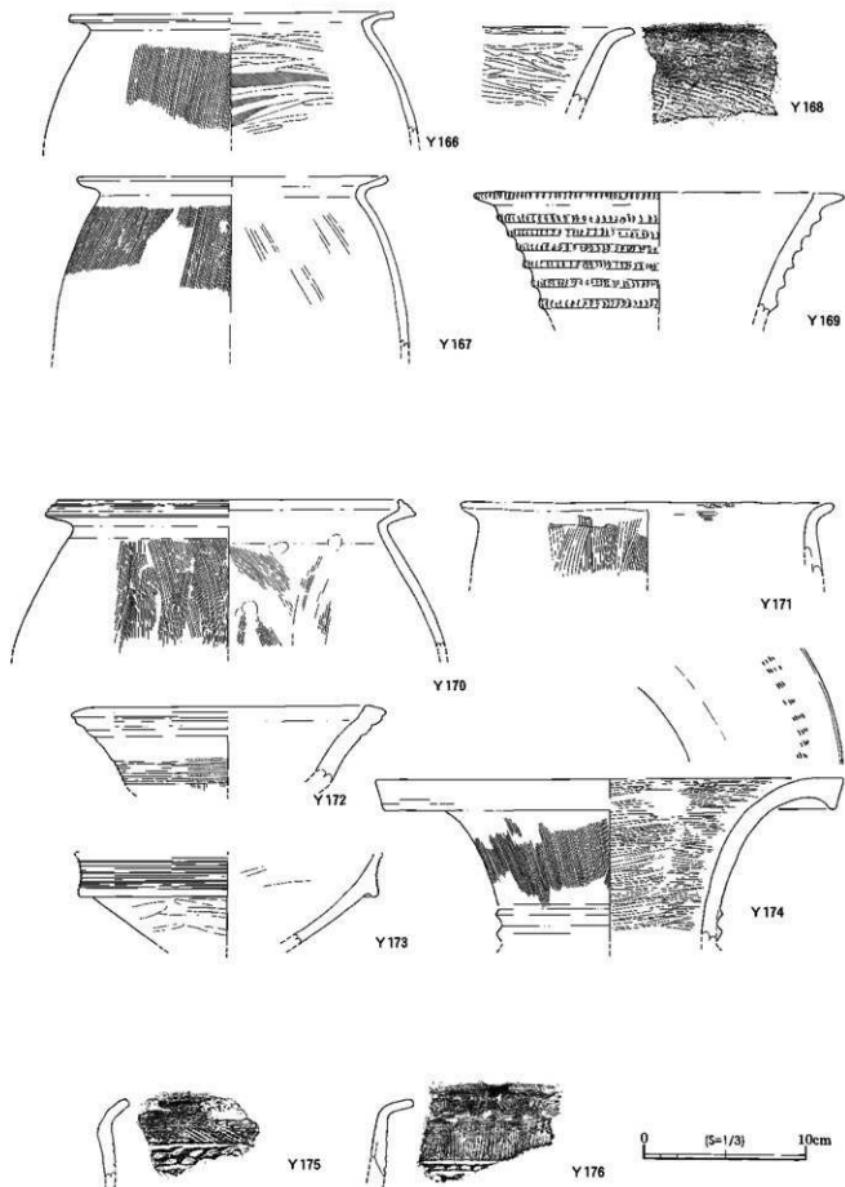
第77図 包含層出土弥生土器⑮ (IV区7層、Y20グリッド)



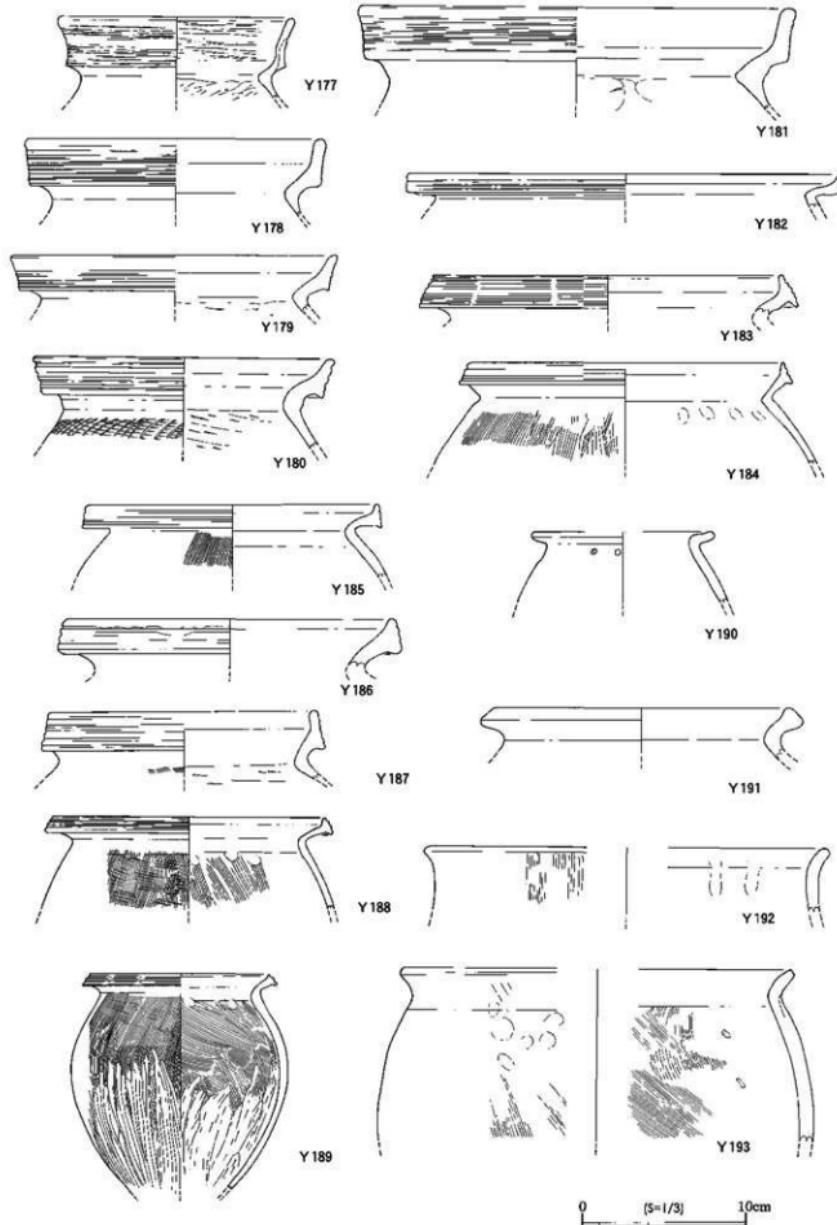
第78図 包含層出土弥生土器⑤(IV区7層、Y20グリッド)



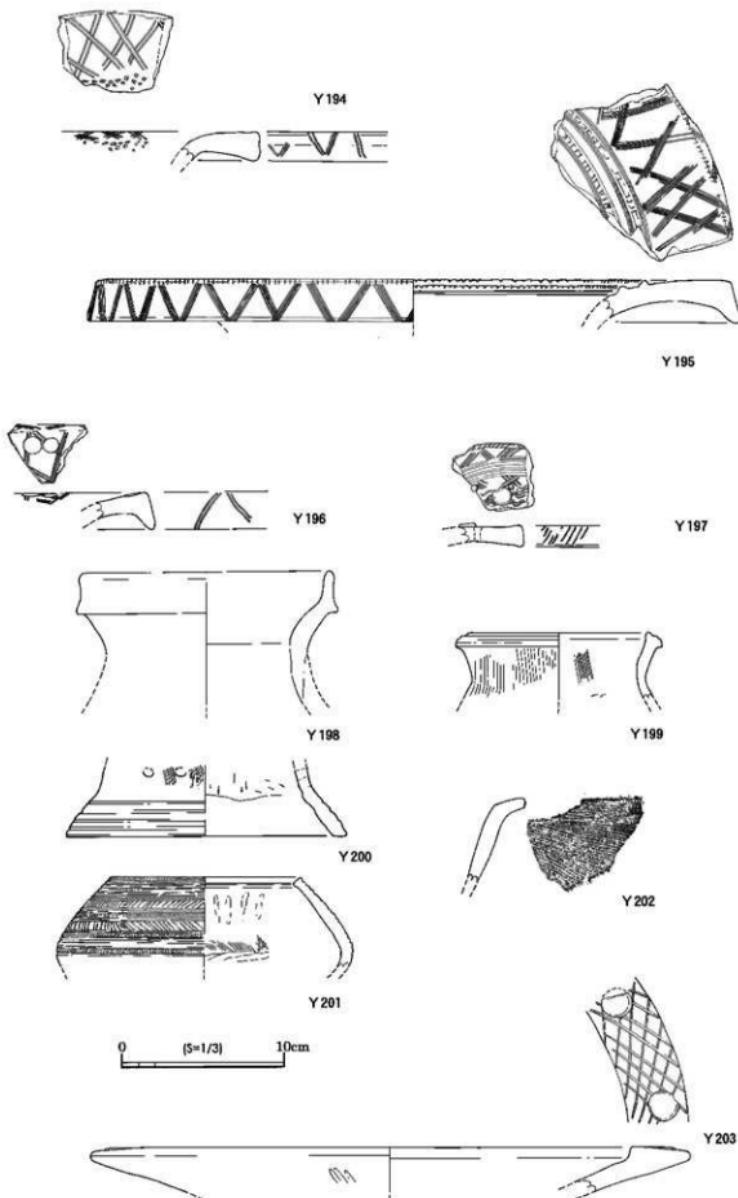
第79図 包含層出土弥生土器⑰ (IV区7層、Y21グリッド)



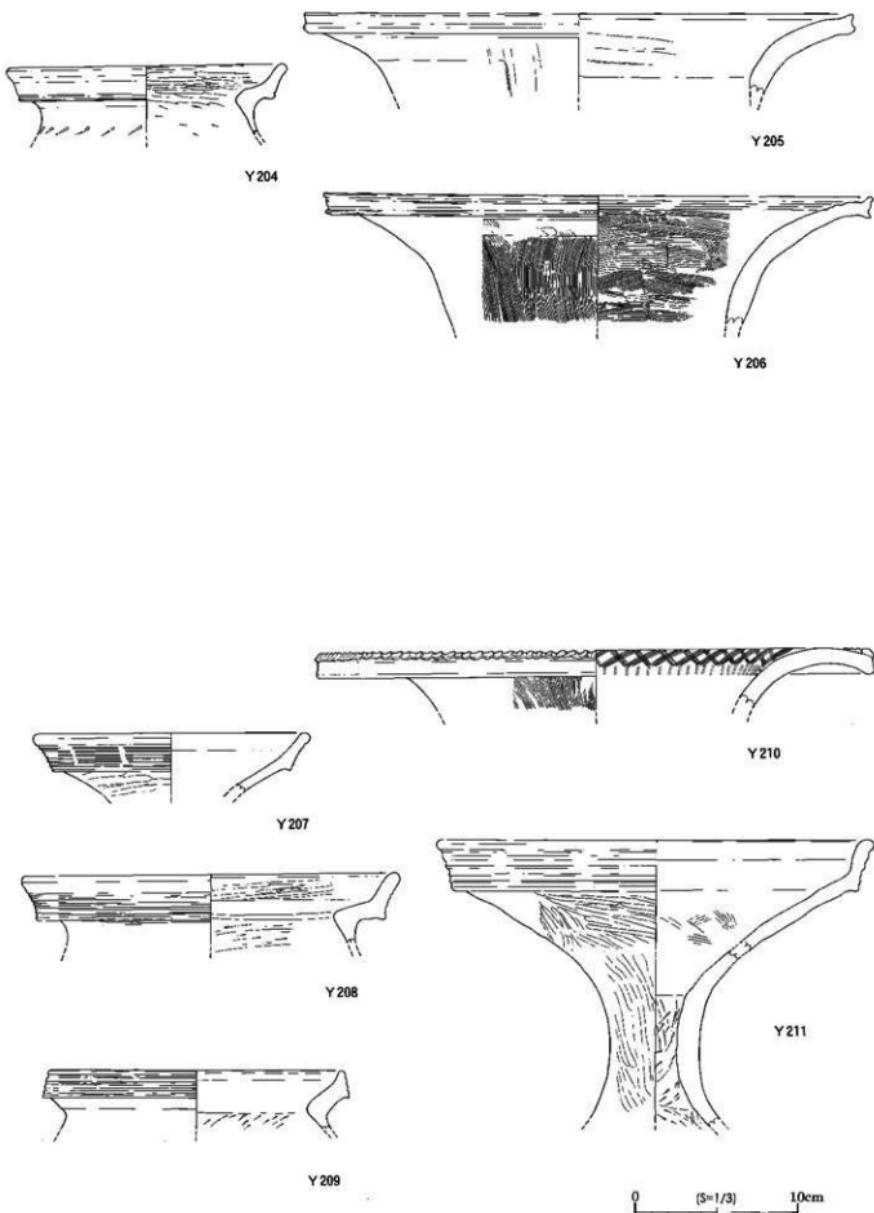
第80図 包含層出土弥生土器⑩ (IV区7層、Z19、Z21)



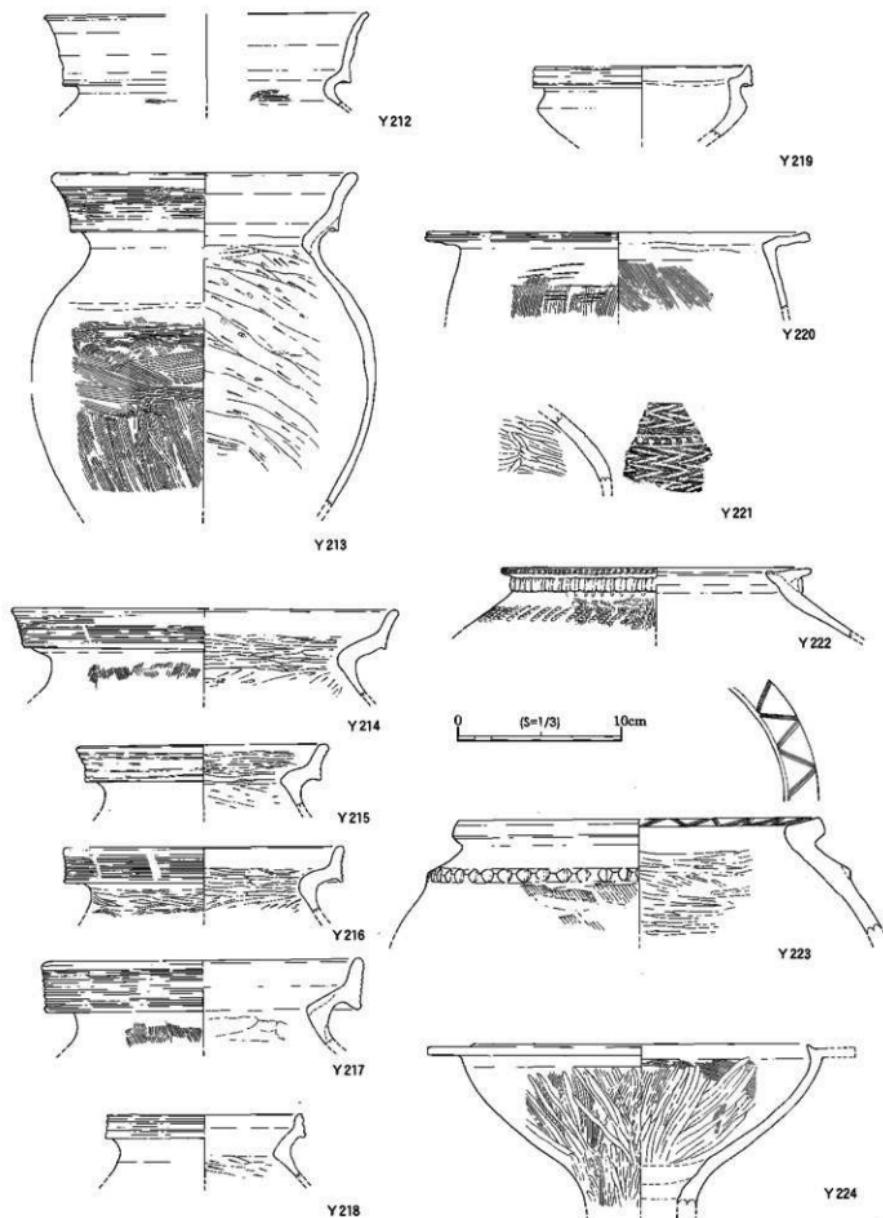
第81図 包含層出土弥生土器⑩ (IV区6層、X21グリッド)



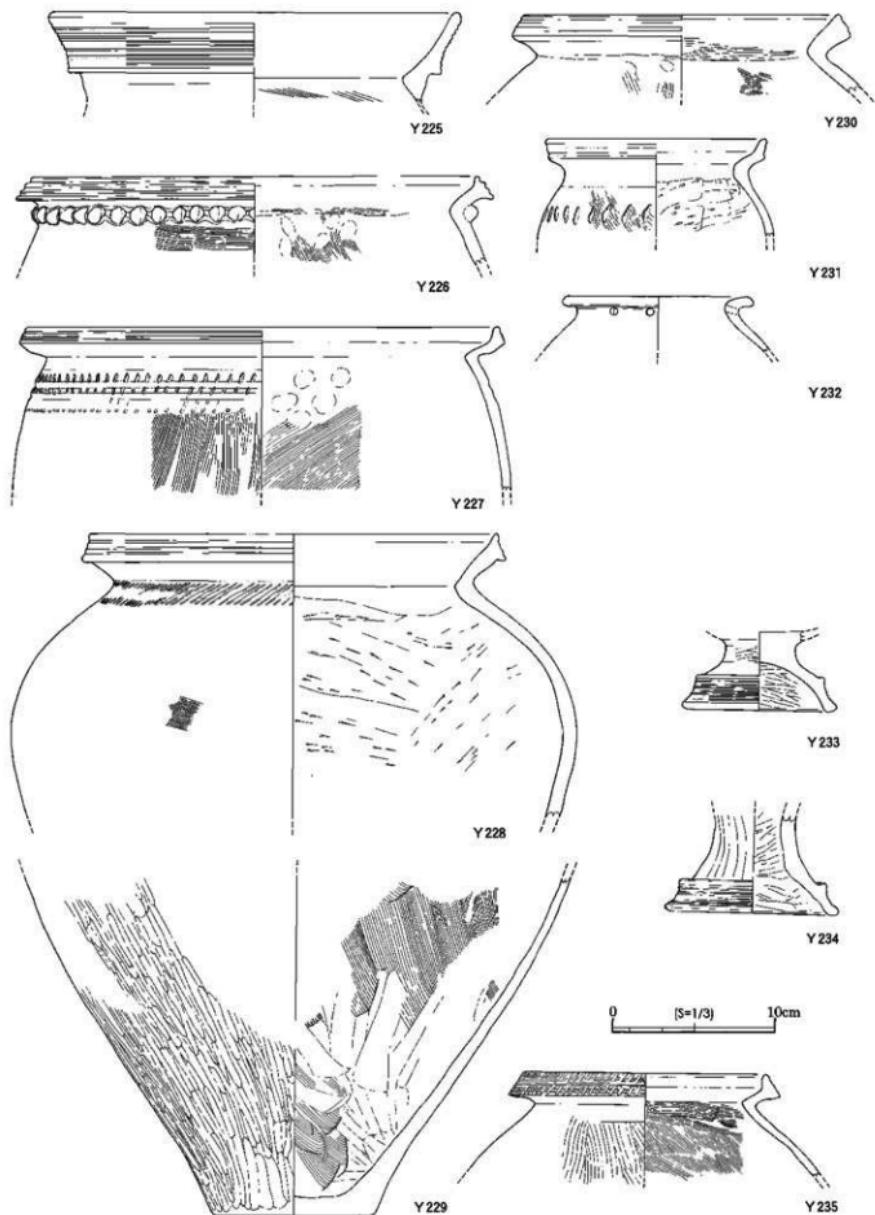
第82図 包含層出土弥生土器② (IV区6層、X21グリッド)



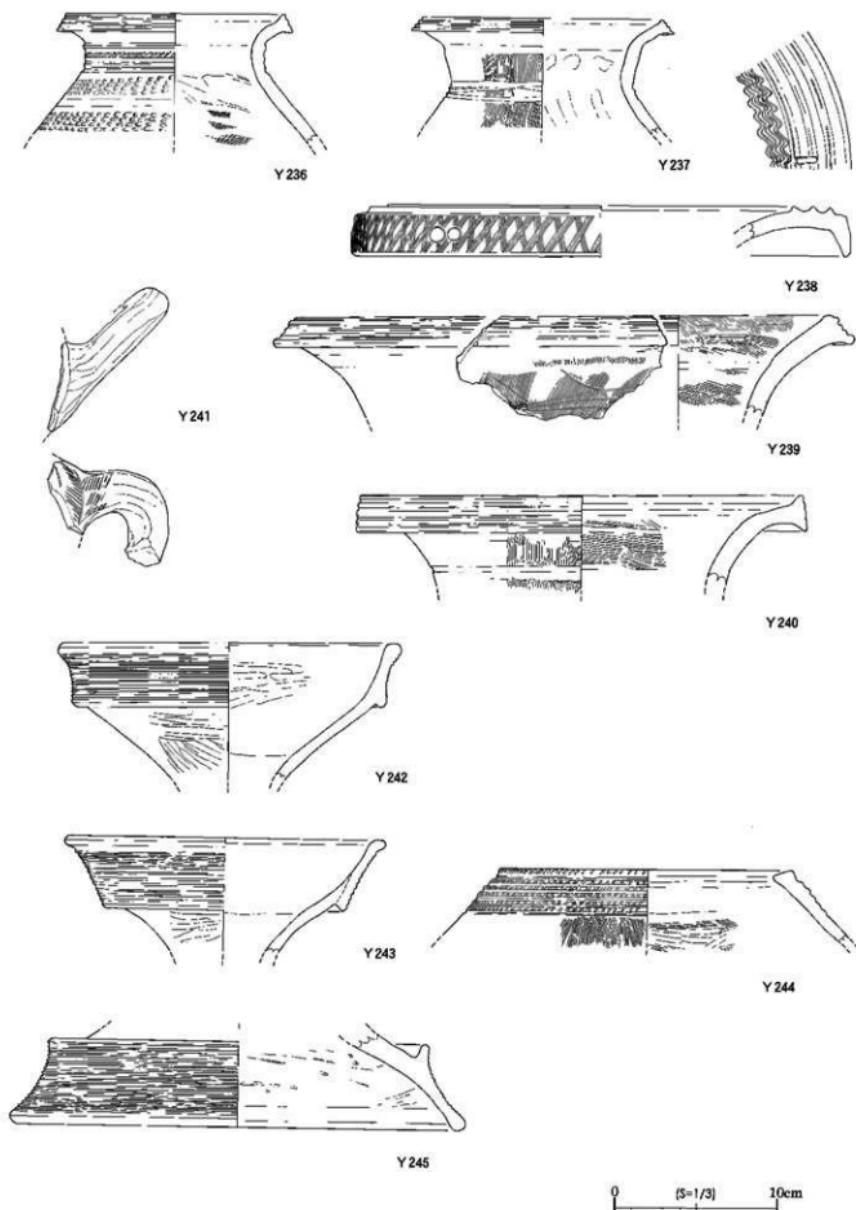
第83図 包含層出土弥生土器① (IV区6層、X21グリッド)



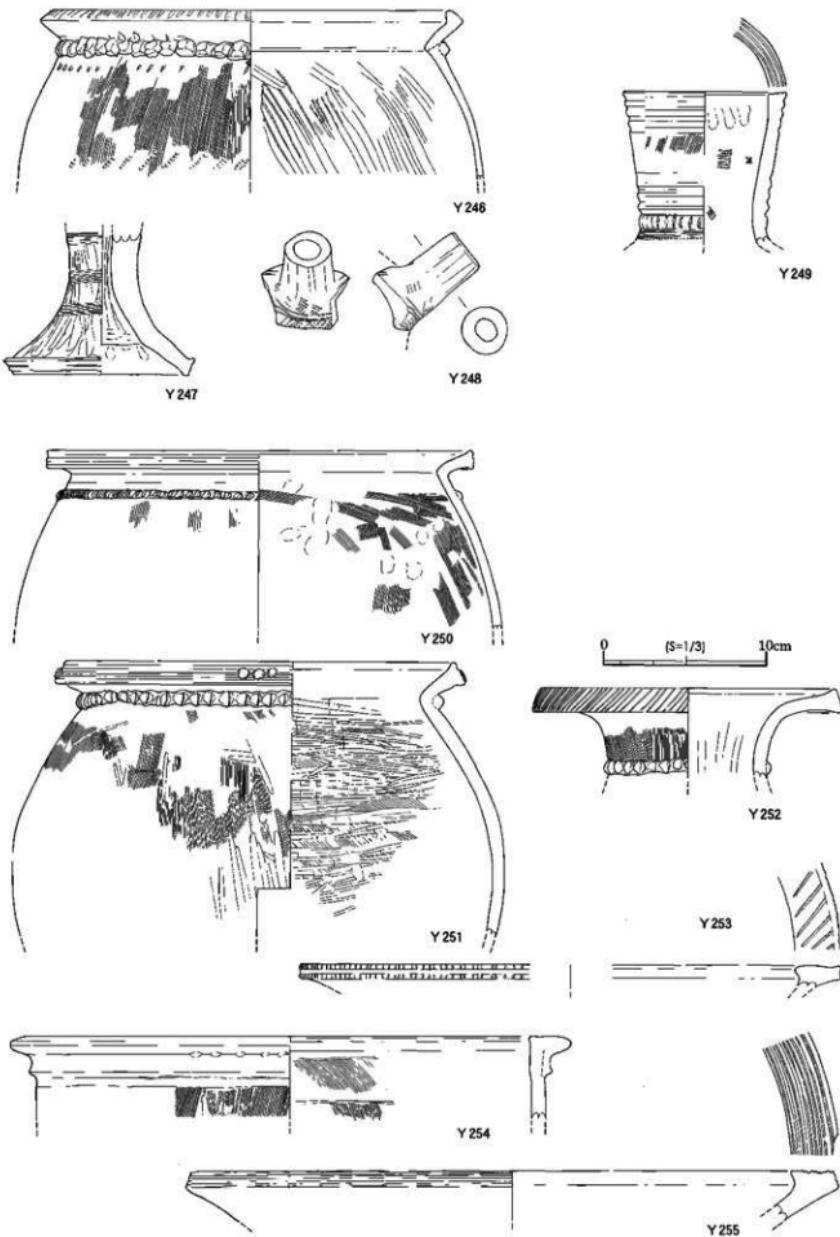
第84図 包含層出土弥生土器② (IV区6層、X21グリッド)



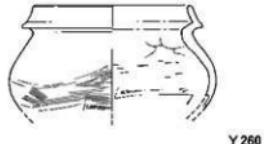
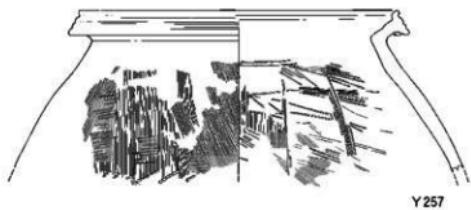
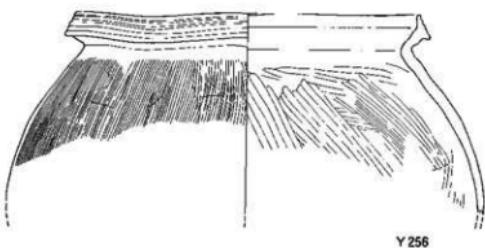
第85図 包含層出土弥生土器②(IV区6層、Y21グリッド)



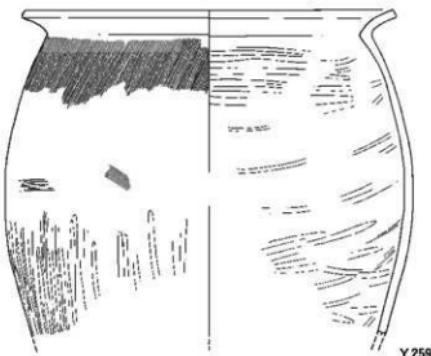
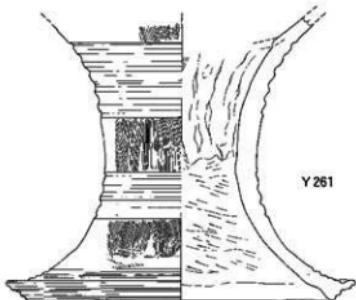
第86図 包含層出土弥生土器⑥ (IV区6層、Y21グリッド)



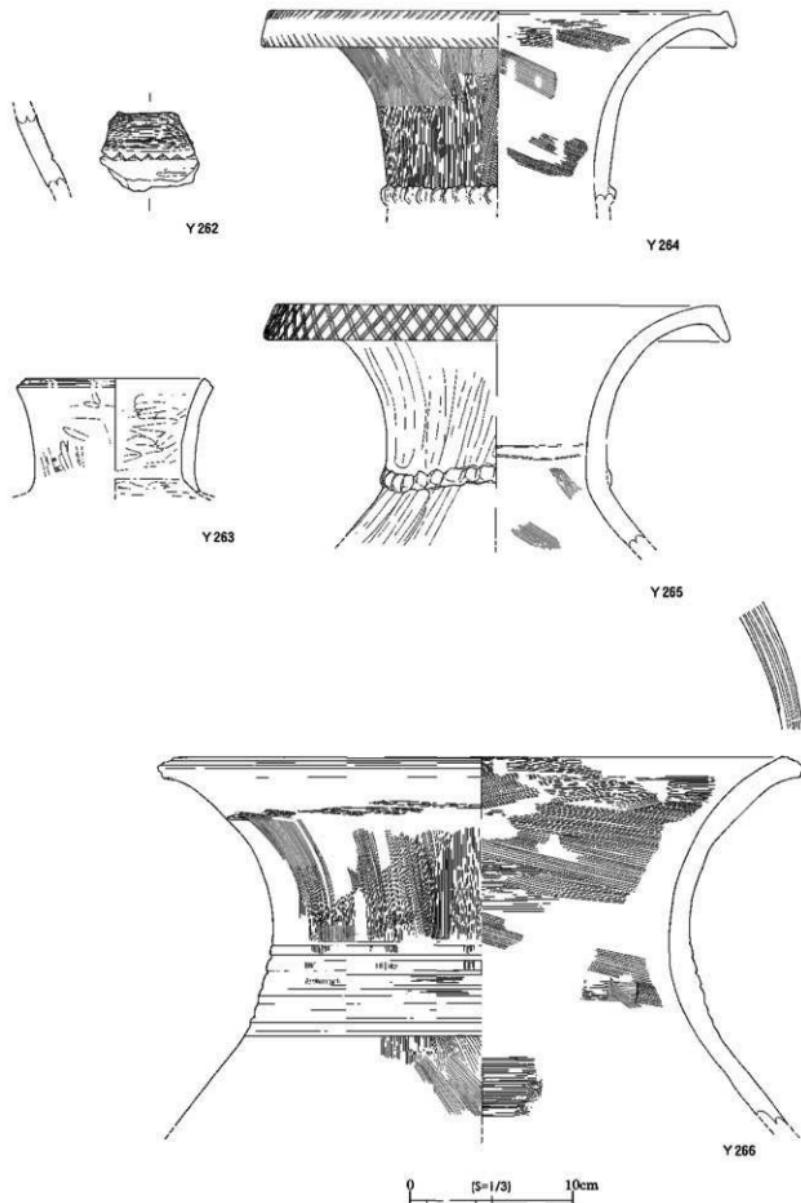
第87図 包含層出土弥生土器② (IV区6層、Y20、Z19グリッド)



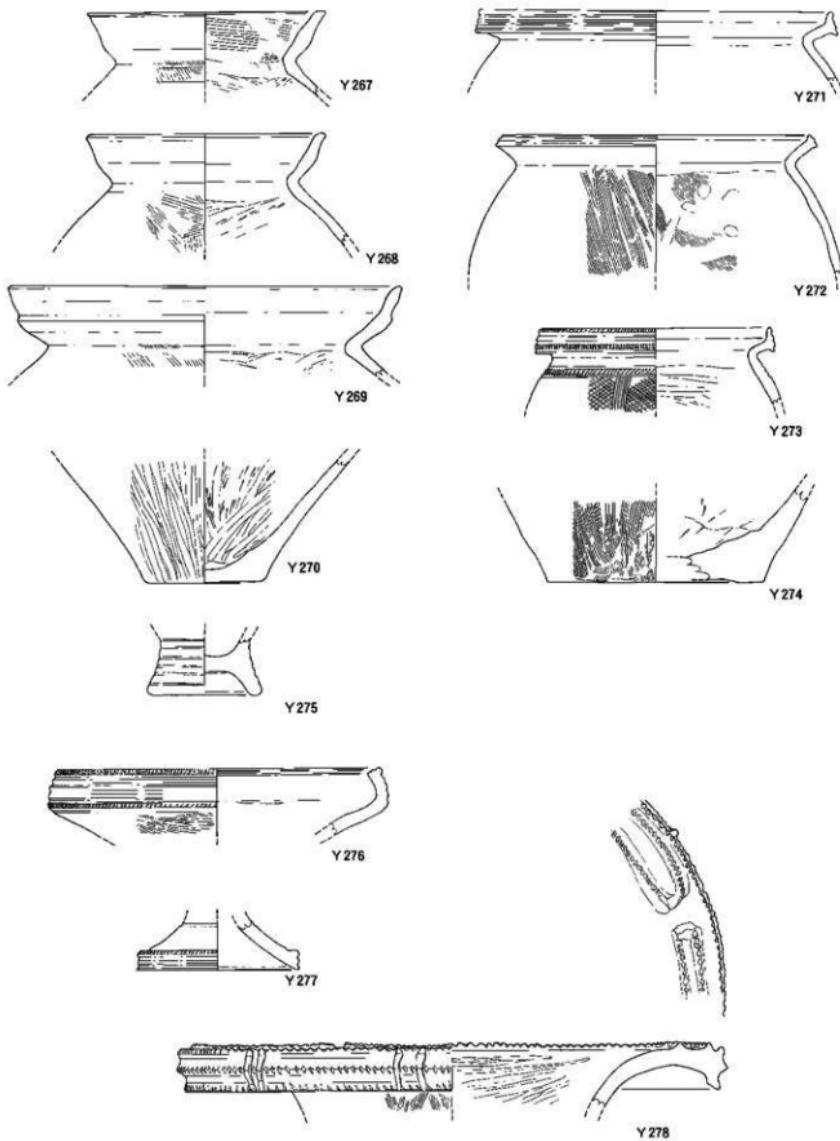
0 (5=1/3) 10cm



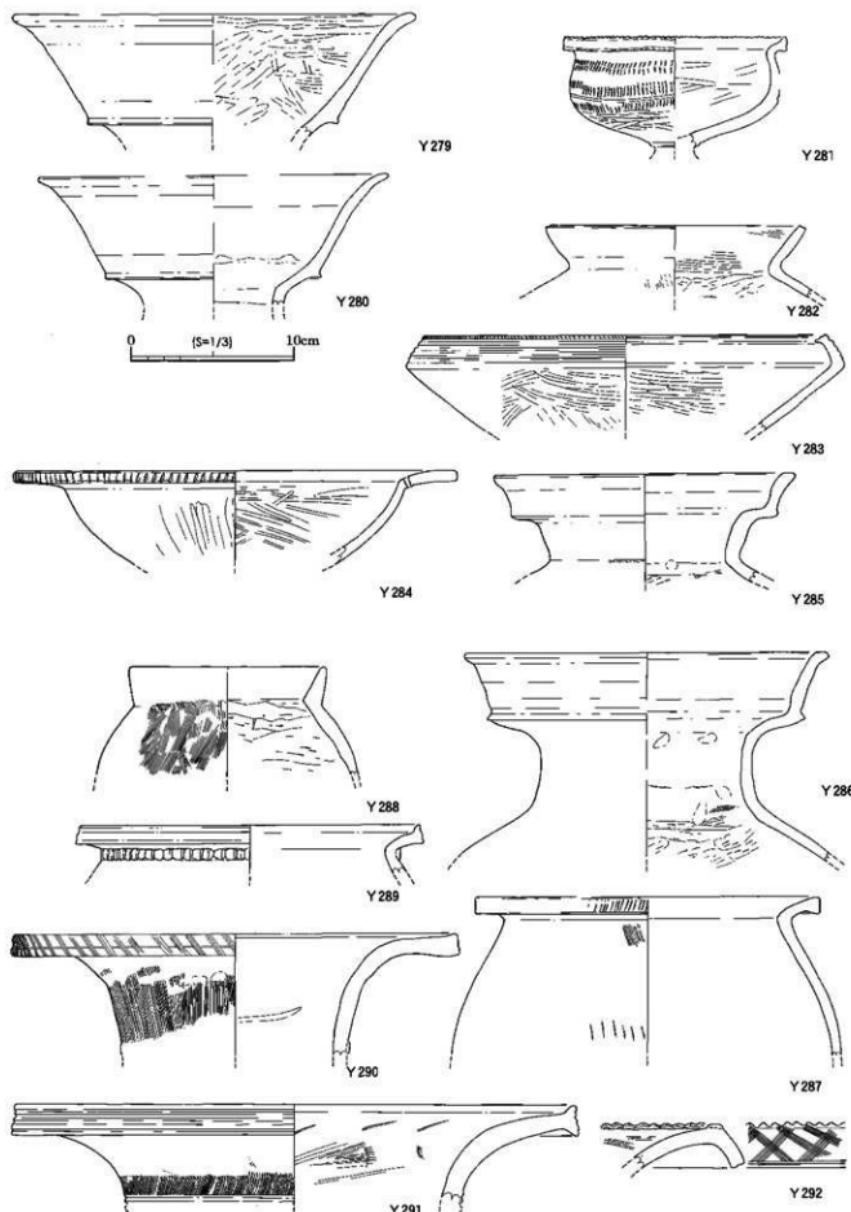
第88図 包含層出土弥生土器⑥(IV区6層、Z20グリッド)



第89図 包含層出土弥生土器② (IV区6層、Z20グリッド)

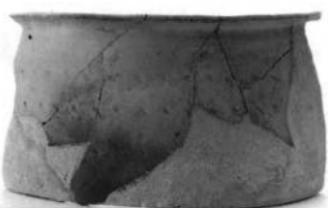


第90図 包含層出土弥生土器② (IV区6層、B21グリッド)



第91図 包含層出土弥生土器② (IV区6層)

写真図版五七
包含層出土弥生土器



Y001



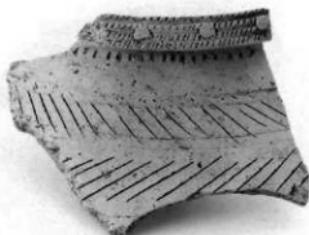
Y005



Y002



Y006



Y003



Y007



Y004



Y008

写真図版五八

包含層出土弥生土器



Y009



Y023



Y010



Y024



Y017



Y026



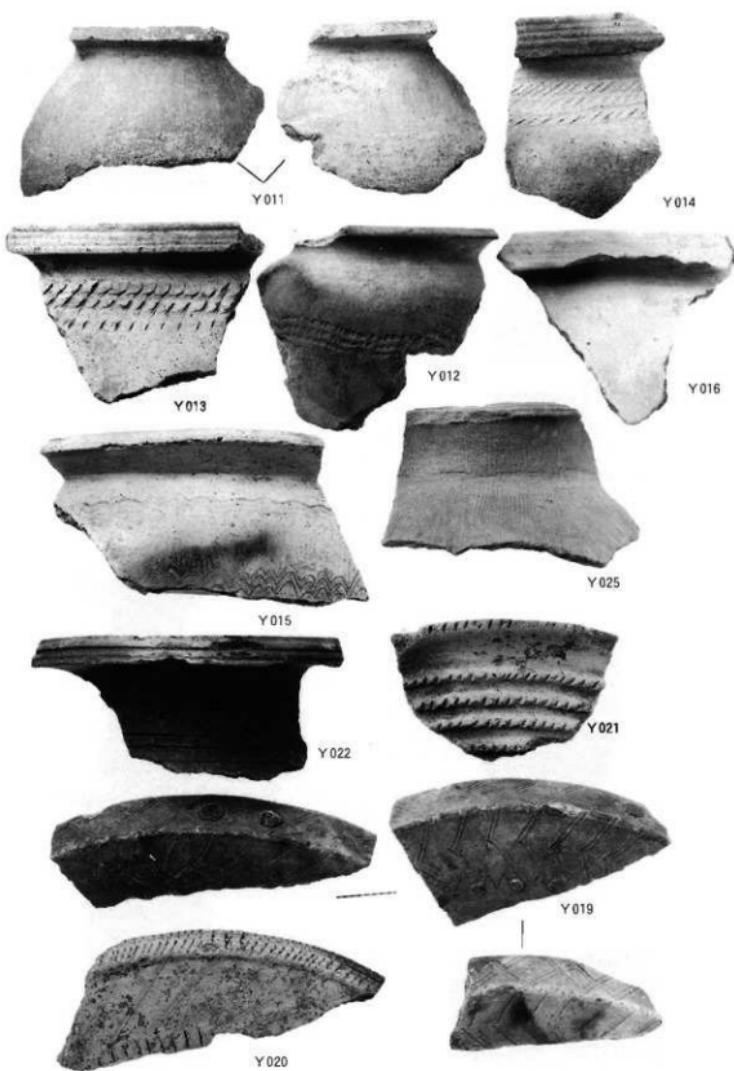
Y018



Y027

写真図版五九

包含層出土弥生土器



写真図版六〇

包含層出土
弥生土器



Y028



Y032



Y029



Y038



Y030



Y040



Y031



Y041

写真図版六一
包含層出土弥生土器



Y042



Y046



Y044



Y047



Y033



Y034



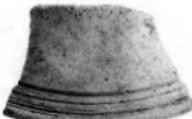
Y035



Y036



Y038



Y043



Y045



Y037

写真図版六一
包含層出土弥生土器



Y048



Y057



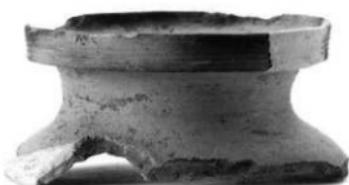
Y053



Y061



Y056



Y065



Y049

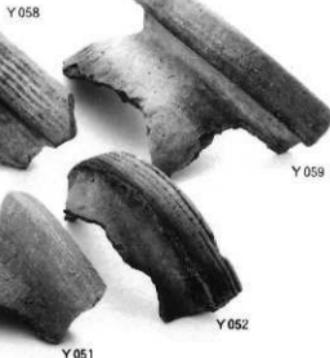
Y050



Y051

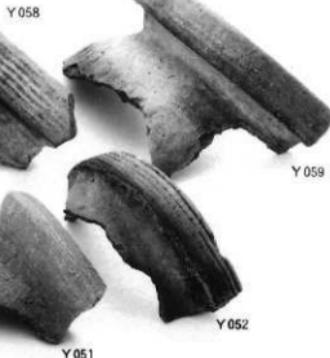
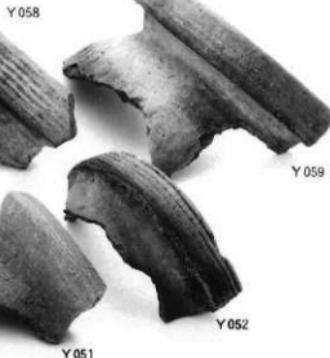
Y052

Y053



Y054

Y055



写真図版六二 包含層出土弥生土器



Y069



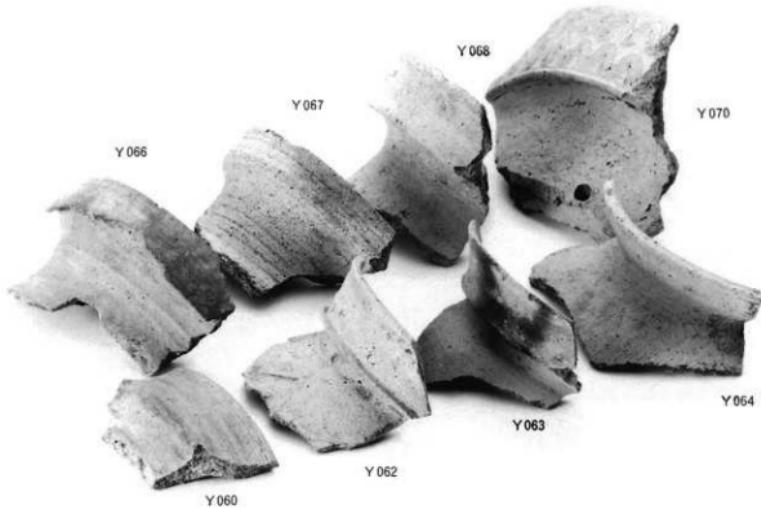
Y072



Y071



Y073



写真図版六四
包含層出土弥生土器



Y074



Y078



Y075



Y079



Y076



Y080



Y077



Y081

写真図版六五 包含層出土弥生土器



Y082



Y086



Y083



Y084



Y085



Y087

写真図版六六

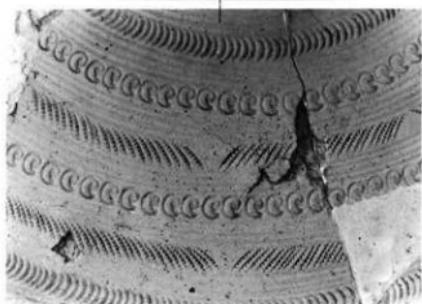
包含層出土
弥生土器



Y088



Y090



Y089



Y091



写真図版六七 包含層出土弥生土器



Y092



Y095



Y096



Y097



Y093



Y094



写真図版六八

包含層出土
弥生土器



Y098



Y102



Y099



Y103



Y100



Y104



Y101



Y105

写真図版六九 包含層出土弥生土器



Y106



Y109



Y107



Y110



Y108



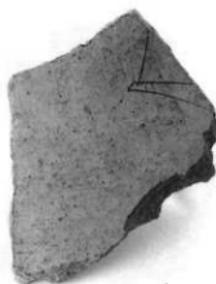
Y111



Y112

写真図版七〇

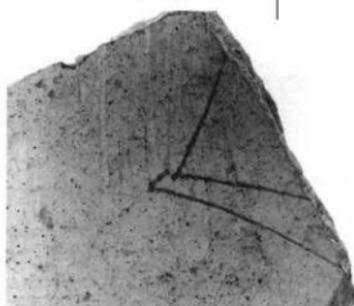
包含層出土
弥生土器



Y113



Y127



Y128



Y126



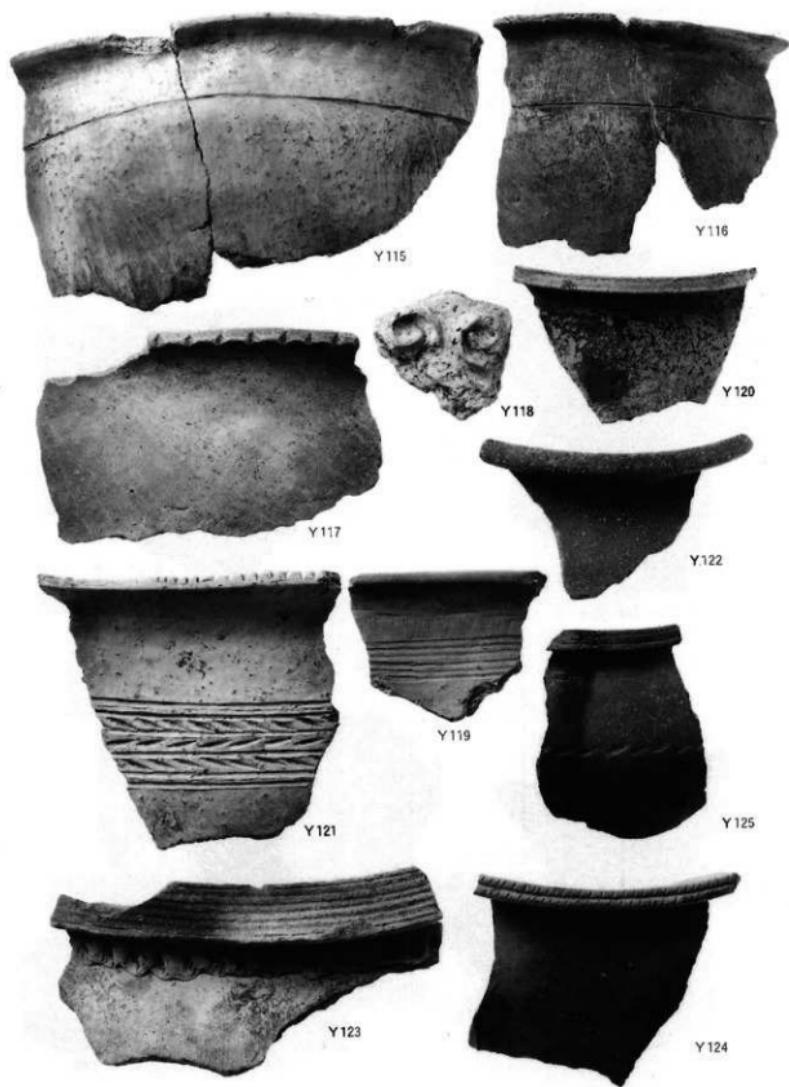
Y129



Y130



写真図版七一 包含層出土弥生土器



写真図版七一
包含層出土弥生土器



Y133



Y137



Y132



Y131



Y134



Y135



Y136

写真図版七三 包含層出土弥生土器



Y138



Y146



Y142



Y147



Y148



Y139



Y140



Y143



Y141



Y144



Y145

写真図版七四
包含層出土弥生土器



Y149



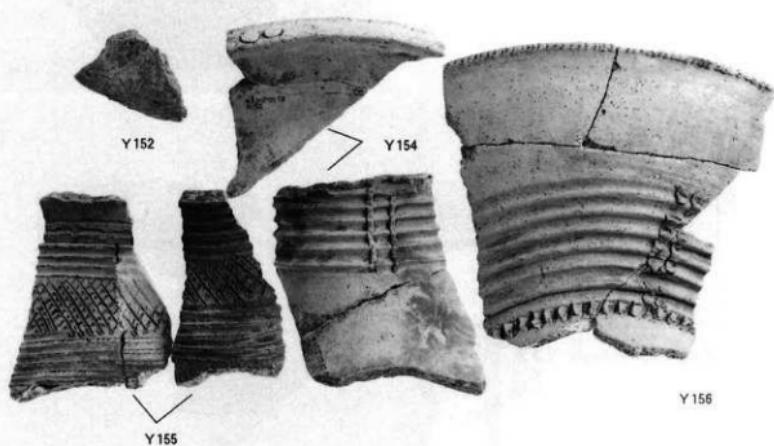
Y151



Y150



Y153



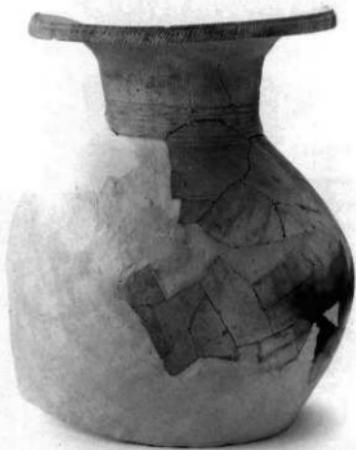
写真図版七五 包含層出土弥生土器



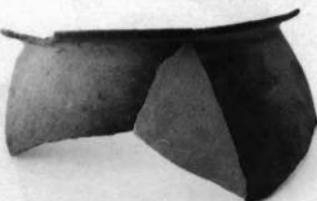
Y160



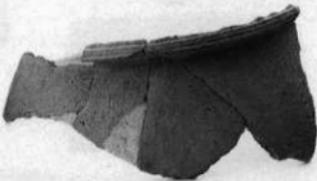
Y165



Y162



Y166



Y170

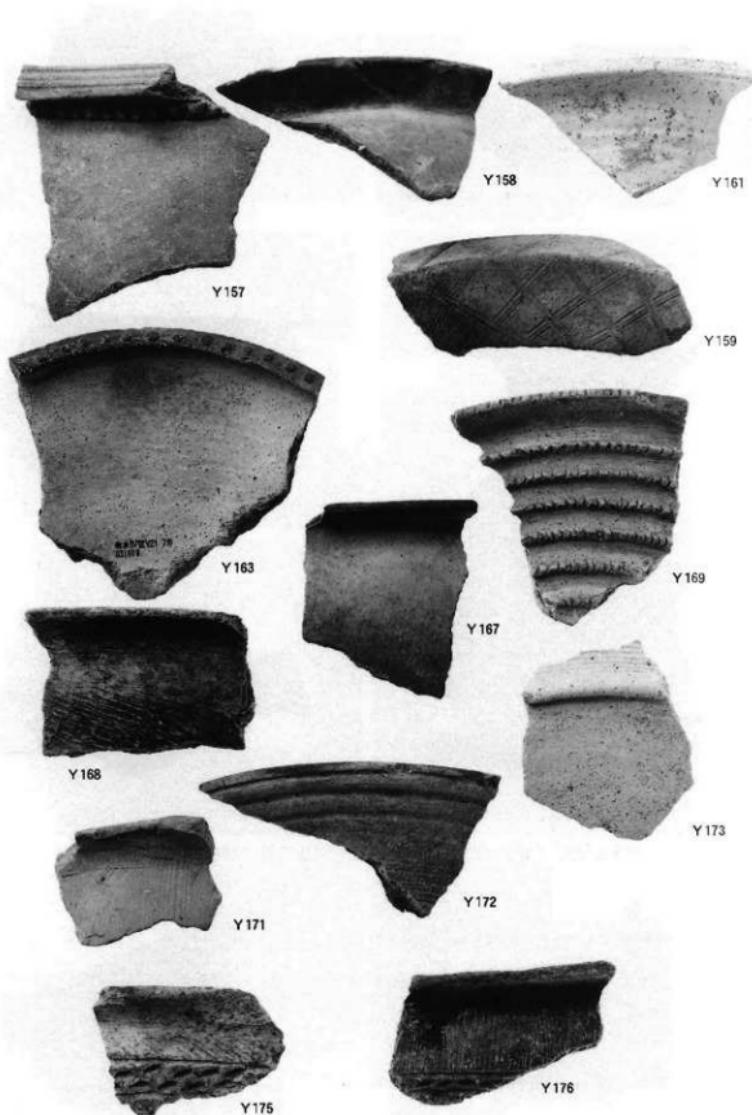


Y164



Y174

写真図版七六
包含層出土弥生土器



写真図版七七 包含層出土弥生土器

